

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
特別研究 I	Special Research I
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
	4
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
通年	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81509125
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	各指導教員	人文社会科学部	
2			
3			
4			
5			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

研究計画に基づく研究の個別指導

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

研究の集大成にむけて:1年目の準備段階

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

総合高知研究

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業では、個別の研究テーマに関する指導を、通年で行う。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	自らの研究テーマについて、これまで理解していることをベースに、新たに理解したことを説明できる。
2	自らの研究テーマについて、自身の立場から批判的に考察することができる。
3	自らの研究テーマについての最新の研究動向を意欲的に摂取し、その内容を1つ以上説明できる。
4	自らの研究テーマについての自身の立場を的確に表現し、他者と議論することができる。
5	

キーワード【KEYWORD】

人文科学・社会科学・研究計画・専門的知識

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

自らの研究テーマに対する関心と研究を遂行する意欲

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	—	
	授業内容	オリエンテーション 本授業の狙いと進め方についての説明。	
第2回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画の精査 個別研究に向けた検討・議論を行う	
第3回	担当教員	—	
	授業内容	研究全体の概要の検討 個別研究の計画を見直し、より確かなものにする	
第4回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第5回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第6回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第7回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第8回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第9回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第10回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第11回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第12回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第13回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第14回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第15回	担当教員	—	
	授業内容	中間レポートの作成 中間レポートの作成についての指導	
第16回	担当教員	—	
	授業内容	プレ中間発表会 指導教員の下で行われるプレ中間発表会に参加する	
第17回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第18回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第19回	担当教員	—	
	授業内容	研究計画に基づき、個別研究指導を行う	
第20回	担当教員	—	
	授業内容		

第20回	授業内容		研究計画に基づき、個別研究指導を行う
第21回	担当教員	—	
	授業内容		研究計画に基づき、個別研究指導を行う
第22回	担当教員	—	
	授業内容		研究計画に基づき、個別研究指導を行う
第23回	担当教員	—	
	授業内容		研究計画に基づき、個別研究指導を行う
第24回	担当教員	—	
	授業内容		研究計画に基づき、個別研究指導を行う
第25回	担当教員	—	
	授業内容		研究計画に基づき、個別研究指導を行う
第26回	担当教員	—	
	授業内容		研究計画に基づき、個別研究指導を行う
第27回	担当教員	—	
	授業内容		研究計画に基づき、個別研究指導を行う
第28回	担当教員	—	
	授業内容		研究計画に基づき、個別研究指導を行う
第29回	担当教員	—	
	授業内容		研究計画に基づき、個別研究指導を行う
第30回	担当教員	—	
	授業内容		研究計画に基づき、個別研究指導を行う
第31回	担当教員	—	
	授業内容		1年時最終レポートの作成 最終レポートの作成についての指導
第32回	担当教員	—	
	授業内容		人文社会科学専攻 修士論文発表会 修士論文発表会に参加し、議論を行う。

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

関連文献の検討、報告準備

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

担当教員の指示に従うこと

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	50
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	50
その他	

【成績評価に関する補足】

・授業への参画・報告: 50%
 ・レポート提出: 50%

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考えなどが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
各指導教員	未定	未定	各指導教員の研究室

【オフィスアワーに関する補足】

各教員に確認すること

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
西洋近代思想論特論	Modern European Philosophy (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A01	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81510171
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	佐野 泰之	人文社会科学部	y-sano@kochi-u.ac.jp

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

「実存主義」再考

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Rethinking "Existentialism"

授業の目的【COURSE AIMS】

実存主義について学ぶ。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

20世紀フランスにおける「実存主義」運動の展開を辿り、その今日的意義について考察する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	実存主義の担い手となった哲学者たちの経歴や思想の概要を説明することができる。
2	実存哲学及び実存主義の歴史的展開を説明することができる。
3	実存主義の知見を活かして今日の社会や学問について独自の考察をすることができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

哲学、西洋哲学、実存哲学、実存主義

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

西洋哲学史の基礎的知識をもっていること。
また、ドイツ語やフランス語について初級レベルの知識があることが望ましい(必須ではない)。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	イントロダクション	
第2回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	実存主義前史(1)	
第3回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	実存主義前史(2)	
第4回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	実存主義前史(3)	
第5回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	実存主義前史(4)	
第6回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	サルトルの思想(1)	
第7回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	サルトルの思想(2)	
第8回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	サルトルの思想(3)	
第9回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	メルロ = ポンティの思想(1)	
第10回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	メルロ = ポンティの思想(2)	
第11回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	メルロ = ポンティの思想(3)	
第12回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	ボーヴォワールの思想(1)	
第13回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	ボーヴォワールの思想(2)	
第14回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	ボーヴォワールの思想(3)	
第15回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	まとめ	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

授業中に紹介された参考文献を自主的に読む。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書は無い。
参考書は授業中に適宜紹介する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	100
その他	

【成績評価に関する補足】

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
佐野 泰之	木曜	5 限	人文社会科学部棟504

【オフィスアワーに関する補足】

事前にメールでアポイントを取ってください。

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
西洋近代思想論演習	Modern European Philosophy (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A02	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81515121
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	佐野 泰之	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

メルロ＝ポンティを読む

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Reading Merleau-Ponty

授業の目的【COURSE AIMS】

哲学書を読み解く能力を身につける。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

メルロ = ポンティ『知覚の現象学』を講読する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	訳を参考にしながらも、原典でメルロ = ポンティのテキストを読むことができる。
2	哲学書の内容を正確に理解し、議論することができる。
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

哲学、西洋哲学、メルロ = ポンティ

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

フランス語が読めることが望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	イントロダクション	
第2回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	テキストの講読(1)	
第3回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	テキストの講読(2)	
第4回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	テキストの講読(3)	
第5回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	テキストの講読(4)	
第6回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	テキストの講読(5)	
第7回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	テキストの講読(6)	
第8回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	テキストの講読(7)	
第9回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	テキストの講読(8)	
第10回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	テキストの講読(9)	
第11回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	テキストの講読(10)	
第12回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	テキストの講読(11)	
第13回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	テキストの講読(12)	
第14回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	テキストの講読(13)	
第15回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	テキストの講読(14)	
第16回	担当教員	佐野 泰之	
	授業内容	まとめ	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

テキストの指定箇所を事前に読んでくる。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

【教科書】モーリス・メルロ＝ポンティ『知覚の現象学1』(みすず書房、1967年)／『知覚の現象学2』(みすず書房、1974年)

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	100
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	

【成績評価に関する補足】

「学習意欲・授業参加度」は事前の予習や講読への取り組みを評価する。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
佐野 泰之	木曜	5 限	人文社会科学部棟504

【オフィスアワーに関する補足】

事前にメールでアポイントを取ってください。

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
言語文法論特論 I	Syntax (Advanced I)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A21	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81511371
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	西尾 美穂	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

認知言語学の基礎

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

認知言語学の基本概念を理解する

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

認知言語学の基本概念を理解する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	英語の文献の読み方を身につける。
2	認知言語学の基本概念を理解する。
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

認知言語学、基本概念

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

言語学と英文法の基礎知識、および学術的論文を読みこなせる英文読解力

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	授業方法の説明と準備	
第2回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	Introduction	
第3回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	Conceptual and Historical Background(1)	
第4回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	Conceptual and Historical Background(2)	
第5回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	Conceptual and Historical Background(3)	
第6回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	Conceptual Underpinnings and Methodology(1)	
第7回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	Conceptual Underpinnings and Methodology(2)	
第8回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	Conceptual Underpinnings and Methodology(3)	
第9回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	Case Studies (1)	
第10回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	Case Studies (2)	
第11回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	Case Studies (3)□	
第12回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	Expansions and Newer Directions(1)	
第13回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	Expansions and Newer Directions(2)	
第14回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	Expansions and Newer Directions(3)	
第15回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	Conclusions	
第16回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	レポートの発表	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

テキストを精読すること、週4時間以上の予習・復習を要する。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Cognitive Linguistics for Linguists, Winters, M.E. and Nathan G. S., Springer.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	50
その他	50

【成績評価に関する補足】

発表 50% + レポート 50%

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィサー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
西尾 美穂	木曜	3限	人文社会科学部棟 3階 309室

【オフィサーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
言語文法論演習 I	Syntax (Seminar I)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A22	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81516321
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	西尾 美穂	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

認知言語学と英語

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

認知言語学による英文法の研究

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

認知言語学の基本概念を理解した上で、英文法に対する認知言語学的な考え方を身につけ、与えられた分析を批判的に検討する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	英語の文献の読み方を身につける。
2	認知言語学の基本概念を理解する。
3	英文法に対する認知言語学的な考え方を理解する。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

認知言語学、英語

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

言語学と英文法の基礎知識、および学術的論文を読みこなせる英文読解力

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	授業方法の説明と準備□	
第2回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	Categories in thought and language	
第3回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	Cognitive operations in thought and language	
第4回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	From thought to language: Cognitive Grammar	
第5回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	Types of things: Nouns	
第6回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	Grounding things: Reference	
第7回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	Quantifying things: Quantifiers	
第8回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	Qualifying things: Modifiers	
第9回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	Situation types: Aspect	
第10回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	Grounding situations in time: Tense	
第11回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	Grounding situations in potentiality: Modality□	
第12回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	Event schemas: Sentence patterns	
第13回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	Space and extensions of space: Complements and adjuncts	
第14回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	期末レポートの作成計画	
第15回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	期末レポートの作成	
第16回	担当教員	西尾 美穂	
	授業内容	期末レポートの発表	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

テキストを精読すること、自分で言語資料を集めテキストの分析を批判的に検討すること。週4時間以上の予習・復習を要する。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Cognitive English Linguistics, Radden, G. and R. Dirven, John Benlamins

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	50
その他	50

【成績評価に関する補足】

平常点(発表等)50%、レポート50%

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
西尾 美穂	木曜	3限	人文社会科学部棟 3階 309室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
発達心理学特論 I	Developmental Psychology (Advanced I)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A25	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81512171
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	渡邊 ひとみ	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

青年期からのアイデンティティ発達の理解

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

本授業では、(1)アイデンティティや自己の形成過程を認知的、社会的、感情的、そして文化的側面から捉え、アイデンティティ形成がどのような心的作業であるのかを理解すること、(2)アイデンティティの研究法について学び、自らの研究立案にその知識を応用するスキルを身につけること、を目的とする。

また、最新の研究知見を踏まえながら、青年期に確立されるアイデンティティがその後の成人期、中年期、高齢期を通してどのように発達的变化をとげるのかを議論し学ぶことを目的とする。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

発達心理学演習 I

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業では、アイデンティティ及び自己形成に関する最新の研究知見を学び、アイデンティティ形成のプロセス、理論、研究法等について議論する。また、青年期から高齢期までのライフストーリーの構築や変化を学ぶことで、自他の発達をより深く理解する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	アイデンティティ発達を認知的、社会的、感情的、そして文化的視点から包括的に理解することができる。
2	アイデンティティ形成自体がどのような心的作業であるのかを理解することができる。
3	青年期から高齢期にかけてのアイデンティティの発達の变化を説明することができる。
4	アイデンティティの測定法を理解し、自らの研究にその知識を応用することができる。
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

アイデンティティ、自己、自伝的推論、過去の出来事、benefit-finding、地位理論、青年期、成人期、中年期、高齢期

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

・発達心理学はもちろんのこと、心理学全般における基礎知識を有していることが望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明	
第2回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	アイデンティティとは アイデンティティの定義や成り立ち、特徴について概説する。	
第3回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	アイデンティティ形成と自伝的推論 アイデンティティ形成の基礎となる自伝的推論について講義する。	
第4回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	アイデンティティ形成と過去の出来事の記憶 どのように過去の経験から「自分らしさ」が形成されていくのかを解説する。	
第5回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	benefit-findingとは 過去の出来事への意味づけ作業であるbenefit-findingについて概説する。	
第6回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	アイデンティティ形成とbenefit-finding 過去の出来事にどのような意味を見出すことがアイデンティティ形成を促進するのかを議論する。	
第7回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	アイデンティティ形成と感情 どのような感情を伴う過去の経験が自分らしさの形成に寄与するのかを概説する。	
第8回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	社会的及び文化的視点からみたアイデンティティ アイデンティティ形成に影響を及ぼす対人関係及び環境的要因について検討する。	
第9回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	アイデンティティとジェンダー ジェンダーや性役割とアイデンティティとの関連について検討する。	
第10回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	アイデンティティ理論: Marciaの地位理論とその限界 地位理論によるアイデンティティ研究とその問題点及び解釈の限界について議論する。	
第11回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	アイデンティティ理論: van Hoofの理論とその限界 アイデンティティを2層構造で捉えるvan Hoofの理論について議論する。	
第12回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	アイデンティティの発達プロセス: 青年期 青年期のアイデンティティ形成及び発達プロセスについて議論する。	
第13回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	アイデンティティの発達プロセス: 成人期 成人期においてアイデンティティがどのように変化及び発達するのかを検討する。	
第14回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	アイデンティティの発達プロセス: 中年期及び高齢期 中年期及び高齢期にかけて、アイデンティティがどのように変化し、統合されていくのかを検討する。	
第15回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	総括 第14回までの授業について、総合ディスカッションを行う。	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

各講義の予習および復習を行う。また、各テーマごとに、発表及びディスカッションを行うため、発表のための資料収集やプレゼンテーションのための準備も必要となる。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

【教科書】 特になし
 【参考書】 講義中に適宜紹介する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	50
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	50
その他	

【成績評価に関する補足】

本授業は、授業への参加度およびレポートにより、本授業目標(①～④)への到達度を総合的に評価する。
 【授業への参加度(50%)】 授業での発表内容及びディスカッションへの積極的な参加を評価する。
 【レポート(50%)】 学期末のレポート課題内容を評価する。
 ※ なお、本授業への出席が3分の2に満たない場合、また特別な理由なくレポート課題が提出されない場合は、評価対象外とする。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
渡邊 ひとみ	月曜	5限	人文社会科学部棟4F 渡邊研究室

【オフィスアワーに関する補足】

--

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
発達心理学演習 I	Developmental Psychology (Seminar I)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A26	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81517121
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	渡邊 ひとみ	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

アイデンティティ発達研究(主として、青年期及び成人期)の批判的検討

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

本演習では、アイデンティティ研究の近年の動向を踏まえた上で、最新の研究知見を理解することを目的とする。
また、アイデンティティや自己に関する研究知見を学び理解した上で、その知識をベースに自身の研究テーマを見つけ、研究計画を立案することを目的とする。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

発達心理学特論 I

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本演習では、アイデンティティに関する学術論文を批判的に講読し、先行研究の問題点や課題、また今後の研究の方向性について議論する。さらに、上述の議論を踏まえ、自らの研究テーマを決め、研究計画の立案及び精緻化を行う。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	近年のアイデンティティ研究の動向を把握することができる。
2	最新のアイデンティティ研究知見を学び、アイデンティティ形成についての理解を深めることができる。
3	先行研究知見をベースに自身の研究テーマを見つけ、研究計画を立案することができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

アイデンティティ、自己、測定法、研究立案、批判的思考

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・発達心理学はもちろんのこと、心理学全般における基礎知識を有していることが望ましい。
- ・英語文献の講読スキルを有していることが望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明	
第2回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	アイデンティティ研究の概説 近年のアイデンティティ研究の動向について概説する。	
第3回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	アイデンティティ及び自己発達に関する文献の批判的検討 文献発表とディスカッション	
第4回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	アイデンティティ及び自己発達に関する文献の批判的検討 文献発表とディスカッション	
第5回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	アイデンティティ及び自己発達に関する文献の批判的検討 文献発表とディスカッション	
第6回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	アイデンティティ及び自己発達に関する文献の批判的検討 文献発表とディスカッション	
第7回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	アイデンティティ及び自己発達に関する文献の批判的検討 文献発表とディスカッション	
第8回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	アイデンティティ及び自己発達に関する文献の批判的検討 文献発表とディスカッション	
第9回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	アイデンティティの測定法：量的測定法 アイデンティティの状態や確立度を量的に測定する方法について概説する。	
第10回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	アイデンティティの測定法：質的測定法 ライフストーリーの視点から質的にアイデンティティを測定する方法について概説する。	
第11回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	研究計画の立案及び精緻化 研究計画案の発表とディスカッション	
第12回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	研究計画の立案及び精緻化 研究計画案の発表とディスカッション	
第13回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	研究計画の立案及び精緻化 研究計画案の発表とディスカッション	
第14回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	研究計画の立案及び精緻化 研究計画案の発表とディスカッション	
第15回	担当教員	渡邊 ひとみ	
	授業内容	総括 第14回までの授業について、総合ディスカッションを行う。	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

各講義の予習および復習を行う。また、各テーマごとに、発表及びディスカッションを行うため、発表のための資料収集やプレゼンテーションのための準備も必要となる。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

【教科書】 特になし
 【参考書】 講義中に適宜紹介する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	50
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	50
その他	

【成績評価に関する補足】

本授業は、授業への参加度およびレポートにより、本授業目標(①~③)への到達度を総合的に評価する。
 【授業への参加度(50%)】 授業での発表内容及びディスカッションへの積極的な参加を評価する。
 【レポート(50%)】 学期末のレポート課題内容を評価する。
 ※ なお、本授業への出席が3分の2に満たない場合、また特別な理由なくレポート課題が提出されない場合は、評価対象外とする。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点~100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点~89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点~79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点~69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
渡邊 ひとみ	月曜	5限	人文社会科学部棟4F 渡邊研究室

【オフィスアワーに関する補足】

--

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
感情心理学特論 I	Emotional Psychology (Advanced I)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A37	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81512771
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	日比野 桂	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

感情喚起と対処に関する心理学的検討

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・本授業のテーマは、心理学的観点から感情について理解するとともに、研究動向を批判的に捉えながら自らの研究に活かすことにある。
- ・この授業は人文科学研究コースの中で、人間の多様性について他側面から研究する「人間学領域」に属する科目である。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

感情心理学演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業のテーマは、心理学的観点から感情について理解するとともに、研究動向を批判的に捉えながら自らの研究に活かすことにある。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	感情に関する研究知見を理解し、その相違について説明することができる。
2	感情に関する研究の動向を踏まえ、新しい研究計画を立案できる
3	日常における感情の影響について心理学的な考察を行うことができる
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

心理学, 感情

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・答えのない問に対して考えを深めることができること。
- ・心理学の基礎的知見を理解していること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。発表者の決定。	
第2回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文1についての検討 発表とディスカッション	
第3回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文1についての検討 発表とディスカッション	
第4回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文1についての検討 発表とディスカッション	
第5回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文2についての検討 発表とディスカッション	
第6回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文2についての検討 発表とディスカッション	
第7回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文2についての検討 発表とディスカッション	
第8回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文3についての検討 発表とディスカッション	
第9回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文3についての検討 発表とディスカッション	
第10回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文3についての検討 発表とディスカッション	
第11回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文4についての検討 発表とディスカッション	
第12回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文4についての検討 発表とディスカッション	
第13回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文4についての検討 発表とディスカッション	
第14回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文4についての検討 発表とディスカッション	
第15回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	全体の総括 各自発表	
第16回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	総括レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・関連する文献の収集と内容理解。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

特に指定はない

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

・発表内容40%、ディスカッションへの参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。
 到達目標1および2は毎回の授業態度の中で評価する。到達目標3については授業態度に加え期末レポートにて評価する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
日比野 桂	木曜	3限	人文社会科学部棟4階420室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
感情心理学演習 I	Emotional Psychology (Seminar I)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A38	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81517721
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	日比野 桂	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

感情喚起と対処に関する心理学的検討

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・本授業のテーマは、心理学的観点から感情について理解するとともに、研究動向を批判的に捉えながら自らの研究に活かすことにある。
- ・この授業は人文科学研究コースの中で、人間の多様性について他側面から研究する「人間学領域」に属する科目である。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

感情心理学特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業のテーマは、心理学的観点から感情について理解するとともに、研究動向を批判的に捉えながら自らの研究に活かすことにある。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	感情に関する研究知見を理解し、その相違について説明することができる。
2	感情に関する研究の動向を踏まえ、新しい研究計画を立案できる
3	日常における感情の影響について心理学的な考察を行うことができる
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

心理学, 感情

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・答えのない問に対して考えを深めることができること。
- ・心理学の基礎的知見を理解していること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。発表者の決定。	
第2回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文1についての検討 発表とディスカッション	
第3回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文1についての検討 発表とディスカッション	
第4回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文1についての検討 発表とディスカッション	
第5回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文2についての検討 発表とディスカッション	
第6回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文2についての検討 発表とディスカッション	
第7回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文2についての検討 発表とディスカッション	
第8回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文3についての検討 発表とディスカッション	
第9回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文3についての検討 発表とディスカッション	
第10回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文3についての検討 発表とディスカッション	
第11回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文4についての検討 発表とディスカッション	
第12回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文4についての検討 発表とディスカッション	
第13回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	論文4についての検討 発表とディスカッション	
第14回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	研究計画の立案1 発表とディスカッション	
第15回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	研究計画の立案2 発表とディスカッション	
第16回	担当教員	日比野 桂	
	授業内容	研究計画書の作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・関連する文献の収集と内容理解。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

特に指定はない

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

・発表内容40%、ディスカッションへの参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。
 到達目標1および2は毎回の授業態度の中で評価する。到達目標3については授業態度に加え期末レポートにて評価する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
日比野 桂	木曜	3限	人文社会科学部棟4階420室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
考古学特論	Archaeology(Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B01	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	宮里 修	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

人間社会における物の役割

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Usefulness of Artifacts in Human Society

授業の目的【COURSE AIMS】

考古学原論にあたる。人文科学の一翼を担う考古学が、人間のどのような側面についての理解を深めるかを考える。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

人間社会と物の結びつきについて議論する。関連する書籍を読み議論の内容を相対化する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	必要な用語と概念を整理する。
2	歴史における時間の層を理解する。
3	人工物の具体相を理解する。
4	物の有用性の形成原理を理解する。
5	物の維持と変化に社会と歴史をみる。
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

考古学、人工物、環境、世界、関与、構造史、道具、施設、有用性、意義、価値、意味、場、構え、様式、多様化、定型化、形骸化

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

考古学概論履修相当の知識

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	オリエンテーション 授業内容の説明、打合せ	
第2回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	問題提起 人文科学と考古学について考える	
第3回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	用語の整理 物、環境、世界、社会の語を整理する	
第4回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	構造史 社会史における3つの時間を考える	
第5回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	道具と施設 物の有用性の具体的な現れ	
第6回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	物の有用性と意義 物の体験と社会に与える統一性	
第7回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	「場」と「構え」 物の有用性と対象の価値を体験する具体的な脈絡	
第8回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	物の移ろい 過去の一時持続しやがて消滅したひとつの世界	
第9回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	既往の研究との接点 3つの座標、4つの方法、様式論	
第10回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	考古学の取り組み 人文科学として、歴史学として	
第11回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	総括 人間社会における物の役割	
第12回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	『「物質性」の人類学』を読む 物性の問題系について	
第13回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	『「物質性」の人類学』を読む 感覚性の問題系について	
第14回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	『「物質性」の人類学』を読む 存在論の問題系について	
第15回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	振り返り	
第16回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	予備日	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

関連する書籍を読む。自身の研究との関連をさぐる。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

古谷嘉章・関雄二・佐々木重洋編、2017、『「物質性」の人類学』、同成社□

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

□

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	50
その他	50

【成績評価に関する補足】

平常点50点、レポート50点で評価する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
宮里 修	金曜	2限	人文社会科学部棟4階 宮里研究室(439)

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
考古学演習	Archaeology (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B02	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81525121
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	宮里 修	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

物質文化論をよむ

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

人間社会における物の役割について、関連研究書を講読し、内容を検討する。

授業の概要【COURSE SUMMARY】

Michael Brian Schiffer, 1999, "The Material Life of Human Beings", Routledge を読む。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	考古資料論の問題設定を理解する。
2	物質文化論の原則を理解する。
3	コミュニケーションと物の関係を理解する。
4	人間活動と物の関係を理解する。
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

human behavior, interpersonal communication, some first principles, a general theory of communication, basic communication processes

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

考古学概論履修相当の知識

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	オリエンテーション 打合せ	
第2回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	1 Introduction を読む	
第3回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	2 What is human behavior? を読む(その1)	
第4回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	2 What is human behavior? を読む(その2)	
第5回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	3 Artifacts and "interpersonal" communication を読む(その1)	
第6回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	3 Artifacts and "interpersonal" communication を読む(その2)	
第7回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	4 Some first principles を読む(その1)	
第8回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	4 Some first principles を読む(その2)	
第9回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	5 A general theory of communication を読む(その1)	
第10回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	5 A general theory of communication を読む(その2)	
第11回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	6 Basic communication processes を読む(その1)	
第12回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	6 Basic communication processes を読む(その2)	
第13回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	7 Explaining performance を読む(その1)	
第14回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	7 Explaining performance を読む(その2)	
第15回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	振り返り	
第16回	担当教員	宮里 修	
	授業内容	予備日	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

関連する書籍を読む

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Michael Brian Schiffer, 1999, "The Material Life of Human Beings", Routledge

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	100

【成績評価に関する補足】

平常点(授業への取り組み、理解度)で評価する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
宮里 修	金曜	2限	人文社会科学部棟4階 宮里研究室(439)

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
中世日本社会史特論	Social History of Medieval Japan (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B05	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81520371
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	津野 倫明	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

おもに古文書・日記の分析を通して、織豊期の武家政治の特質を実証的かつ具体的に考究する。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

--

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	織豊期政治史に関する学術論文が理解できる。
2	古文書・日記などの史料を解釈できる。
3	古文書・日記などの史料解釈にもとづいて実証的に史実を考えることができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

室町時代、織豊政権、大名、権力構造、意思伝達

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部教育で日本史学(中世・近世)に関する科目を履修した者。日本中世後期～近世初期の概説書レベルの知識が必要。
--

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	オリエンテーション	
第2回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	公儀—毛利間の「取次」蜂須賀正勝・家政 その1	
第3回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	公儀—毛利間の「取次」蜂須賀正勝・家政 その2	
第4回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	公儀—毛利間の「取次」蜂須賀正勝・家政 その3	
第5回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	公儀—長宗我部間の「取次」蜂須賀正勝・家政 その1	
第6回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	公儀—長宗我部間の「取次」蜂須賀正勝・家政 その2	
第7回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	公儀—長宗我部間の「取次」蜂須賀正勝・家政 その3	
第8回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	公儀—毛利間の「取次」の交代 その1	
第9回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	公儀—毛利間の「取次」の交代 その2	
第10回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	秀吉死後の政局 その1	
第11回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	秀吉死後の政局 その2	
第12回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	関ヶ原合戦時の家政の行動 その1	
第13回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	関ヶ原合戦時の家政の行動 その2	
第14回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	「取次」の歴史的意義と徳川政権の成立過程 その1	
第15回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	「取次」の歴史的意義と徳川政権の成立過程 その2	
第16回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	期末試験	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

予習は配付する資料(学術論文など)・史料(古文書・日記など)を読むこと。復習は配付する資料(レジメなど)をもとに授業内容を確認すること。計週4時間程度を要する。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

山本博文『幕藩制の成立と近世の国制』など。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	20
中間試験	
中間レポート	
期末試験	80
期末レポート	
その他	

【成績評価に関する補足】

期末試験80%、学習意欲(授業への積極的な参加)20%、合計100%で評価する。
到達目標1から2については授業における学習態度で確認する。到達目標1から3については期末試験で確認する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
津野 倫明	金曜	5限	人文社会科学部棟 4F418津野研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
中世日本社会史演習	Social History of Medieval Japan (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B06	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81525321
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	津野 倫明	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

講読する史料(日本中世後期～近世初期の日記もしくは文書)にもとづいた口頭発表(史料解釈・関連事項)と議論をおこなう。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

--

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	史料(日記あるいは文書)の解釈ができる。
2	史料(日記あるいは文書)に関連する学術論文等を理解できる。
3	史料(日記あるいは文書)とこれに関連する学術論文等を前提とする議論ができる。
4	史料(日記あるいは文書)とこれに関連する学術論文等にもとづき自身の考えを発表できる。
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

日本中近世、古文書、日記、講読

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

--

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	オリエンテーション 講読史料の選定など	
第2回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その1	
第3回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その2	
第4回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その3	
第5回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その4	
第6回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その5	
第7回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その6	
第8回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その7	
第9回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その8	
第10回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その9	
第11回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その10	
第12回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その11	
第13回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その12	
第14回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その13	
第15回	担当教員	津野 倫明	
	授業内容	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その14	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

予習ではテキストとして選定した日記もしくは文書の読み、解釈を用意する。また、レポーターの場合には発表用のレジメも用意する。平均して週4時間程度を要する。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

佐藤進一『[新版]古文書学入門』など。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	60
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	40

【成績評価に関する補足】

学習意欲(授業中への積極的な参加)60%、発表の内容40%、合計100%で評価する。
到達目標1から3は授業における学習態度で確認する。到達目標4は発表時のレジメの内容で確認する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
津野 倫明	金曜	5限	人文社会科学部棟 4F418津野研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
近代日本政治史特論	History of Modern Japanese Politics (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B13	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81520771
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	小幡 尚	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

昭和戦前期の政治史を考える

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

昭和戦前期の政治史の概略を理解する。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

戦争との関連を中心に昭和戦前期の政治史を概観する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	昭和戦前期の政治史の概略を論述することができる。
2	大日本帝国憲法の構造について説明することができる。
3	満州事変からアジア・太平洋戦争までの戦史の概略を論理的に述べるることができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

日本近代史、昭和戦前期、政治史

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

高校日本史程度の基礎知識を有していることが必要である。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	ガイダンス	
第2回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	大日本帝国憲法の概略	
第3回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	政治の動向(1927-1930)	
第4回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	満州事変1	
第5回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	満州事変2	
第6回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	満州事変期の政治	
第7回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	天皇機関説事件	
第8回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	日中戦争1	
第9回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	日中戦争2	
第10回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	日中戦争期の政治	
第11回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	アジア・太平洋戦争1 開戦	
第12回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	アジア・太平洋戦争2 戦史1	
第13回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	アジア・太平洋戦争3 戦史2	
第14回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	アジア・太平洋戦争4 戦史3	
第15回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	アジア・太平洋戦争5 敗戦	
第16回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	期末試験	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

紹介する文献をガシガシ読む。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

授業内に指示する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	100
期末レポート	
その他	

【成績評価に関する補足】

期末試験の点数で評価します。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
小幡 尚	月曜	2限	小幡尚研究室(人文学部4階413)

【オフィスアワーに関する補足】

要連絡

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
近代日本政治史演習	Modern Japanese Political History (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B14	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81525721
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	小幡 尚	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

十五年戦争期(満州事変～アジア・太平洋戦争)の政治史に関する研究文献を精読する。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

--

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	研究文献を精読し、その内容を正確に把握することができる。
2	研究文献を精読し、その内容を批判的に理解することができる。
3	研究文献を精読し、その内容についてさまざま観点から検討することができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

日本近代史、政治史、満州事変、日中戦争、アジア・太平洋戦争

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

高校日本史程度の基礎知識を有していること絶対が必要である。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス。	
第2回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第3回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第4回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第5回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第6回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第7回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第8回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第9回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第10回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第11回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第12回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第13回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第14回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第15回	担当教員	小幡 尚	
	授業内容	全体の総括 各自発表	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

とにもかくにも研究文献をたくさん精読すること。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

授業内に紹介する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
小幡 尚	月曜	2限	小幡尚研究室(人文学部4階413)

【オフィスアワーに関する補足】

要連絡

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
東アジア古代歴史文化論特論	History and Culture in Ancient East Asia (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B17	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81521171
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	大櫛 敦弘	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

中国古代の社会と国家

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・本授業では、中国古代史のさまざまな分野をめぐる研究の批判的検討や史料解釈の検証を通じて、自らの研究の深化をはかってゆく。
- ・なおこの授業は、人文科学研究コースの中で、地域文化の多様性、個性、伝統性と現代性について外国史(東洋史)などに即して研究する「地域文化領域」に属する科目である。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

東アジア古代歴史文化論演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業では、中国古代の社会や国家の問題を中心として、最近の研究成果や新出史料の批判的検討をふまえて行う。あわせて参加者それぞれの問題関心に即して研究発表を随時盛り込むことを予定している。
なお、テキストなどは参加者の関心、レベルにあわせて選択する予定である。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	中国古代の社会や国家について、これまで理解していることをもとに、新たに理解したことを説明できる。
2	中国古代理史に関する研究動向を、自らの立場から批判的に考察することができる。
3	中国古代理史の最新の研究動向について、1つ以上説明できる。
4	中国古代理史の問題について、自らの見解を的確に表現し、他者と議論することができる。
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

中国古代理史、戦国秦漢、漢籍、出土文字資料

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

中国古代理史についての基礎的な理解を有していること

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。テキストの紹介、説明。進め方の相談。	
第2回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読、報告とディスカッション	
第3回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読、報告とディスカッション	
第4回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読、報告とディスカッション	
第5回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読、報告とディスカッション	
第6回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読、報告とディスカッション	
第7回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読、報告とディスカッション	
第8回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読、報告とディスカッション	
第9回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読、報告とディスカッション	
第10回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読、報告とディスカッション	
第11回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	文献3冊目の検討 輪読、報告とディスカッション	
第12回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	文献3冊目の検討 輪読、報告とディスカッション	
第13回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	文献3冊目の検討 輪読、報告とディスカッション	
第14回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	文献3冊目の検討 輪読、報告とディスカッション	
第15回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	全体の総括 各自発表	
第16回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	総括レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストの精読と報告料の作成、関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参加者と相談して決定

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40、期末レポート20%の総合評価とする。
 ・毎回の授業態度の中で1から4、とくに1と3について評価する。期末レポートにより、とくに2と4について評価する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
大櫛 敦弘	金曜	2限	人文社会科学部棟5F 大櫛研究室

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
東アジア古代歴史文化論演習	History and Culture in Ancient East Asia (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B18	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81526121
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	大櫛 敦弘	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

中国古代の社会と国家

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・本授業では、中国古代史のさまざまな分野をめぐる研究の批判的検討や史料解釈の検証を通じて、自らの研究の深化をはかってゆく。
- ・なおこの授業は、人文科学研究コースの中で、地域文化の多様性、個性、伝統性と現代性について外国史(東洋史)などに即して研究する「地域文化領域」に属する科目である。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

東アジア古代歴史文化論特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業では、中国古代の社会や国家の問題を中心として、最近の研究成果や新出史料の批判的検討をふまえて行う。あわせて参加者それぞれの問題関心に即して研究発表を随時盛り込むことを予定している。
なお、テキストなどは参加者の関心、レベルにあわせて選択する予定である。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	中国古代の社会や国家について、これまで理解していることをもとに、新たに理解したことを説明できる。
2	中国古代理史に関する研究動向を、自らの立場から批判的に考察することができる。
3	中国古代理史の最新の研究動向について、1つ以上説明できる。
4	中国古代理史の問題について、自らの見解を的確に表現し、他者と議論することができる。
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

中国古代理史、戦国秦漢、漢籍、出土文字資料

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

中国古代理史についての基礎的な理解を有していること

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。テキストの紹介、説明。進め方の相談。	
第2回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読、報告とディスカッション	
第3回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読、報告とディスカッション	
第4回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読、報告とディスカッション	
第5回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読、報告とディスカッション	
第6回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読、報告とディスカッション	
第7回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読、報告とディスカッション	
第8回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読、報告とディスカッション	
第9回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読、報告とディスカッション	
第10回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読、報告とディスカッション	
第11回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	文献3冊目の検討 輪読、報告とディスカッション	
第12回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	文献3冊目の検討 輪読、報告とディスカッション	
第13回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	文献3冊目の検討 輪読、報告とディスカッション	
第14回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	文献3冊目の検討 輪読、報告とディスカッション	
第15回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	全体の総括 各自発表	
第16回	担当教員	大榎 敦弘	
	授業内容	総括レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストの精読と報告料の作成、関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参加者と相談して決定

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40、期末レポート20%の総合評価とする。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
大櫛 敦弘	金曜	2限	人文社会科学部棟5F 大櫛研究室

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
西洋近現代歴史文化論特論	Western History and Culture in the Modern/Contemporary Eras (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B25	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81522171
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	川本 真浩	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

イギリスとイギリス帝国の近世・近代史

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・主題は、イギリス及びイギリス帝国の近世・近代史の展開を多角的な視点から論じることである。
- ・目的は、イギリス及びイギリス帝国の近世近代史をベースにしながら、グローバルとローカルを結びつける視角から考え、議論する手がかりをつかむことである。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

西洋近現代史歴史文化論演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

17世紀末から20世紀初頭にかけてのイギリスおよびイギリス帝国に着目し、その歴史の変容について論じる。とくにイギリス一国にとどまらない、より大きな観点から、各地域及び世界の歴史の変容についても考察する。
 なお、可能なかぎり、受講者の関心に近いトピックを中心に論じる。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	近世・近代におけるイギリスおよびイギリス帝国の歴史の変容について、これまで理解していることを基に、新たに理解したことを自分の言葉で説明できる。
2	イギリスおよびイギリス帝国の近世・近代史にかかる研究動向について、適確に把握し、かつ批判的に考察することができる。
3	イギリスおよびイギリス帝国の近世・近代史にかかる研究について、自らの視点とその意義を明確にしなが、他の研究者と議論ができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

イギリス イギリス帝国 近世史 近代史

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部専門科目「西洋史概論」で扱うような内容とレベルに相当する西洋近現代史に関する基本的な知識をもっていること。授業に継続的に出席できるよう、心身の調子を整えておくこと。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。参考文献についてのアドバイス。	
第2回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	「連合王国」成立前のブリテン諸島と海外進出(1) 講義と質疑・討論	
第3回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	「連合王国」成立前のブリテン諸島と海外進出(2) 講義と質疑・討論	
第4回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	「連合王国」の成立と商業革命(1) 講義と質疑・討論	
第5回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	「連合王国」の成立と商業革命(2) 講義と質疑・討論	
第6回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	「連合王国」の成立と商業革命(3) 講義と質疑・討論	
第7回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	産業革命とイギリス帝国(1) 講義と質疑・討論	
第8回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	産業革命とイギリス帝国(2) 講義と質疑・討論	
第9回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	産業革命とイギリス帝国(3) 講義と質疑・討論	
第10回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	パクス・ブリタニカの時代(1) 講義と質疑・討論	
第11回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	パクス・ブリタニカの時代(2) 講義と質疑・討論	
第12回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	パクス・ブリタニカの時代(3) 講義と質疑・討論	
第13回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	帝国からコモンウェルスへ(1) 講義と質疑・討論	
第14回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	帝国からコモンウェルスへ(2) 講義と質疑・討論	
第15回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	全体の総括 講義と質疑・討論	
第16回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	総括レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・授業に関連する史資料の収集と読み解き。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

『イギリス帝国と20世紀』第3～5巻、ミネルヴァ書房、2006～2009年。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	

【成績評価に関する補足】

(1)出席状況及び受講態度(2)小テストないしレポート(3)総括レポート, という3項目で到達目標の達成度を評価し、それを合算して評点とする。3項目の配分は9:10:22とするが、特定の項目が著しく不良の場合は総点からさらに減算する。

○成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
川本 真浩	月曜	5限	人文社会科学部棟4階412号室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
西洋近現代歴史文化論演習	Western History and Culture in the Modern/Contemporary Eras (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B26	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81527121
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	川本 真浩	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

イギリスとイギリス帝国の近世・近代史

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・主題は、イギリス及びイギリス帝国の近世・近代史の展開とその史的研究について、多角的な視点からアプローチし、論じることである。
- ・目的は、イギリス及びイギリス帝国の近世近代史をベースにしなが、グローバルとローカルを結びつけるなど広範な視角から考え、議論することである。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

西洋近現代史歴史文化論特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

近現代イギリスならびに帝国=コモンウェルス文化史にかかる研究文献(主に英語)を講読したうえで、西洋文化史をイギリス帝国=コモンウェルス史やグローバル・ヒストリーの観点から考察すべく研究発表とディスカッションをおこなう。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	近世・近代におけるイギリスおよびイギリス帝国の歴史の変容にかかる研究文献(英語)を適確に読み解き、その内容を説明することができる。
2	イギリスおよびイギリス帝国の近世・近代史にかかる既存の研究について、批判的に考察することができる。
3	イギリスおよびイギリス帝国の近世・近代史にかかる最近5年以内に発表された重要な研究成果を2つ以上説明できる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

イギリス イギリス帝国 近世史 近代史

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

「西洋近現代史歴史文化論特論」で扱う内容とレベルに相当する西洋近現代史に関する基本的な知識をもっていること。イギリス・イギリス帝国史の概説書レベルの英語を適確に和訳できる程度の英語力ならびに日本語力を備えていること。授業に継続的に出席できるよう、心身の調子を整えておくこと。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。報告ローテーションの決定。参考文献検索方法等についてのアドバイス。	
第2回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	研究文献にかかる検討 講読・報告とディスカッション	
第3回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	研究文献にかかる検討 講読・報告とディスカッション	
第4回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	研究文献にかかる検討 講読・報告とディスカッション	
第5回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	研究文献にかかる検討 講読・報告とディスカッション	
第6回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	研究文献にかかる検討 講読・報告とディスカッション	
第7回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	研究文献にかかる検討 講読・報告とディスカッション	
第8回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	研究文献にかかる検討 講読・報告とディスカッション	
第9回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	研究文献にかかる検討 講読・報告とディスカッション	
第10回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	研究文献にかかる検討 講読・報告とディスカッション	
第11回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	研究文献にかかる検討 講読・報告とディスカッション	
第12回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	研究文献にかかる検討 講読・報告とディスカッション	
第13回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	研究文献にかかる検討 講読・報告とディスカッション	
第14回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	研究文献にかかる検討 講読・報告とディスカッション	
第15回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	研究文献にかかる検討 講読・報告とディスカッション	
第16回	担当教員	川本 真浩	
	授業内容	総括レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・講読文献にかかる史資料の収集と読み解き。
- ・最低でも週8時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

The Oxford History of the British Empire, vol.I-IV, 1998-1999.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	

【成績評価に関する補足】

授業に取り組む姿勢とその成果によって、到達目標の達成度を多角的かつ総合的に評価する。具体的には、講読部分(英文和訳の出来不出来だけでなく、歴史的事項や固有の事件や人物に関する内容の正確な理解)、ディスカッションの部分(的確な問いかけや疑問点の提起と一定の妥当な根拠を有する見解の主張)、レポート部分(適確なまとめ)、全般的な実践部分(受講状況、提示した課題や自学自習のための推奨事項の遂行)を評価のポイントとする。各評価ポイントの配分は均等とする。

○成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
川本 真浩	月曜	5限	人文社会科学部棟4階412号室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
地域システム論特論 I	Regional Systems (Advanced I)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B33	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81523371
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	新名 阿津子	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

都市について地理学的に考える

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Urban Geography

授業の目的【COURSE AIMS】

本科目では”The city reader”と既存研究を用いて、都市に関する様々なトピックを共有し、都市地理学について理解する。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

地域システム論演習 I, 12B34

授業の概要【COURSE SUMMARY】

まず”The City Reader”の各章の中から2-3テーマをピックアップし、受講生による紹介を行う。発表者以外はその日の討論テーマに関連する都市地理学の研究論文を少なくとも1本読み議論に参加する。本講義全体を通じて、都市地理学を理解し、研究動向を説明することができる能力を育成する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	都市を地理学的な観点から捉えることができる
2	都市地理学が扱う研究課題について具体例を挙げて説明することができる
3	都市に関する地理学研究の動向を理解し、説明することができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

都市地理学、空間、社会、経済、政治、都市計画、都市環境、都市デザイン

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

都市地理学の基礎を復習しておくこと。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	ガイダンス 授業の概要説明。報告順の決定。学術誌の紹介など	
第2回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	The evolution of cities 1 文献紹介とディスカッション	
第3回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	The evolution of cities 2 文献紹介とディスカッション	
第4回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	Urban culture and society 1 文献紹介とディスカッション	
第5回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	Urban culture and society 2 文献紹介とディスカッション	
第6回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	Urban space 1 文献紹介とディスカッション	
第7回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	Urban space 2 文献紹介とディスカッション	
第8回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	Urban politics, governance, and economics 1 文献紹介とディスカッション	
第9回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	Urban politics, governance, and economics 2 文献紹介とディスカッション	
第10回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	Urban Planning 1 文献紹介とディスカッション	
第11回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	Urban Planning 2 文献紹介とディスカッション	
第12回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	Urban Planning 3 文献紹介とディスカッション	
第13回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	Urban design and placemaking 文献紹介とディスカッション	
第14回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	Urban future and global challenges 文献紹介とディスカッション	
第15回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	まとめ 都市と地理学	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・発表担当箇所の発表準備
- ・討論テーマに関する研究論文の検索と精読
- ・週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書 Richard T. LeGates and Frederic Stout 2020. The City Reader Seventh Edition, Routledge.
 参考書等は授業中に紹介する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	40
その他	60

【成績評価に関する補足】

発表(30%)、ディスカッション(30%)、レポート(40%)で評価する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
新名 阿津子	月曜	2・3限	人文社会科学棟4階441室

【オフィスアワーに関する補足】

--

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
地域システム論演習 I	Regional Systems (Seminar I)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B34	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81528321
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	新名 阿津子	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

高知の都市について考える

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Urban geography in Kochi

授業の目的【COURSE AIMS】

本科目では高知の都市について都市システムや内部構造、景観等から調査し、その特徴を明らかにすることを目的としている。また本演習を通じて、地域調査を行う能力の向上を図る。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

地域システム論特論 I, 12B33

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本演習では都市に関する地理学論文を紹介したのち、テーマおよび調査対象地域を決定し、地域調査の準備を行う。事前準備が整ったら、1泊2日(もしくは2泊3日)程度の現地調査を行い、データを収集する。調査後は収集したデータを分析し、その結果をまとめる。最後に調査結果をプレゼンし、その内容を報告書としてまとめる。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	地域調査の遂行能力の向上: 自らデータを収集し、分析することができる
2	高知を都市地理学的観点から分析することができる
3	調査結果をプレゼンテーションや報告書の作成を通じて論理的に説明することができる
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

都市地理学、都市システム、内部構造、地域調査、高知

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

地域システム論演習 I にて学んだ内容をしっかりと復習しておくこと。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

受講生は宿泊費・食費等の実費負担があることに留意すること。

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	オリエンテーション 授業概要の説明、学術誌の紹介など	
第2回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	都市地理学の論文紹介1 論文紹介とディスカッション	
第3回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	都市地理学の論文紹介2 論文紹介とディスカッション	
第4回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	研究テーマの決定と事前準備 研究テーマを決定し、フィールドワークに向けた事前準備を行う	
第5回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	事前準備 関連資料の収集と分析	
第6回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	研究計画の発表 研究計画の発表とディスカッション	
第7回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	フィールドワーク1 現地調査	
第8回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	フィールドワーク2 現地調査	
第9回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	フィールドワーク3 現地調査	
第10回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	フィールドワーク4 現地調査	
第11回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	フィールドワーク5 現地調査	
第12回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	フィールドワークのまとめ 調査結果をまとめる	
第13回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	調査結果の分析 調査結果を分析する	
第14回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	プレゼンテーションの準備 プレゼン資料の作成、調査結果の精査	
第15回	担当教員	新名 阿津子	
	授業内容	調査結果の発表 各自発表	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・紹介する文献の精読とレジュメの作成
- ・フィールドワークの準備
- ・調査結果のまとめとプレゼンテーション、報告書の作成

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

授業中に適宜紹介する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	40
その他	60

【成績評価に関する補足】

プレゼンテーション(3回、60%)と報告書(40%)で評価する。

成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
新名 阿津子	月曜	2・3限	人文社会科学棟4階441室

【オフィスアワーに関する補足】

0

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
日本古典文学論特論	Japanese Classics (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B33	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81530171
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	福島 尚	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

・日本古典文学作品を文献学的方法を用いて、その表現解析をおこなう方法を身に着けることを目的に、研究文献を講読する。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

日本古典文学作品を対象に、文献学的方法を用いてその表現解析を試みた研究文献を講読し、日本古典文学を研究する上での諸問題について考察する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	文献を文献批評(クリティカル リーディング)できるようになる。
2	文献学的方法の基礎知識を身に着ける。
3	日本古典文学作品を文献学的方法を用いて研究できるようになる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

日本古典文学、文献学

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

・日本語学・日本文学の学部教育専門科目レベルの基礎的知識を有すること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	オリエンテーション	
第2回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	日本古典文学作品の文献学的研究方法(1)本文批評 当該のテーマについて講義	
第3回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	日本古典文学作品の文献学的研究方法(2)注釈的研究 当該のテーマについて講義	
第4回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	日本古典文学作品の文献学的研究方法と文芸批評的研究方法 当該のテーマについて講義	
第5回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	講義の主対象として取り上げる作品『徒然草』の文献学的解題 当該のテーマについて講義	
第6回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	講義の主対象として取り上げる作品『徒然草』の研究史解説 当該のテーマについて講義	
第7回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の講読(1)『徒然草抜書』前言 報告とディスカッション	
第8回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の講読(2)文献学的解釈の基礎 報告とディスカッション	
第9回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の講読(3)つれづれなるままに 報告とディスカッション	
第10回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の講読(4)うしのつの文字 報告とディスカッション	
第11回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の講読(5)土偏に候ふ 報告とディスカッション	
第12回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の講読(6)蝻といふ貝 報告とディスカッション	
第13回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の講読(7)いみじき秀句 報告とディスカッション	
第14回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の講読(8)『徒然草抜書』結語 報告とディスカッション	
第15回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の講読(8)『徒然草抜書』結語 報告とディスカッション	
第16回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	まとめ一問題の所在の確認 報告とディスカッション	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストの精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

小川 剛生『新版 徒然草 現代語訳付き (角川ソフィア文庫)』、小松 英雄『徒然草抜書』(講談社学術文庫)、そのほかの参考文献は授業中に紹介する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

- ・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。
- ・到達目標①～③について、担当時の報告内容・毎回の授業態度および期末レポートとを総合して評価する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
福島 尚	木曜	3限	人文社会科学部5F福島研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
日本古典文学論演習	Japanese Classics (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C02	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81535121
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	福島 尚	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

授業の目的【COURSE AIMS】

・日本古典文学作品に関する研究文献をクリティカルリーディングする。

--

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

・日本古典文学作品に関する研究文献を文献批評(クリティカル リーディング)する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	文献を文献批評(クリティカル リーディング)できるようになる。
2	文献批評(クリティカル リーディング)によって問題点を発見し、それを解決しようとする態度・技能を身に着ける。
3	日本古典文学作品を文献学的方法を用いて研究できるようになる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

日本古典文学、文献学

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・日本語学・日本文学の学部専門科目レベルの基礎的知識を有すること。
- ・日本古典文学論特論を履修していること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	オリエンテーション	
第2回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション	
第3回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション	
第4回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション	
第5回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション	
第6回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)	
第7回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション	
第8回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)	
第9回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション	
第10回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)	
第11回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション	
第12回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション	
第13回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション	
第14回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション	
第15回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション	
第16回	担当教員	福島 尚	
	授業内容	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・文献の精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

文献批評(クリティカルリーディング)の対象は受講生と相談の上決定する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

- ・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。
- ・到達目標①～③について、担当時の報告内容・毎回の授業態度および期末レポートとを総合して評価する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
福島 尚	木曜	3限	人文社会科学部5F福島研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
日本文献資料論特論	Japanese Philology (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C05	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81530371
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	大塚 誠也	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

散逸作品と復元

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・散逸した作品、または欠落がある作品の様態について、文献資料を広く参照しながら学習する。
- ・不完全な作品について、現存する資料をつなぎ合わせる。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

文献資料を横断的に披見しながら、散逸作品等の現存しない作品を集中的に学習する。単なる作品の読解ではなく、韻文にせよ散文にせよ、読解しえない作品・部分を把握し、考察する。講義形式であるが、履修者には積極的な考察と発言を求める。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	散逸作品等について、適切な現存資料を参照することができる。
2	散逸作品等について、復元考察を自分で行なうことができる。
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

日本文学、平安文学、古典文学

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

平安時代の文学作品に関する大学卒業時程度の知識。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	はじめに 授業の狙いと進め方	
第2回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	「かばね尋ぬる宮」等 まずは肩慣らし	
第3回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	『風葉和歌集』等1 物語の復元の方法	
第4回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	『風葉和歌集』等2 現存物語を見る	
第5回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	『浜松中納言物語』 転生と出家	
第6回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	『夜の寝覚』1 老閨白の恋	
第7回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	『夜の寝覚』2 天皇と擬死	
第8回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	『古とりかへばや』 好まれざる性描写	
第9回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	私家集1 流通機構	
第10回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	私家集2 失われた歌人像を求めて	
第11回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	省筆表現について	
第12回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	補遺1 受講者達の専攻に関する文献講読	
第13回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	補遺2 受講者達の専攻に関する文献講読	
第14回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	補遺3 受講者達の興味関心に関する文献講読	
第15回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	まとめ	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

各作品、及び先行研究の復習・批判的考察を求める。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

指定しない。プリントや組織の蔵書を利用する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	50
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	50
その他	

【成績評価に関する補足】

毎回の発言及び討議50%、期末レポート50%で評価する。
ただし、出席が10回未満の場合、もしくはレポート未提出の場合は、原則として評価の対象外とする。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
大塚 誠也	月曜	3限	人文棟5F515大塚誠也研究室

【オフィスアワーに関する補足】

事前連絡必須

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
日本文献資料論演習	Japanese Philology (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C06	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81535321
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	大塚 誠也	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

『枕草子』と伝本系統

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・『枕草子』の影印資料を翻刻・整定する。
- ・複数の伝本について、内容的な差異を考察する。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

『枕草子』の影印資料(伝本の写真)を用いて、翻刻・整定を行ない、伝本間の内容的な差異についても考察する。単語や文法の知識を用いて、読みやすい本文を整定する。
学生が個人発表を行なう形式だが、人数によっては一度の発表をめぐり、複数回のコマを討議にあてる場合もある。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	写本を読解し、本文をたてることができる。
2	伝本間の内容的な差異について考察することができる。
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

日本文学、古典文学、枕草子

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部卒業レベルのくずし字翻刻能力。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	はじめに 授業の狙いと進め方	
第2回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	発表サンプル、各回の割り振り	
第3回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	個人発表及び討議	
第4回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	個人発表及び討議	
第5回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	個人発表及び討議	
第6回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	個人発表及び討議	
第7回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	個人発表及び討議	
第8回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	個人発表及び討議	
第9回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	個人発表及び討議	
第10回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	個人発表及び討議	
第11回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	個人発表及び討議	
第12回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	個人発表及び討議	
第13回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	関連文献講読等	
第14回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	関連文献講読等	
第15回	担当教員	大塚 誠也	
	授業内容	関連文献講読等	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

授業で扱う範囲の影印を読解・整理・考察し、発表資料を作成する。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

指定しない。プリントや組織の蔵書を用いる。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	100

【成績評価に関する補足】

個人発表、及び討議の内容100%で評価する。
ただし、出席が10回未満の場合、原則として評価の対象外とする。

成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
大塚 誠也	月曜	3限	人文棟5F515大塚誠也研究室

【オフィスアワーに関する補足】

事前連絡必須

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- 対面のみ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン
- オンライン同期型のみ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面
- オンライン非同期型のみ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部
- オンライン同期型+非同期型 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面
- 調整中

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
日本語論特論 I	Japanese Linguistics (Advanced I)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C09	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81531171
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	古田 龍啓	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

言語史論文講読

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

日本語史を中心とした言語史に関する最新の成果に触れることで、近年の研究動向を把握することを目的とします。また、論文の内容を適切に理解し、その概要を他者に説明する力を培うとともに、論文を批判的に検討し、発展的な課題を指摘することができるようになることを目指します。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

日本語史を中心とした言語史に関する近年の優れた論文の内容をまとめ、批判的検討を加えてもらいます。取り上げる論文は、学会誌に掲載されたものを中心に、発表者の関心に応じて、講師との協議の上、決定します。発表者には、論文の概要を明らかにした上で、関連する先行研究を紹介したり、議論の妥当性を検討したりしながら、単なるあら探しに終わらない発展的な問題の指摘を行ってもらいます。その後、発表を踏まえ、参加者全員で議論を行います。論文の読解を通じて、最新の研究動向を押さえるとともに、前向きで創造的な結論を導き出す力を養います。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	言語史に関する優れた論文を適切に理解し、説明することができる
2	先行研究を踏まえ、近年の研究動向を理解し、説明することができる
3	論文を批判的に検討し、発展的な課題を指摘することができる
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

言語史、日本語史、日本語学、言語学

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

日本語学・言語学に関する基礎的な知識

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員		講読に関するガイダンス
	授業内容	参加者の関心を聞き取り、取り上げる論文を決定する。論文を読む際の注意点を説明する	
第2回	担当教員		論文講読(1)
	授業内容	作成した資料を基に担当者が発表を行い、その後、参加者全員で議論を行う。以下、同様	
第3回	担当教員		論文講読(2)
	授業内容		
第4回	担当教員		論文講読(3)
	授業内容		
第5回	担当教員		論文講読(4)
	授業内容		
第6回	担当教員		論文講読(5)
	授業内容		
第7回	担当教員		論文講読(6)
	授業内容		
第8回	担当教員		論文講読(7)
	授業内容		
第9回	担当教員		論文講読(8)
	授業内容		
第10回	担当教員		論文講読(9)
	授業内容		
第11回	担当教員		論文講読(10)
	授業内容		
第12回	担当教員		論文講読(11)
	授業内容		
第13回	担当教員		論文講読(12)
	授業内容		
第14回	担当教員		論文講読(13)
	授業内容		
第15回	担当教員		演習の総括
	授業内容	演習の内容を総括する	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

発表者は、論文の概要や発展的な課題をまとめた発表資料を作成する必要があります。その他の参加者も、事前に論文や発表資料を読み込み、議論に臨む必要があります。これら毎回の予習を中心に、週4時間程度の時間外学習を行ってください。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書は指定しません。講読する論文は、発表者と協議の上、講師が決定し、周知します。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	30
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	70

【成績評価に関する補足】

発表資料(その他)に70%、議論への貢献度(学習意欲・授業参加度)に30%を配分します。3つの到達目標は、発表資料と議論への貢献度、両方で評価します。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
古田龍啓	月曜3限	13:10 14:30	人文社会科学部棟5階・古田研究室(505)

【オフィスアワーに関する補足】

訪問の前に、事前にメールでアポイントを取るようして下さい。メールアドレスは、初回に案内します。

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
日本語論演習 I	Japanese Linguistics (Seminar I)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C10	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81536121
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	古田 龍啓	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

言語変化研究

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

通言語的に言語の規則的な変化を扱う「文法化」の概要を理解し、文法化研究の成果を日本語史研究に応用できるようになることを目指します。また、英語で著された言語学のテキストが適切に把握できるようになることを目標とします。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

文法化は、「語彙的形式から文法的形式、そして、文法的形式を出発点にしてさらに異なる文法的形式へ」発達する過程を指します。文法化は、通言語的観点から規則的に言語変化を捉えるもので、日本語の歴史的变化について考察する上でも、その知識は欠かせません。本演習では、文法化を上記のように定義し、概観するHeiko Narrog、Bernd Heineの共著Grammaticalization (Oxford University Press)を読み進め、文法化に関する基礎的知識を身につけ、日本語史研究に応用できるようになることを目指します。具体的には、本書の1章分の内容をまとめた発表資料を各回の担当者に作成してもらい、資料を基に、参加者で議論を行います。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	英語で著された言語学のテキストを適切に理解することができる。
2	「文法化」の概要を理解し、説明することができる。
3	「文法化」研究の成果を、日本語史研究に応用することができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

言語変化、言語学、文法化、日本語史、日本語学

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

日本語学・言語学に関する基礎的な知識があることが望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員		「文法化」研究概説
	授業内容	「文法化」研究の概要や日本語史研究との関わりについて説明する。演習のガイダンスを行う	
第2回	担当教員		第1章「Introduction」講読(1)
	授業内容	教科書の1章分の内容を発表者にまとめてもらい、参加者で議論を行う。第1章は2回に分ける。以下、同様	
第3回	担当教員		第1章「Introduction」講読(2)
	授業内容		
第4回	担当教員		第2章「Criteria, parameters, and other variables」講読
	授業内容		
第5回	担当教員		第3章「Four parameters of grammaticalization」講読
	授業内容		
第6回	担当教員		第4章「Directionality of semantic change in grammaticalization」講読
	授業内容		
第7回	担当教員		第5章「Steps and phases of grammaticalization」講読
	授業内容		
第8回	担当教員		第6章「What drives grammaticalization? Mechanisms and motivations」講読
	授業内容		
第9回	担当教員		第7章「Grammaticalization in language contact」講読
	授業内容		
第10回	担当教員		第8章「Grammaticalization and language typology」講読
	授業内容		
第11回	担当教員		第9章「Theory-specific approaches」講読
	授業内容		
第12回	担当教員		第10章「Beyond grammaticalization」講読
	授業内容		
第13回	担当教員		第11章「Discourse markers」講読
	授業内容		
第14回	担当教員		第12章「Summary and conclusion」講読
	授業内容		
第15回	担当教員		演習の総括
	授業内容	演習の内容を総括する	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

発表者は、担当範囲をまとめた発表資料を作成する必要があります。また、その他の参加者も、教科書の1章分を事前に読み、内容を理解した上で、演習に臨む必要があります。「文法化」研究を踏まえた日本語史研究をテーマに据えた期末レポートも提出してもらいます。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Narrog, Heiko; Heine, Bernd. *Grammaticalization (Oxford Textbooks in Linguistics)* OUP Oxford.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	20
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	50
その他	30

【成績評価に関する補足】

期末レポートに50%、演習で用いる発表資料(その他)に30%、議論への貢献度(学習意欲・授業参加度)に20%を配分します。到達目標の1、2は発表資料と議論への貢献度で、到達目標の3は期末レポートで評価します。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
古田龍啓	月曜3限	13:10 14:30	人文社会科学部棟5階・古田研究室(505)

【オフィスアワーに関する補足】

訪問の前に、事前にメールでアポイントを取るようして下さい。メールアドレスは、初回に案内します。

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
近代日本語文化論特論	Modern Japanese Language and Culture (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C13	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81530571
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	田鎖 数馬	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

・授業のテーマは、菊池寛の通俗小説の内容と当時の女性雑誌の言説とを比較して、菊池の女性教育の思想の特質を把握していくことである。
・この授業は、人文科学研究コースの中で、日本、中国、アメリカ、イギリスの言語文化について様々な観点から研究する「言語文化領域」に属する科目である。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

授業の概要【COURSE SUMMARY】

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	菊池寛の通俗小説や当時の女性教育の言説について、これまで理解していることをもとに、新たに理解したことを1つ以上説明できる。
2	菊池寛の通俗小説や当時の女性教育に関する研究動向を自らの立場から批判的に考察することができる。
3	菊池寛の通俗小説や当時の女性教育についての自らの立場を的確に表現し、他者と議論することができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

日本近代文学 菊池寛 通俗小説 女性雑誌

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

日本近代文学史の基本的な知識があること。菊池寛の通俗小説のうちいくつかを読んでおくこと

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス	
第2回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	菊池寛「真珠夫人」(1) 輪読・報告とディスカッション	
第3回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	菊池寛「真珠夫人」(2) 輪読・報告とディスカッション	
第4回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	菊池寛「真珠夫人」(3) 輪読・報告とディスカッション	
第5回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	菊池寛「毒の華」 輪読・報告とディスカッション	
第6回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	菊池寛「慈悲心鳥」 輪読・報告とディスカッション	
第7回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	菊池寛「火華」 輪読・報告とディスカッション	
第8回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	菊池寛「新珠」 輪読・報告とディスカッション	
第9回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	菊池寛「陸の人魚」 輪読・報告とディスカッション	
第10回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	菊池寛「受難華」 輪読・報告とディスカッション	
第11回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	菊池寛「第二の接吻」 輪読・報告とディスカッション	
第12回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	菊池寛「赤い白鳥」 輪読・報告とディスカッション	
第13回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	菊池寛「結婚二重奏」 輪読・報告とディスカッション	
第14回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	菊池寛「明眸禍」 輪読・報告とディスカッション	
第15回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	菊池寛「新女性鑑」 輪読・報告とディスカッション	
第16回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	総括レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・作品本文の精読と報告資料の作成。授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

『菊池寛現代通俗小説事典』(2016年7月、八木書店)

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。
 ・到達目標①と③は、毎回の授業態度の中で評価する。また、到達目標②は、毎回の授業態度と期末レポートによって評価する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
田鎖 数馬	木曜	1限	研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
近代日本語文化論演習	Modern Japanese Language and Culture (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C14	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81535521
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	田鎖 数馬	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

・授業のテーマは、谷崎潤一郎の作品と当時の女性雑誌の言説とを比較して、谷崎作品で示された女性観の形成過程や特質を把握していくことである。
・この授業は、人文科学研究コースの中で、日本、中国、アメリカ、イギリスの言語文化について様々な観点から研究する「言語文化領域」に属する科目である。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

--

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	谷崎潤一郎の作品や当時の女性教育の言説について、これまで理解していることをもとに、新たに理解したことを1つ以上説明できる。
2	谷崎潤一郎の作品や当時の女性教育に関する研究動向を自らの立場から批判的に考察することができる。
3	谷崎潤一郎の作品や当時の女性教育についての自らの立場を的確に表現し、他者と議論することができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

日本近代文学、谷崎潤一郎、女性雑誌

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

日本近代文学史の基本的な知識があること。谷崎潤一郎の作品をいくつか読んでおくこと
--

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス。	
第2回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	谷崎潤一郎「刺青」 輪読・報告とディスカッション	
第3回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	谷崎潤一郎「悪魔」 輪読・報告とディスカッション	
第4回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	谷崎潤一郎「創造」 輪読・報告とディスカッション	
第5回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	谷崎潤一郎「既婚者と離婚者」 輪読・報告とディスカッション	
第6回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	谷崎潤一郎「女人神聖」 輪読・報告とディスカッション	
第7回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	谷崎潤一郎「母を恋ふる記」 輪読・報告とディスカッション	
第8回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	谷崎潤一郎「途上」 輪読・報告とディスカッション	
第9回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	谷崎潤一郎「不幸な母の話」 輪読・報告とディスカッション	
第10回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	谷崎潤一郎「愛すればこそ」 輪読・報告とディスカッション	
第11回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	谷崎潤一郎「肉塊」 輪読・報告とディスカッション	
第12回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	谷崎潤一郎「痴人の愛」(1) 輪読・報告とディスカッション	
第13回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	谷崎潤一郎「痴人の愛」(2) 輪読・報告とディスカッション	
第14回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	谷崎潤一郎「蓼喰ふ虫」(1) 輪読・報告とディスカッション	
第15回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	谷崎潤一郎「蓼喰ふ虫」(2) 輪読・報告とディスカッション	
第16回	担当教員	田鎖 数馬	
	授業内容	総括レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・作品本文の精読と報告資料の作成。授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

千葉俊二編『谷崎潤一郎必携』(平成13年11月、学燈社)

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。
 ・到達目標①と③は、毎回の授業態度の中で評価する。また、到達目標②は、毎回の授業態度と期末レポートによって評価する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
田鎖 数馬	木曜	1限	研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
英語圏文学論特論	Literature in the English-Speaking Countries (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C21	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81532171
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	宗 洋	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

本授業の目的は短編小説を原文で読み、批評の視点を養うことにある。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業ではマンスフィールドの短編小説を扱う。毎週数ページを原文で読み、参加者はその訳読を通して英語読解力を磨きつつ、文学を批評的に読む力を身に着けることを狙いとする。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	英語の文章の文法・構文的な理解ができる。
2	小説を批評的に読むことができる。
3	小説を読むための各種辞典類を活用することができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

子ども、女性、ニュージーランド、小説

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

丹念な予習。英検準一級レベルの英語力があることが望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	オリエンテーション 授業概要の説明。各種辞書類の説明。担当の割り振り等。	
第2回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	79-80頁 訳読および批評レベルのディスカッション	
第3回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	81-82 訳読および批評レベルのディスカッション	
第4回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	83-84 訳読および批評レベルのディスカッション	
第5回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	85-86 訳読および批評レベルのディスカッション	
第6回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	87-88 訳読および批評レベルのディスカッション	
第7回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	89-90 訳読および批評レベルのディスカッション	
第8回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	91-92 訳読および批評レベルのディスカッション	
第9回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	93-94 訳読および批評レベルのディスカッション	
第10回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	95-96 訳読および批評レベルのディスカッション	
第11回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	97-98 訳読および批評レベルのディスカッション	
第12回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	99-100 訳読および批評レベルのディスカッション	
第13回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	101-2 訳読および批評レベルのディスカッション	
第14回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	103-4 訳読および批評レベルのディスカッション	
第15回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	105-6 訳読および批評レベルのディスカッション	
第16回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	総括 レポート提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

授業で進む箇所の和訳および構文分析等をレジユメとして作成すること。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Katherine Mansfield, Selected Stories (Oxford World's Classics)

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	80
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	

【成績評価に関する補足】

担当及び毎回の授業での積極的発言80% 学期末8000字レポート20パーセント。ただしレポート未提出者には単位を与えない。

成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
宗 洋	火曜	5限	人文社会科学部棟4階 宗研究室

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
英語圏文学論演習	Literature in the English-Speaking Countries (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C22	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81537121
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免ー中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	宗 洋	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

本授業の目的は、短編小説を原文で読み、批評の視点を養うことにある。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業ではマンスフィールドの短編小説を扱う。毎週数ページを原文で読み、参加者はその訳読を通して英語読解力を磨きつつ、文学を批評的に読む力を身に付けることを狙いとする。また他の作家との比較を通して、作家の特徴や時代精神を考えることもする。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	英語の文章の文法・構文的な理解ができる。
2	小説を批評的に読むことができる。
3	他の作家と比較して読むことができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

モダニズム、女性、子ども、戦争、小説

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

丹念な予習。英検準一級レベルの英語力があることが望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	オリエンテーション 授業概要の説明。各種辞書類の説明。担当の割り振り等。	
第2回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	pp107-8 訳読および批評レベルのディスカッション	
第3回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	109-10 訳読および批評レベルのディスカッション	
第4回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	111-12 訳読および批評レベルのディスカッション	
第5回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	113-14 訳読および批評レベルのディスカッション	
第6回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	115-16 訳読および批評レベルのディスカッション	
第7回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	117-18 訳読および批評レベルのディスカッション	
第8回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	119-20 訳読および批評レベルのディスカッション	
第9回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	121-22 訳読および批評レベルのディスカッション	
第10回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	123-24 訳読および批評レベルのディスカッション	
第11回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	125-26 訳読および批評レベルのディスカッション	
第12回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	127-28 訳読および批評レベルのディスカッション	
第13回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	129-30 訳読および批評レベルのディスカッション	
第14回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	131-32 訳読および批評レベルのディスカッション	
第15回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	133-34 訳読および批評レベルのディスカッション	
第16回	担当教員	宗 洋	
	授業内容	総括 学期末レポート提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

授業で進む箇所の和訳および構文分析等をレジユメとして作成すること。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Katherine Mansfield, Selected Stories (Oxford World's Classics)

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	80
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	

【成績評価に関する補足】

担当及び毎回の授業での積極的発言80% 学期末8000字レポート20パーセント。ただしレポート未提出者には単位を与えない。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
宗 洋	金曜	5限	人文社会科学部棟4階 宗研究室

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- 対面のみ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン
- オンライン同期型のみ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面
- オンライン非同期型のみ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部
- オンライン同期型+非同期型 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面
- 調整中

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
アメリカ文学論特論	American Literature (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C25	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81532371
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免ー中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	藤吉 清次郎	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

19世紀アメリカ・ルネサンスの作品の検証

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

・本授業は、アメリカ文学の根幹とも言える19世紀アメリカ・ルネサンスを検討し、アメリカ文学の独自性を多角的に検証することにある。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

19世紀アメリカ・ルネサンスのいくつかの作品を精読することによって、人種・ジェンダー・階級などの観点から、テキストの有する可能性を追求する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	アメリカ文学を深く理解することができる。
2	文学批評の在り方を理解できる。
3	文学作品で論文を書くことができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

ロマン主義、リアリズム、構造主義、新歴史主義、ピューリタニズム、アメリカン・イデオロギー

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

19世紀アメリカ文学の作品を数多く読み、と同時にイギリスの作品も読み、アメリカ文学の特性を理解すること。ポー、エマソン、ソーロー、ホイットマン、メルヴィル、ホーソーンの代表的な作品を日本語訳で読んでおくこと。原文での講読であるため、英語読解能力を高めておくこと。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。	
第2回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	<i>The Scarlet Letter</i> 講読	
第3回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	<i>The Scarlet Letter</i> 講読	
第4回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	<i>The Scarlet Letter</i> 講読	
第5回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	<i>The Scarlet Letter</i> 講読	
第6回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	<i>The Scarlet Letter</i> 講読	
第7回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	<i>The Scarlet Letter</i> 講読	
第8回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	<i>The Scarlet Letter</i> 講読	
第9回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	<i>The Scarlet Letter</i> 講読	
第10回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	<i>The Scarlet Letter</i> 講読	
第11回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	<i>The Scarlet Letter</i> 講読	
第12回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	<i>The Scarlet Letter</i> 講読	
第13回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	<i>The Scarlet Letter</i> の評論	
第14回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	<i>The Scarlet Letter</i> の評論	
第15回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	<i>The Scarlet Letter</i> の評論	
第16回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	<i>The Scarlet Letter</i> の評論	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストの精読と報告資料の作成。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Nathaniel Hawthorne, *The Scarlet Letter* (Norton Critical Edition, 2013)

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	60
その他	

【成績評価に関する補足】

・毎回の授業の参加態度40%、期末レポート60% ・徹底した予習を前提にした授業なので予習ができていない場合は欠席扱いとする。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
藤吉 清次郎	月曜	4限	人文社会科学部4F第3演習室

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
アメリカ文学論演習	American Literature (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C26	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81537321
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	藤吉 清次郎	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

アフリカ系アメリカ人作家の作品の検証

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

・本授業は、アメリカ文学で大きな位置を占めるアフリカ系アメリカ人の文学を検討し、白人文学の差異を考察することにある。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

授業の概要【COURSE SUMMARY】

アフリカ系アメリカ人の文学作品を精読することによって、人種・ジェンダー・階級などの観点から、テキストの有する可能性を追求する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	アメリカ文学を深く理解することができる。
2	文学批評の在り方を理解することができる。
3	文学作品で論文を書くことができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

アフリカ系アメリカ人、人種差別、ジェンダー、奴隷制、抗議文学

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

アフリカ系アメリカ人の作品を数多く読み、その流れを掴むこと。文学史でアフリカ系アメリカ人作家の確認し、翻訳でいいので、系統立てて多くの作品に触れること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明	
第2回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	Nella Larsen, <i>Passing</i> 講読	
第3回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	Nella Larsen, <i>Passing</i> 講読	
第4回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	Nella Larsen, <i>Passing</i> 講読	
第5回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	Nella Larsen, <i>Passing</i> 講読	
第6回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	Nella Larsen, <i>Passing</i> 講読	
第7回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	Nella Larsen, <i>Passing</i> 講読	
第8回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	Toni Morrison, <i>Beloved</i> 講読	
第9回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	Toni Morrison, <i>Beloved</i> 講読	
第10回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	Toni Morrison, <i>Beloved</i> 講読	
第11回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	Toni Morrison, <i>Beloved</i> 講読	
第12回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	Toni Morrison, <i>Beloved</i> 講読	
第13回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	Toni Morrison, <i>Beloved</i> 講読	
第14回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	Toni Morrison, <i>Beloved</i> 講読	
第15回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	黒人文学の評論	
第16回	担当教員	藤吉 清次郎	
	授業内容	まとめ	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストの精読と報告資料の作成。
- ・最低でも週4時間程度の自主的な研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

The Complete Fiction of Nella Larsen: Passing, Quicksand, and the Stories (Anchor Books)
 Toni Morrison, *Beloved* (A Plume Book)

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	60
その他	

【成績評価に関する補足】

・毎回の授業の参加態度40%、期末レポート60% ・徹底した予習を前提とした授業なので予習ができていない場合は欠席扱いとする。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
藤吉 清次郎	月曜	4限	人文社会科学部4F第3演習室

【オフィスアワーに関する補足】

--

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
文化・コミュニケーション論特論	Culture and Communication (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D01	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81544171
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	土屋 京子	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

翻訳について

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Translation Studies

授業の目的【COURSE AIMS】

・翻訳論に関する重要な文献を読み進めながら、翻訳についての包括的な理論について理解し、考察を深める。
・なお本授業は、グローバル社会研究コースの中で、ドイツ語圏における言語文化ならびに異文化間問題を研究する「言語コミュニケーション領域」に属する科目である。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

文化・コミュニケーション論演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業では、翻訳学についての教科書的文献であるジェレミー・マンディの『翻訳学入門』、ならびに先駆けて包括的な文芸理論を構築したジョージ・スタイナーの『バベルの後に——言葉と翻訳の諸相』の第二版に加筆された序文と第4章を読みながら、翻訳論の射程を考察する。前者はみすず書房の日本語版(2009)を用いる。後者の文献に関しては法政大学出版局から出ている日本語訳版(1999/2009)を使用するが、適宜、原著の第二版(Oxford, 1992)と、ドイツ語訳版(Frankfurt a. M., 1981)も参照する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	翻訳学における主要な論点について学び知る。
2	翻訳に関する問題を自らの立場から批判的に考察することができる。
3	翻訳に関する最新の研究動向について、1つ以上説明できる。
4	翻訳学の見地から他者と議論し、自らの考えを明快な日本語で表すことができる。
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

翻訳、異文化理解、比較文学

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・授業では基本的に日本語を用いるが、外国語(主に英語とドイツ語)に関する一般的な知識があるのが望ましい。
- ・授業内で適宜参考資料を指示するが、その他にも自ら文献調査を積極的に行うことができること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	オリエンテーション 授業の進め方、文献調査などについての説明	
第2回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの講読① 翻訳という概念について	
第3回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの講読② 翻訳学とは何か	
第4回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの講読③ 翻訳史	
第5回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの講読④ 1970年代以降の翻訳学の射程	
第6回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの講読⑤ 『バベルの後に』を読む	
第7回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの講読⑥ 『バベルの後に』を読む	
第8回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの講読⑦ 『バベルの後に』を読む	
第9回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの講読⑧ 『バベルの後に』を読む	
第10回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの講読⑨ 『バベルの後に』を読む	
第11回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの講読⑩ 『バベルの後に』を読む	
第12回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの講読⑪ 『バベルの後に』を読む	
第13回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの講読⑫ 『バベルの後に』を読む	
第14回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	総括ならびにディスカッション 授業内容のまとめをし、全体で議論する	
第15回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	レポートのピアレビューと講評① レポートのプロットを用いて、ピアレビューしたうえで、講評する	
第16回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	レポートのピアレビューと講評② レポートの草稿を用いて、ピアレビューしたうえで、講評する	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストの精読と課題レポートの作成、それらにともなう文献調査。
- ・最低でも週4時間程度、上記のための時間に充てること。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

ジェレミー・マンディ『翻訳学入門』みすず書房2009年
 ジョージ・スタイナー『バベルの後に—言葉と翻訳の諸相 上下』法政大学出版局1999/2009年

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	20
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	40
その他	40

【成績評価に関する補足】

・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度20%、期末レポート40%の総合評価とする。
 ・到達目標①～③は、毎回の授業態度の中で評価する。到達目標④については、授業態度に加えて期末レポートと合わせて評価する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
土屋 京子	火曜	1限	人文社会科学部棟3階、土屋京子研究室

【オフィスアワーに関する補足】

メール等でアポイントメントをとってください

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
文化・コミュニケーション論演習	Culture and Communication (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D02	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81549121
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	土屋 京子	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

翻訳について

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Translation Studies

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・ 翻訳論に関する重要な文献を輪読し、議論を通じて、異文化を理解することとは何かについて考える。
- ・ なお本授業は、グローバル社会研究コースの中で、ドイツ語圏における言語文化ならびに異文化間問題を研究する「言語コミュニケーション領域」に属する科目である。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

文化・コミュニケーション論特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業では、現代の文学現象を「世界文学」という切り口から分析したデイヴィッド・ダムロッシュの『世界文学とは何か？』を参考にしながら、翻訳を通じて世界に流通している「世界文学」によって可能となる文化の「越境」について考察する。基本的に国書刊行会から出ている邦訳(2011)ならびに原著(2003)を教科書として使用し、適宜、文学作品の分析を行う。また後半部では、受講生が研究の主体となって、個別発表を取り入れつつ、「世界文学」についての分析を拡げることを目標とする。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	翻訳学における主要な論点について学び知る。
2	翻訳に関する問題を自らの立場から批判的に考察することができる。
3	翻訳に関する最新の研究動向について、1つ以上説明できる。
4	翻訳学の見地から他者と議論し、自らの考えを明快な日本語で表すことができる。
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

翻訳、異文化理解、比較文学

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・授業では基本的に日本語を用いるが、外国語(主に英語とドイツ語)に関する一般的な知識があるのが望ましい。
- ・授業内で適宜参考資料を指示するが、その他にも自ら文献調査を積極的に行うことができる。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	オリエンテーション 授業の進め方、文献調査などについての説明	
第2回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの輪読 ① 『世界文学とは何か』①	
第3回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの輪読 ② 『世界文学とは何か』②	
第4回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの輪読 ③ 『世界文学とは何か』 ③	
第5回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの輪読 ④ 『世界文学とは何か』 ④	
第6回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの輪読 『世界文学とは何か』 ⑤	
第7回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	テキストの輪読 『世界文学とは何か』 ⑥	
第8回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	総括のためのディスカッションと個別テーマについて ダムロッシュの「世界文学」の議論の射程をまとめたうえで、個別テーマについて発表する	
第9回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	個別発表 ① 受講者による口頭発表と質疑応答 ①	
第10回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	個別発表 ② 受講者による口頭発表と質疑応答 ②	
第11回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	個別発表 ③ 受講者による口頭発表と質疑応答 ③	
第12回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	「世界文学」に関する文献の講読 ① 「世界文学」に関する一次文献と二次文献の紹介と分析 ①	
第13回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	「世界文学」に関する文献の講読 ② 「世界文学」に関する一次文献と二次文献の紹介と分析 ②	
第14回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	レポートのピアレビューと講評 ① レポートの草稿を用いて、ピアレビューをしたうえで講評する	
第15回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	レポートのピアレビューと講評 ② レポートの草稿を用いて、ピアレビューをしたうえで講評する	
第16回	担当教員	土屋 京子	
	授業内容	最終総括 授業内容のまとめをし、全体で議論する	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストの精読と課題レポートの作成、それらにともなう文献調査。
- ・最低でも週4時間程度、上記のための時間に充てること。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

David Damrosch: "What is world literature?"(2003) /『世界文学とは何か?』秋草俊一郎他訳、2011年。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	20
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	40
その他	40

【成績評価に関する補足】

・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度20%、期末レポート40%の総合評価とする。
 ・到達目標①～③は、毎回の授業態度の中で評価する。到達目標④については、授業態度に加えて期末レポートと合わせて評価する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
土屋 京子	金曜	2限	人文社会科学部棟3階、土屋京子研究室

【オフィスアワーに関する補足】

--

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
異文化間コミュニケーション論特論	Intercultural Communication (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D05	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81540172
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	リングリー	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

This is an introductory graduate level course in IC Communication designed to give students an overview of Intercultural Communication themes relating to language learning and education.

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

This is an introductory graduate level course in IC Communication. Students will be expected to read a variety of materials relating to culture, intercultural communication and English Language Teaching, and to demonstrate understanding of the readings in a seminar context. Students should be able to identify basic ICC topics and discuss them critically in English.

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	To develop an understanding of the importance of Intercultural Communication in English language education
2	To be able to critically understand key issues in Intercultural Communication
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

Intercultural Communication, English, ELT

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

All course content will be delivered in English. Students should have a demonstrated command of English, be able read and report on English research articles, and be able to speak and write in English at a high level. A pre-requisite understanding of Intercultural Communication is also expected

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Course Introduction	
第2回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit A: Culture and its meanings	
第3回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit A: Culture and Stereotypes	
第4回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit A: Cultural contact	
第5回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit B: Cultural categories	
第6回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit B: Cultural dimensions	
第7回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit B: Approaches to Studying ICC	
第8回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit C: Norms and high cost topics	
第9回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit C: Cross-cultural Pragmatics	
第10回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit C: Politeness and face	
第11回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit C: Grice's co-operative principle	
第12回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit D: ICC in the EFL classroom I: Listening	
第13回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit D: ICC in the EFL classroom II: ICC Texts	
第14回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit D: ICC in the EFL classroom III: Simulations	
第15回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit D: ICC in the EFL classroom IV: Critical Incidents	
第16回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Course wrap and assessment	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

Students will be expected to read widely in preparation for each weekly meeting

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Materials and selected readings to be provided.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	

【成績評価に関する補足】

Strong seminar contribution, student-led seminar in an agreed upon area of study and end-of-semester essay.

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
リングリー	Monday	4th period	Humanities 407

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
異文化間コミュニケーション論演習	Intercultural Communication (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D06	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81545122
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	リングリー	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

This is an intermediate level graduate level course in IC Communication exploring the praxis between Culture, Intercultural Communication and English language education. A guiding question for this course is 'Whose rules do we use for the purposes of Intercultural Communication?' We will consider consider this question based on pragmalinguistics and intercultural pragmatics.

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

By the end of this course, students should be able to critically discuss some of the main ways in which culture is defined and conceptualized, explain what is meant by the dimensions along which it is claimed that cultures are likely to vary, and explain ways in which pragmatic norms may vary across cultures.

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	To develop and understanding of intercultural pragmatics
2	To develop approaches for using ICC in language education
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

Intercultural Communication, English, ELT

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

All course content will be delivered in English. Students should have a demonstrated command of English, be able read and report on English research articles, and be able to speak and write in English at a high level. The main pre-requisite for this course is successful completion of Intercultural Communication (Advanced)

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Course Introduction	
第2回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit A: The research field: Challenging theoretical aims	
第3回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit A: The research field: Pragmatic awareness in instructed learning	
第4回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit A: The research field: Pragmalinguistics and Intercultural Pragmatics	
第5回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit A: The research field: Lingua Franca Communication	
第6回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit A: The research field: Politeness strategies in speech and writing	
第7回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit B: From research to teaching: Developing pragmatic competence	
第8回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit B: From research to teaching: Negotiated interaction	
第9回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit B: From research to teaching: Closing the conversation	
第10回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit B: From research to teaching: Authenticity and input	
第11回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit C: Case studies in ICC I: Introduction	
第12回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit C: Case studies in ICC II: Research issues	
第13回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit C: Case studies in ICC III: Critical incidents	
第14回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit D: ICC in practice I: Managing Otherization	
第15回	担当教員	リングリー	
	授業内容	Unit D: ICC in practice II: Essentialist vs, non-essentialist representation of culture	
第16回	担当教員	リングリー	
	授業内容	course wrap and assessment	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

Students are expected to read widely and contribute to seminar,

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

All materials and readings will be provided

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	

【成績評価に関する補足】

A strong seminar contribution in English is essential to the final grade. Reports and presentations will also be used to assess students.

成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
リングリー	Thursday	5th period	Humanities 407

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
日本語習得論特論I	Japanese Language Acquisition (Advanced I)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D11	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81541371
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	渡辺 裕美	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

日本語教育、コーパス

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

日本語教育・第二言語習得研究で用いられている日本語学習者コーパスについて概観したうえで、具体的な研究事例を見ながら、コーパスを用いた研究・分析手法を学ぶ。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

授業では、文献購読を通じて、日本語教育分野におけるコーパス研究概要と手法を理解し、自らの研究につなげる。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	コーパスについて基本的な知識を身につける。
2	日本語教育分野におけるコーパスを用いた研究・分析手法を知る。
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

日本語教育、コーパス

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

・日本語教育に興味をもっていること

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	オリエンテーション、授業概要の説明および発表ローテーションの決定	
第2回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	文献講読と発表	
第3回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	文献講読と発表	
第4回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	文献講読と発表	
第5回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	文献講読と発表	
第6回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	文献講読と発表	
第7回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	文献講読と発表	
第8回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	文献講読と発表	
第9回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	文献講読と発表	
第10回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	文献講読と発表	
第11回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	文献講読と発表	
第12回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	文献講読と発表	
第13回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	文献講読と発表	
第14回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	文献講読と発表	
第15回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	文献講読と発表	
第16回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	期末レポートの提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

授業では発表者は発表レジュメを作成し、必要に応じて追加情報についても発表できるように準備する。必要に応じて実際にコーパスを用いて分析を行う。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

『新・日本語教育のためのコーパス調査入門』くろしお出版、2018
 『コーパスで学ぶ日本語学 日本語教育への応用』朝倉書店、2018
 『学習者コーパスと日本語教育研究』くろしお出版、2019

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	50
その他	50

【成績評価に関する補足】

発表担当時の内容50%、期末レポート50%の総合評価とする。

○成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
渡辺 裕美	火曜	4限	人文社会科学部棟 5階 532研究室

【オフィスアワーに関する補足】

その他、相談に応じます。要予約。

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
日本語習得論演習I	Japanese Language Acquisition (Seminar I)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D12	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81546321
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	渡辺 裕美	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

日本語教育、コーパス

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

「日本語習得論特論 I」の内容ををふまえ、受講者の研究テーマにあわせて、学習者コーパスからデータを収集し、データを分析したうえで、考察・発表を行う。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

発表者は発表レジュメを作成し、発表する。必要に応じて実際にコーパスを用いて分析を行う。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	様々なコーパスを使用することを通して自らの研究テーマを見つける。
2	コーパスを用いて自らの研究テーマに応じた分析ができる。
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

日本語教育、コーパス

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・日本語教育に関する基本的な知識
- ・「日本語習得論特論I」を履修していることが望ましい

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	授業概要の説明および発表ローテーションの決定	
第2回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	発表(コーパス紹介)	
第3回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	発表(コーパス紹介)	
第4回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	発表(コーパス紹介)	
第5回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	発表(コーパス紹介)	
第6回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	分析と報告、ディスカッション	
第7回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	分析と報告、ディスカッション	
第8回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	分析と報告、ディスカッション	
第9回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	分析と報告、ディスカッション	
第10回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	分析と報告、ディスカッション	
第11回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	分析と報告、ディスカッション	
第12回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	分析と報告、ディスカッション	
第13回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	分析と報告、ディスカッション	
第14回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	分析と報告、ディスカッション	
第15回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	分析と報告、ディスカッション	
第16回	担当教員	渡辺 裕美	
	授業内容	期末レポートの提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

発表者は発表の準備をする。また、各自でテーマを設定した後は、各自分析を進める。
週4時間程度の授業時間外学習が必要となります。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

『新・日本語教育のためのコーパス調査入門』くろしお出版、2018
 『コーパスで学ぶ日本語学 日本語教育への応用』朝倉書店、2018
 『学習者コーパスと日本語教育研究』くろしお出版、2019

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	20
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	50
その他	30

【成績評価に関する補足】

発表担当時の内容30%、ディスカッションへの参加度20%、期末レポート50%の総合評価とする。

○成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
渡辺 裕美	火曜	4限	人文社会科学部棟 5階 532研究室

【オフィスアワーに関する補足】

その他、相談に応じます。要予約。

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
応用言語学特論	Applied Linguistics (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D17	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81540371
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免ー中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	今井 典子	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

第二言語習得

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

second language acquisition

授業の目的【COURSE AIMS】

言語習得、言語教育に関する応用言語学の理論を理解し、日本の言語(英語)教育にどのように応用できるのかを考える。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

応用言語学に関する日本語で書かれたテキストを用いて授業を進めていく。必要に応じてテキスト以外の論文(英語論文も含む)を読み、補足情報を提供する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	言語習得に関する様々な理論(仮説)の中から、重要な理論(仮説)を5つ以上説明できる。
2	学習した言語習得理論より、日本の言語教育の課題を5つ以上述べることができる。
3	言語習得の知見より、効果的な言語活動のためのポイントを5つ以上説明できる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

第二言語習得、言語教育、英語教育、

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

基本的な第二言語習得の知識(学部での第二言語習得論の授業を受講していることが望ましい)、および、英語論文を用いて議論することがありますので、研究英語論文を読むことができる英語力が必要です。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	オリエンテーション、行動主義心理学者の言語習得理論	
第2回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	生得説論者の言語習得理論、中間言語	
第3回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	誤答分析、L2習得の初期段階の特徴	
第4回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	子どものL1習得と大人のL2習得の相違性と類似性、転移	
第5回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	動機づけ、化石化	
第6回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	年齢差と言語習得、学習スタイルとL2習得(1)	
第7回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	学習スタイルとL2習得(2)、Krashen の言語習得理論	
第8回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	L2学習での潜在的な知識と顕在的な知識、文化変容仮説(1)	
第9回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	文化変容仮説(2)、適応仮説	
第10回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	ゆらぎ	
第11回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	多次元モデル	
第12回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	アウトプット仮説	
第13回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	インタラクション仮説	
第14回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	社会文化的アプローチから見た第二言語習得(1)	
第15回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	社会文化的アプローチから見た第二言語習得(2)、期末試験	
第16回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	プレゼンテーション発表(テスト)	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

毎回予習として、次の授業に向けてテキストあるいは論文を読み、そして、内容の概要を説明する準備をする(レジュメの作成など)。内容によっては、調べて追加情報を発表できるように準備をする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

必携：大喜多喜夫(2013)『応用言語学—ことばはどのように学習されるか』、昭和堂。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	20
中間試験	
中間レポート	
期末試験	30
期末レポート	
その他	50

【成績評価に関する補足】

期末試験30%、毎回の課題発表30%、学習意欲(授業中への積極的な議論)20%、プレゼンテーション20%で評価する。到達目標の1から3については、期末試験やプレゼンテーション、議論での発言内容で確認する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
今井 典子	金曜	1限	人文社会科学部棟3階 315番

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
応用言語学演習	Applied Linguistics (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D18	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81545321
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	今井 典子	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

第二言語習得

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

second language acquisition

授業の目的【COURSE AIMS】

言語習得に関する論文を講読し、言語はどのように学ばれ、どのような要因が影響しているのかを理解する。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

授業の概要【COURSE SUMMARY】

第二言語習得 (SLA)をめぐる論文を取り上げ検討する。様々な論文を講読し、ディスカッションを通して考えを深化させる。また、受講生の研究テーマと関連する論考を講読し、内容を議論する。修士論文のテーマに沿った研究発表を行い、その内容を指導する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標 (COURSE OBJECTIVES)
1	言語習得に関する様々な理論(仮説)の中から、重要な理論(仮説)を5つ以上説明できる。
2	言語習得に影響する要因の中で、特に重要だと考える要因を5つ以上説明できる。
3	言語習得の知見に基づいて、より効果的な言語学習(言語指導)のポイントを5つ以上説明できる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

第二言語習得、言語教育、英語教育

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

基本的な第二言語習得の知識 (学部での第二言語習得論の授業を受講していることが望ましい)、および、英語論文を用いて議論することがありますので、研究英語論文を読むことができる英語力が必要です。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	イントロダクション、The characteristics of learner language(1)	
第2回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	The characteristics of learner language(2)	
第3回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	Developmental patterns in second language acquisition(1)	
第4回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	Developmental patterns in second language acquisition(2)	
第5回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	Pragmatic aspect of learner language(1)	
第6回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	Pragmatic aspect of learner language(2)	
第7回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	Input, interaction, and second language acquisition(1)	
第8回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	Input, interaction, and second language acquisition(2)	
第9回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	Input, interaction, and second language acquisition(3)	
第10回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	Social aspect of second language acquisition (1)	
第11回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	Social aspect of second language acquisition (2)	
第12回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	Sociocultural theory and second language acquisition	
第13回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	Language transfer	
第14回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	Cognitive accounts of second language acquisition	
第15回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	期末試験、研究発表とディスカッション (1)	
第16回	担当教員	今井 典子	
	授業内容	研究発表とディスカッション (2)	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

毎回予習として次の授業に向けて論文を読んでくること、そして内容の概要を説明することが求められます。内容によっては、調べて追加情報を発表できること。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Ellis, R. (2008). *The Study of Second Language Acquisition*. Oxford: Oxford University Press.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	20
中間試験	
中間レポート	
期末試験	30
期末レポート	
その他	50

【成績評価に関する補足】

期末試験30%、毎回の課題発表40%、学習意欲(授業中への積極的な議論)20%、プレゼンテーション10%で評価する。到達目標の1から3については、期末試験、プレゼンテーション、議論での発言内容で確認する。

○成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
今井 典子	水曜日、金曜日	1限	人文社会科学部棟3階 315番

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
英語音声学特論	Pedagogic phonetics and phonology
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D71	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81540572
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	ショーン バーゴイン	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

英語音声学

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

English phonetics and phonology

授業の目的【COURSE AIMS】

This is an advanced-level graduate course exploring themes related to English phonetics and pronunciation and how these relate to pedagogy.

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

--

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	To develop an understanding of English phonetics and phonology
2	To understand the issues surrounding recent research into English phonetics and pronunciation
3	To understand the pedagogical application of English phonetics and phonology in language classrooms
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

Phonetics, Pronunciation

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

Students should have strong command of English sufficient to read and discuss academic articles in English and write reports in English. An interest in English phonetics, as well as some background in this area, is also desirable.

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	Course overview	
第2回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	An introduction to segmentals	
第3回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	Features of the IPA Lesson 1	
第4回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	Features of the IPA Lesson 2	
第5回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	Short 'pure' vowels 1	
第6回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	Short 'pure' vowels 2	
第7回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	Short 'pure' vowels pedagogical application	
第8回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	Long 'pure' vowels	
第9回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	Long 'pure' vowels pedagogical application	
第10回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	Diphthongs□	
第11回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	Diphthongs; pedagogical application	
第12回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	Consonants	
第13回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	Consonants; pedagogical application	
第14回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	Consonant clusters	
第15回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	Consonant clusters; pedagogical application	
第16回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	Presentation (test)	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

It will be necessary for students to review material presented in the lecture and do preparatory reading.

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

--

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	40
その他	60

【成績評価に関する補足】

Short weekly presentations based on assigned reading 60%. Final Report 40%

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
ショーン バーゴイン	火曜	1限	人文社会科学部棟5階537番

【オフィスアワーに関する補足】

--

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目 英語音声学演習	英文科目名【Course Title】
授業コード【Course Code】 12D72	単位数【Course Credits(Units)】 2
授業種別【Course Classification】 演習	履修開始年次 1
開講学期【Semester】 第2学期	時間割【Day/Period】
科目区分等 平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81545522
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	ショーン バーゴイン	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

英語音声学

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

English phonetics and phonology

授業の目的【COURSE AIMS】

This is an advanced-level graduate course exploring themes related to English phonetics and pronunciation and how these relate to pedagogy.

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

授業の概要【COURSE SUMMARY】

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	To develop an understanding of English phonetics and phonology
2	To understand the issues surrounding recent research into English phonetics and pronunciation
3	To understand the pedagogical application of English phonetics and phonology in language classrooms
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

Phonetics, pronunciation

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

Students should have strong command of English sufficient to read and discuss academic articles in English and write reports in English. An interest in English phonetics, as well as some background in this area, is also desirable.

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	Course overview	
第2回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	An introduction to suprasegmentals	
第3回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	The history of suprasegmental instruction	
第4回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	Research into suprasegmentals	
第5回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	Stress and rhythm	
第6回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	Stress and rhythm pedagogical application	
第7回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	The nature and structure of intonation	
第8回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	The nature and structure of intonation; pedagogical application	
第9回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	Assimilation and Elision	
第10回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	Assimilation and Elision pedagogical application	
第11回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	Other connected speech	
第12回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	Other connected speech pedagogical application	
第13回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	Rhythm	
第14回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	Rhythm pedagogical application	
第15回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	Voice quality	
第16回	担当教員	シヨーン バーゴイン	
	授業内容	Presentation (test)	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

It will be necessary for students to review material presented in the lecture and do preparatory reading.

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Materials and selected readings to be provided. 資料と精選された読み物を配布する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	100

【成績評価に関する補足】

Evaluation will be equally based on seminar discussions, presentations, and reports

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
ショーン バーゴイン	火曜	1限	人文社会科学部棟5階537番

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
言語文化研究特論	Language and Culture Research (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D29	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81540771
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免ー中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	古閑 恭子	人文社会科学部	koga@kochi-u.ac.jp

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

言語学、社会言語学

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Linguistics, Sociolinguistics

授業の目的【COURSE AIMS】

・言語学、社会言語学、言語文化論の領域における諸研究、動向、方法論を理解し、自らの研究テーマに活かす。

・なお、本授

業はグローバル社会研究コースの言語コミュニケーション領域に属する科目である。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

文献講読を通じて、言語研究の最新のトピックおよび理論動向について検討する。また、並行して受講生の研究発表も随時行う。講読文献については、受講生の関心に応じて、希望も聞きつつ決めたい。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	言語研究に必要な知識、考え方を身につける。
2	言語研究における動向を理解し、批判的に考察することができる。
3	言語研究の諸研究の中で自らの研究を位置づけ、議論することができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

言語学、社会言語学、言語文化論

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

言語学、社会言語学に関する基本的な知識を有することが望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	オリエンテーション 授業概要の説明および発表ローテーションの決定。	
第2回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第3回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第4回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第5回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第6回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第7回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第8回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第9回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第10回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第11回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第12回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第13回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第14回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第15回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第16回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	課題作成、提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストの精読、関連資料の収集およびレジュメの作成。
- ・最低週4時間程度の自主学習を必要とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

角田太作 『世界の言語と日本語 改訂版—言語類型論から見た日本語』くろしお出版, 2009.
 リンゼイ J. ウェイリー 『言語類型論入門 言語の普遍性と多様性 (岩波オンデマンドブックス)』岩波書店, 2017.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

発表内容40%、授業参加態度40%、期末レポート20%。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
古閑 恭子	火曜	2限	人文社会科学部棟3階 古閑研究室

【オフィスアワーに関する補足】

--

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
言語文化研究演習	Language and Culture Research (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D30	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81545721
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免ー中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	古閑 恭子	人文社会科学部	koga@kochi-u.ac.jp

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

言語学、社会言語学

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Linguistics, Sociolinguistics

授業の目的【COURSE AIMS】

・言語学、社会言語学、言語文化論の領域における諸研究、動向、方法論を理解し、自らの研究テーマに活かす。 ・なお、本授業はグローバル社会研究コースの言語コミュニケーション領域に属する科目である。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

文献講読を通じて、言語研究の最新のトピックおよび理論動向について検討する。また、並行して受講生の研究発表も随時行う。講読文献については、受講生の関心に応じて、希望も聞きつつ決めたい。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	言語研究に必要な知識、考え方を身につける。
2	言語研究における動向を理解し、批判的に考察することができる。
3	言語研究の諸研究の中で自らの研究を位置づけ、議論することができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

言語学、社会言語学、言語文化論

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

言語学、社会言語学に関する基本的な知識を有することが望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	オリエンテーション 授業概要の説明および発表ローテーションの決定。	
第2回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第3回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第4回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第5回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第6回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第7回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第8回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第9回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第10回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第11回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第12回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第13回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第14回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第15回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	文献講読 輪読、発表およびディスカッション	
第16回	担当教員	古閑 恭子	
	授業内容	課題作成、提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

・テキストの精読、関連資料の収集およびレジュメの作成。
時間程度の自主学習を必要とする。

・最低週4

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

角田太作 『世界の言語と日本語 改訂版—言語類型論から見た日本語』くろしお出版, 2009.
 リンゼイ J. ウェイリー 『言語類型論入門 言語の普遍性と多様性 (岩波オンデマンドブックス)』岩波書店, 2017.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

発表内容40%、授業参加態度40%、期末レポート20%。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
古閑 恭子	火曜	2限	人文社会科学部棟3階 古閑研究室

【オフィスアワーに関する補足】

--

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
イギリス言語文化論特論	British Language and Culture (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D37	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81542371
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	吉門 牧雄	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

17世紀から19世紀にかけての英文学史

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

History of English Literature from the 17th century to the 19th century

授業の目的【COURSE AIMS】

- 本授業の目的は、17世紀から19世紀にかけての英文学史の流れを理解し、基本的な作品を英語で精読すること。
- 当時の時代背景や社会の状況について理解すること。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

授業の概要【COURSE SUMMARY】

17世紀から19世紀にかけての英文学の流れを概観し、その時代の主要な作品の重要性を理解する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	17世紀から19世紀にかけての英文学史について、これまで理解していることをもとに、新たに理解したことを説明できる。
2	17世紀から19世紀にかけての英文学史における代表的な作品の内容について理解し、その重要性を説明できる。
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

英文学史、代表的作品

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

英語読解能力を高めるとともに、17世紀から19世紀にかけての英文学史を概観すること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	イントロダクション 授業概要の説明	
第2回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	王政復古時代のイングランド考察(一回目) 上記テーマについての説明と代表的テキストの講読	
第3回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	王政復古時代のイングランド考察(二回目) 上記テーマについての説明と代表的テキストの講読	
第4回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	王政復古時代のイングランド考察(三回目) 上記テーマについての説明と代表的テキストの講読	
第5回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	デフォー時代のイングランド考察(一回目) 上記テーマについての説明と代表的テキストの講読	
第6回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	デフォー時代のイングランド考察(二回目) 上記テーマについての説明と代表的テキストの講読	
第7回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	デフォー時代のイングランド考察(三回目) 上記テーマについての説明と代表的テキストの講読	
第8回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	ジョンソン博士時代のイングランド考察(一回目) 上記テーマについての説明と代表的テキストの講読	
第9回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	ジョンソン博士時代のイングランド考察(二回目) 上記テーマについての説明と代表的テキストの講読	
第10回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	ジョンソン博士時代のイングランド考察(三回目) 上記テーマについての説明と代表的テキストの講読	
第11回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	ヴィクトリア朝のイングランド考察(一回目) 上記テーマについての説明と代表的テキストの講読	
第12回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	ヴィクトリア朝のイングランド考察(二回目) 上記テーマについての説明と代表的テキストの講読	
第13回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	ヴィクトリア朝のイングランド考察(三回目) 上記テーマについての説明と代表的テキストの講読	
第14回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	授業の総括(一回目) 上記テーマについての説明と代表的テキストの講読	
第15回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	授業の総括(二回目) 授業全体のまとめを行う	
第16回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	期末試験	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

授業で使用するテキストやプリントの内容をあらかじめ予習して下さい。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

The Norton Anthology English Literature, Vol.1 & Vol. 2

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	20
中間試験	
中間レポート	
期末試験	40
期末レポート	40
その他	

【成績評価に関する補足】

期末試験40%、レポート40%、課題や学習意欲(授業中への積極的な参加)20%、合計100%で評価する。

○成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
吉門 牧雄	月曜	4限	人文社会科学部棟3F 吉門牧雄研究室

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
イギリス言語文化論演習	British Language and Culture (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D38	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81547321
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免ー中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	吉門 牧雄	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

イギリス言語文化における代表的作品の講読

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

・ 本授業の目的は、ヴィクトリア朝の英文学史で主要な作品を英語で精読し、その重要性を理解すること。
時代背景や社会の状況と文学作品の関連性について理解すること。

・ 当時の

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

ヴィクトリア朝の言語文化や当時の社会情勢を概観しつつ、代表的な作品を精読し、その重要性を理解する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	英文学史における主要な作品について、これまで理解していることをもとに、新たに理解したことを説明できる。
2	英文学史における代表的な作品の内容と当時の社会状況の関連について理解し、その重要性を説明できる。
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

英文学史、代表的作品、ヴィクトリア朝

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

英語読解能力を高めるとともに、17世紀から19世紀にかけての英文学史において主要な作品を精読すること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	イントロダクション 授業概要の説明	
第2回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	ヴィクトリア朝の歴史的背景の考察(一回目) 上記テーマについての説明と代表的テキストの講読	
第3回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	ヴィクトリア朝の歴史的背景の考察(二回目)	
第4回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	ヴィクトリア朝の歴史的背景の考察(三回目) 上記テーマについての説明と代表的テキストの講読	
第5回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	アルフレッド・テニスの英詩研究(一回目) 上記テーマについての説明と代表的テキストの講読	
第6回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	アルフレッド・テニスの英詩研究(二回目) 上記テーマについての説明と代表的テキストの講読	
第7回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	ロバート・ブラウニング英詩研究(一回目) 上記テーマについての説明と代表的テキストの講読	
第8回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	ロバート・ブラウニング英詩研究(二回目) 上記テーマについての説明と代表的テキストの講読	
第9回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	マッシュュー・アーノルドの散文研究(一回目) 上記テーマについての説明と代表的テキストの講読	
第10回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	マッシュュー・アーノルドの散文研究(二回目) 上記テーマについての説明と代表的テキストの講読	
第11回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	ウォルター・ペイターの散文研究(一回目) 上記テーマについての説明と代表的テキストの講読	
第12回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	ウォルター・ペイターの散文研究(二回目) 上記テーマについての説明と代表的テキストの講読	
第13回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	ウォルター・ペイターの散文研究(三回目) 上記テーマについての説明と代表的テキストの講読	
第14回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	授業の総括(一回目) 上記テーマについての説明と代表的テキストの講読	
第15回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	授業の総括(二回目) 授業全体のまとめを行う	
第16回	担当教員	吉門 牧雄	
	授業内容	期末試験	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

授業で用いるテキストをあらかじめ予習し、精読してください。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

The Norton Anthology English Literature, Vol.1 & Vol. 2

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	20
中間試験	
中間レポート	
期末試験	40
期末レポート	40
その他	

【成績評価に関する補足】

期末試験40%、レポート40%、課題や学習意欲(授業中への積極的な参加)20%、合計100%で評価する。

○成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
吉門 牧雄	月曜	4限	人文社会科学部棟3F 吉門牧雄研究室

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- 対面のみ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン
- オンライン同期型のみ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面
- オンライン非同期型のみ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部
- オンライン同期型+非同期型 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面
- 調整中

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
中国近代文化論特論	Modern Chinese Culture (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D49	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81543371
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	高橋 俊	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

近代中国の地域文化

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Regional culture in modern China

授業の目的【COURSE AIMS】

- 中国近代の地域に関することを、文学や映画などから学ぶ
- 中国の地域文化について、それがどのような過程で作られ、どのようなイメージを持つのかについて理解する

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

授業は文献購読を主とし、適宜映画を交え、さらに研究論文を閲読しながら、中国の地域文化に関するイメージを掴む

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	中国近代の地域文化に関して理解する
2	映画や文学などから、中国の地域イメージを把握する
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

中国、近代、地域、文化

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

中国近代の歴史や文化に関する基礎的な知識を有すること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	ガイダンス 授業の流れを説明する	
第2回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	作品購読 中国の地域を扱った作品の講読	
第3回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	作品購読 中国の地域を扱った作品の講読	
第4回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	作品購読 中国の地域を扱った作品の講読	
第5回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	映画鑑賞 中国の地域を扱った作品の講読	
第6回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	映画鑑賞 中国の地域を扱った作品の講読	
第7回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	映画鑑賞 中国の地域を扱った作品の講読	
第8回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	作品講読 中国の地域を扱った作品の講読	
第9回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	作品講読 中国の地域を扱った作品の講読	
第10回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	映画鑑賞 中国の地域を扱った作品の講読	
第11回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	論文講読 中国の地域文化を扱った論文の講読	
第12回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	論文講読 中国の地域文化を扱った論文の講読	
第13回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	論文講読 中国の地域文化を扱った論文の講読	
第14回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	論文講読 中国の地域文化を扱った論文の講読	
第15回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	まとめ これまでのまとめの発表	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

授業で講読できる文献や映画については限りがあるため、作品については授業時間外に講読、鑑賞することが必要となる。授業では、それに関する討論を行う。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

とくになし

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	50
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	50
その他	

【成績評価に関する補足】

普段の授業の準備や学習態度:50点
 期末レポート:50点

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
高橋 俊	月曜	10:30～12:30	高橋研究室(人文社会科学部棟511)

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
中国近代文化論演習	Modern Chinese Culture (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D46	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81548321
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	高橋 俊	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

近代上海の文化

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Modern culture in Shanghai

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・近代の上海のイメージを持つ
- ・上海に関する文献や作品に多く触れる

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

歴史的な文献や文学作品、映画を通して、近代の上海に関するイメージを深める

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	近代の上海に関する具体的なイメージを持つ
2	近代上海が、現在の上海とどのように結びつくのかに関する理解を深める
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

近代、上海、文化

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

近代上海の文化に関する基礎的な知識を有すること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	ガイダンス	
第2回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	文献講読 上海に関する文献を講読する	
第3回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	討論 前回講読した文献について討論を行う	
第4回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	文献講読 上海に関する文献を講読する	
第5回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	討論 前回講読した文献について討論を行う	
第6回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	文学作品講読 上海に関する文学作品を講読する	
第7回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	討論 前回講読した作品について討論を行う	
第8回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	文学作品講読 上海に関する作品を講読する	
第9回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	討論 前回講読した作品について討論を行う	
第10回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	映画鑑賞 上海に関する映画を鑑賞する	
第11回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	討論 前回視聴した映画について討論する	
第12回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	映画鑑賞 前回視聴した映画について討論する	
第13回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	映画鑑賞 上海に関する映画を鑑賞する	
第14回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	討論 前回視聴した映画について討論する	
第15回	担当教員	高橋 俊	
	授業内容	まとめ 授業の内容をまとめて討論する	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

文学作品や映画をできるだけ多く読み、視聴する

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

必要なし。こちらで準備する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	50
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	50
その他	

【成績評価に関する補足】

授業態度:50%
レポート:50%

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
高橋 俊	月曜	10:30～12:30	高橋研究室(人文社会科学部棟511)

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
アメリカ文化論特論Ⅱ	American Culture (Advanced II)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D55	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81542671
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	山下 興作	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

アメリカの演劇文化について、ミュージカルを中心に考える

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

ミュージカルを中心にアメリカ演劇の特質について理解を深める。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

--

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	ブロードウェイのアメリカ文化における位置づけについて理解する
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

演劇、ミュージカル

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

なし

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	イントロダクション	
第2回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。	
第3回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。	
第4回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。	
第5回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。	
第6回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。	
第7回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。	
第8回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。	
第9回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。	
第10回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。	
第11回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。	
第12回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。	
第13回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。	
第14回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。	
第15回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。	
第16回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

事情が許す限り生の舞台に接する。
DVD等で日ごろからミュージカル作品に接する。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

なし

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	100
期末レポート	
その他	

【成績評価に関する補足】

学期末の試験で評価する

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
山下 興作	木曜	2限	研究室(人文棟4階433室)

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
アメリカ文化論演習Ⅱ	American Culture (Seminar II)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D56	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81547621
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免ー中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	山下 興作	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

ブロードウェイミュージカルの具体的作品を取り上げ、そのミュージカル史上の位置づけについて議論する。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

--

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	ブロードウェイミュージカルの具体的作品を取り上げ、そのミュージカル史上の位置づけを理解する
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

演劇、ミュージカル

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

なし

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	イントロダクション	
第2回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	具体的作品について議論する。	
第3回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	具体的作品について議論する。	
第4回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	具体的作品について議論する。	
第5回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	具体的作品について議論する。	
第6回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	具体的作品について議論する。	
第7回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	具体的作品について議論する。	
第8回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	具体的作品について議論する。	
第9回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	具体的作品について議論する。	
第10回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	具体的作品について議論する。	
第11回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	具体的作品について議論する。	
第12回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	具体的作品について議論する。	
第13回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	具体的作品について議論する。	
第14回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	具体的作品について議論する。	
第15回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	具体的作品について議論する。	
第16回	担当教員	山下 興作	
	授業内容	具体的作品について議論する。	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

事情が許す限り生の舞台に接する。
DVD等で日ごろからミュージカル作品に接する。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

なし

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	100
期末レポート	
その他	

【成績評価に関する補足】

学期末の試験で評価する

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
山下 興作	木曜	2限	研究室(人文棟4階433室)

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
イギリス文化論特論 I	British Culture (Advanced II)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D59	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81542271
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	渡邊 裕子	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

「語る手法」からみるイギリス文学史

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

The History of English Literature Approached from the Narratological Viewpoint

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・「語り方」の多様性について意識的になること
- ・語る手法の変遷からイギリス文学史を概観してみること
- ・語る手法の変遷と、作品が生まれた時代背景や文化的思潮を関連付けて捉えてみること

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

全体の授業回数前半は、語りの手法の種類についてDavid Lodgeの*The Art of Fiction*を基に概観します。後半は、イギリス文学の代表的な作品を実際に少しずつ読み、どのような語りの手法が用いられているか議論し、またなぜそのような手法がとられているのか時代背景も合わせながら考察します。扱う作品については実際の授業の様子をみて決定します。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	文学作品についてテーマを設定し論じることができるようになる。
2	文学作品に現れる多様な語り手の種類について説明することができるようになる。
3	作品の書かれた時代背景と語りの手法を関連させて説明することができるようになる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

イギリス文学、ナラトロジー

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

英語で書かれた散文作品を原文で読むことができる程度の英語読解力

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業は教員による説明(講義)だけでなく、学生による発表やグループワークでの議論なども行って貰います。シラバスの授業計画に記載の授業内容は授業の進行具合によって随時変更を加えます。毎回の授業で扱う項目は前の週の授業内でお知らせします。

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員		イントロダクション
	授業内容	授業概要説明	
第2回	担当教員		<i>The Art of Fiction</i> を基にした語りの手法紹介
	授業内容	上記書(2「押しつけがましい著者」その他)	
第3回	担当教員		<i>The Art of Fiction</i> を基にした語りの手法紹介
	授業内容	上記書(6「視点」その他)	
第4回	担当教員		<i>The Art of Fiction</i> を基にした語りの手法紹介
	授業内容	上記書(9「意識の流れ」その他)	
第5回	担当教員		<i>The Art of Fiction</i> を基にした語りの手法紹介
	授業内容	上記書(11「異化」その他)	
第6回	担当教員		<i>The Art of Fiction</i> を基にした語りの手法紹介
	授業内容	上記書(17「テキストの中の読者」その他)	
第7回	担当教員		<i>The Art of Fiction</i> を基にした語りの手法紹介
	授業内容	上記書(24「マジック・リアリズム」その他)	
第8回	担当教員		<i>The Art of Fiction</i> を基にした語りの手法紹介
	授業内容	上記書(29「未来の予測」その他)	
第9回	担当教員		<i>The Art of Fiction</i> を基にした語りの手法紹介
	授業内容	上記書(34「信頼できない語り手」その他)	
第10回	担当教員		<i>The Art of Fiction</i> を基にした語りの手法紹介
	授業内容	上記書(39「皮肉」その他)	
第11回	担当教員		<i>The Art of Fiction</i> を基にした語りの手法紹介
	授業内容	上記書(46「メタフィクション」その他)	
第12回	担当教員		18世紀の代表的な文学作品を読む(Swift、Defoe等)
	授業内容	18世紀の代表的な文学作品の一部を読んで語りの手法を確認する	
第13回	担当教員		19世紀の代表的な文学作品を読む(Dickens、Brontë姉妹等)
	授業内容	19世紀の代表的な文学作品の一部を読んで語りの手法を確認する	
第14回	担当教員		20世紀の代表的な文学作品を読む(Woolf、Joyce等)
	授業内容	20世紀の代表的な文学作品の一部を読んで語りの手法を確認する	
第15回	担当教員		20世紀の代表的な文学作品を読む(Orwell、Golding等)
	授業内容	20世紀の代表的な文学作品の一部を読んで語りの手法を確認する	
第16回	担当教員		
	授業内容	期末レポート	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

授業で読む範囲に関する簡単な予習レポートに取り組んで貰います

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

David Lodge: *The Art of Fiction* (Vintage Books)
 ※出版社や版が違っていても構いませんが、教科書は必携です。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	60
その他	

【成績評価に関する補足】

学習意欲・授業参加度は、毎回の授業における予習レポートの取り組み度や授業時の議論の参加度で評価します。
 期末レポートは、任意で文学作品を1つ選んで、その作品に関して自分でテーマを設定し、論じたものを提出して貰います。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
渡邊裕子	火曜日	4,5時限	人文社会 科学部棟 3階 渡邊研究室

【オフィスアワーに関する補足】

メール等による予約で上記時間以外も対応します。

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
イギリス文化論演習 I	British Culture (Seminar II)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D60	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81547221
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	渡邊 裕子	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

20世紀イギリス文学を読む(Virginia Woolf の *Mrs Dalloway* 輪読)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

A Study of Virginia Woolf's *Mrs Dalloway*

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・20世紀イギリスの代表的作家の一人であるVirginia Woolfの作品について知り、作品の内容について考えてみること
- ・文学作品についてテーマを設定し、論じられるようになること
- ・作品にあらわれた情報から、当時の時代背景や社会状況について知識を深めること

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

授業の概要【COURSE SUMMARY】

Virginia Woolf作*Mrs Dalloway*を輪読し、作品からどのようなテーマを考えることができるか討論を行う。授業は、毎回担当者による発表とその後の自由討論で構成します。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	文学作品に関して、自分でテーマを設定し、論じられるようになる。
2	<i>Mrs Dalloway</i> という作品の特徴について説明できるようになる。
3	<i>Mrs Dalloway</i> という作品が創作された当時の時代背景や文化的思潮について説明できるようになる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

イギリス文学、20世紀前半

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

長編作品を英語原文で読むことができる程度の英語読解力

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

毎回授業該当範囲の予習(テキストを一読してくる)が必須です。

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員		オリエンテーション
	授業内容	授業概要の説明、作品の概要説明、発表の担当者決め	
第2回	担当教員		<i>Mrs. Dalloway</i> (pp.1～15)
	授業内容	上記の範囲に関して、気になった箇所等の発表・討論	
第3回	担当教員		<i>Mrs. Dalloway</i> (pp.16～30)
	授業内容	上記の範囲に関して、気になった箇所等の発表・討論	
第4回	担当教員		<i>Mrs. Dalloway</i> (pp.31～45)
	授業内容	上記の範囲に関して、気になった箇所等の発表・討論	
第5回	担当教員		<i>Mrs. Dalloway</i> (pp.46～60)
	授業内容	上記の範囲に関して、気になった箇所等の発表・討論	
第6回	担当教員		<i>Mrs. Dalloway</i> (pp.61～75)
	授業内容	上記の範囲に関して、気になった箇所等の発表・討論	
第7回	担当教員		<i>Mrs. Dalloway</i> (pp.76～90)
	授業内容	上記の範囲に関して、気になった箇所等の発表・討論	
第8回	担当教員		<i>Mrs. Dalloway</i> (pp.91～105)
	授業内容	上記の範囲に関して、気になった箇所等の発表・討論	
第9回	担当教員		<i>Mrs. Dalloway</i> (pp.106～120)
	授業内容	上記の範囲に関して、気になった箇所等の発表・討論	
第10回	担当教員		<i>Mrs. Dalloway</i> (pp.121～135)
	授業内容	上記の範囲に関して、気になった箇所等の発表・討論	
第11回	担当教員		<i>Mrs. Dalloway</i> (pp.136～150)
	授業内容	上記の範囲に関して、気になった箇所等の発表・討論	
第12回	担当教員		<i>Mrs. Dalloway</i> (pp.151～165)
	授業内容	上記の範囲に関して、気になった箇所等の発表・討論	
第13回	担当教員		<i>Mrs. Dalloway</i> (pp.166～180)
	授業内容	上記の範囲に関して、気になった箇所等の発表・討論	
第14回	担当教員		<i>Mrs. Dalloway</i> (pp.181～195)
	授業内容	上記の範囲に関して、気になった箇所等の発表・討論	
第15回	担当教員		<i>Mrs. Dalloway</i> (pp.196～213)
	授業内容	上記の範囲に関して、気になった箇所等の発表・討論	
第16回	担当教員		
	授業内容	期末レポート	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

各回の授業範囲に関して、英語原文で一読し、内容を予習しておくこと。疑問点や気になった箇所についてなんでも良いのでメモをしておくこと。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Virginia Woolf: *Mrs Dalloway* (Penguin Classics) (ISBN: 978-0241371947)
 ※教科書は必携です。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	60
その他	

【成績評価に関する補足】

学習意欲・授業参加度は、毎回の授業における議論の参加度や担当者になった場合の発表の準備度で評価します。
 期末レポートは、*Mrs Dalloway*に関して自分でテーマを設定し、レポートとして論じたものを提出して貰います。

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
渡邊裕子	火曜日	4,5時限	人文社会 科学部棟 3階 渡邊研究室

【オフィスアワーに関する補足】

メール等の事前予約により、上記時間帯以外も対応します。

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
西洋社会経済思想史特論	Social and Economic History of Thought (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F05	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81551371
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	森 直人	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

近世西欧地域における社会経済思想に関する検討: スコットランド啓蒙とデイヴィッド・ヒュームを題材として

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Hume and the Scottish Enlightenment: an enquiry into socio-economic thoughts in early modern western Europe.

授業の目的【COURSE AIMS】

・この授業では、18世紀西欧の顕著な思潮の1つであるスコットランド啓蒙思想について概説的な理解を得て、特にその主要人物であるデイヴィッド・ヒュームの社会・経済思想の歴史的内容と意義、そして現代に至る問題性について議論し、一定の理解を得ることを目指します。
 ・この授業は、グローバル化のもたらす社会的・文化的諸問題を研究する「比較社会文化領域」に属し、それら諸問題の要因を、近代西欧由来の社会的・経済的諸制度およびその背後にある諸思想の中に探求する役割を担います。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

西洋社会経済思想史演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

この授業では、上述のように、スコットランド啓蒙思想およびデイヴィッド・ヒュームの社会経済思想について、標準的な理解を確認した上で、専門的な論争状況を把握し、それに独自に考察を加えられるようになることを目指します。そのために、それぞれに関する標準的な解説書、学会誌の研究動向、さらに専門論文および専門書を学生が読解した上で、教員からのコメントおよび質疑を行う形で授業を進めていきます。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	スコットランド啓蒙とその歴史的背景について標準的な解釈を理解し、それを口頭ないし文章で表現できる。
2	ヒュームの生涯と思想について標準的な解釈を理解し、それを口頭ないし文章で表現できる。
3	社会と経済をめぐるヒュームの思想の歴史的 content と意義についての専門的な論争状況を知り、それを自分自身の言葉で説明し、考察を加えることができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

社会思想史、近代、西欧、スコットランド、18世紀、啓蒙、ヒューム

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

この授業では、社会思想史分野の基礎知識に基づきつつ、参加学生が自らの研究関心に応じ、近代西洋の社会と経済に関する諸思想の中から特定の思潮または思想家を研究対象として選択します。その上でこの授業では、その対象についての学術文献の講読を通じ、通説的理解と専門的な議論の状況の把握を行います。そのため、学生には、この授業の前提として人文社会科学部授業科目「近代社会論」「社会思想史」に相当する社会思想史の基礎知識と、概説的文献から専門論文まで読み進める意欲および読解力が必要となります。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	森 直人	
	授業内容	オリエンテーション 授業の目的・概要の説明。参加者の希望に応じた内容の調整。リーディング・リストの配布。	
第2回	担当教員	森 直人	
	授業内容	スコットランド啓蒙とヒュームについての通説的理解の把握(1) 学部レベルの教科書(宇野重規『西洋政治思想史』等)、専門分野の事典(『イギリス哲学・思想事典』等)の読解	
第3回	担当教員	森 直人	
	授業内容	スコットランド啓蒙とヒュームについての通説的理解の把握(2) 英語圏での基本文献の読解(Very Short Introduction, Oxford DNB等)	
第4回	担当教員	森 直人	
	授業内容	スコットランド啓蒙とヒュームについての通説的理解の把握(3) 英語圏での基本文献の読解(Very Short Introduction, Oxford DNB等)	
第5回	担当教員	森 直人	
	授業内容	スコットランド啓蒙とヒュームについての通説的理解の把握(4) 英語圏での基本文献の読解(Very Short Introduction, Oxford DNB等)	
第6回	担当教員	森 直人	
	授業内容	ヒュームをめぐる専門的な論争状況について(1) より専門的な文献の読解を通じて(『ヒューム読本』、Cambridge Companion to Hume等)	
第7回	担当教員	森 直人	
	授業内容	ヒュームをめぐる専門的な論争状況について(2) より専門的な文献の読解を通じて(『ヒューム読本』、Cambridge Companion to Hume等)	
第8回	担当教員	森 直人	
	授業内容	ヒュームをめぐる専門的な論争状況について(3) より専門的な文献の読解を通じて(『ヒューム読本』、Cambridge Companion to Hume等)	
第9回	担当教員	森 直人	
	授業内容	ヒュームをめぐる専門的な論争状況について(4) より専門的な文献の読解を通じて(『ヒューム読本』、Cambridge Companion to Hume等)	
第10回	担当教員	森 直人	
	授業内容	ヒュームの現代的意義と問題性(1) 教員の助言で参加者が選択した専門書・専門論文を読解。ヒュームの意義と問題性を議論	
第11回	担当教員	森 直人	
	授業内容	ヒュームの現代的意義と問題性(2) 教員の助言で参加者が選択した専門書・専門論文を読解。ヒュームの意義と問題性を議論	
第12回	担当教員	森 直人	
	授業内容	ヒュームの現代的意義と問題性(3) 教員の助言で参加者が選択した専門書・専門論文を読解。ヒュームの意義と問題性を議論	
第13回	担当教員	森 直人	
	授業内容	ヒュームの現代的意義と問題性(4) 教員の助言で参加者が選択した専門書・専門論文を読解。ヒュームの意義と問題性を議論	
第14回	担当教員	森 直人	
	授業内容	全体の振り返り: 期末レポートの準備 これまでの読解内容を振り返り、期末レポートのアウトラインを発表、教員と議論を行う。	
第15回	担当教員	森 直人	
	授業内容	期末レポートのチュートリアル 草稿について発表し、教員から質問・コメント。	
第16回	担当教員	森 直人	
	授業内容	予備日。	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

・テキストの読解と報告資料の作成(週に4時間程度)

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

具体的な教科書・参考書は授業参加者と調整。現時点で予定している文献は以下の通り。

- ・Broadie, Alexander (ed.) 2019. The Cambridge Companion to the Scottish Enlightenment. Cambridge: Cambridge University Press.
- ・中才敏郎編(2005)『ヒューム読本』法政大学出版局。
- ・日本イギリス哲学会編(2007)『イギリス哲学・思想事典』研究社。
- ・Norton, David Fate and Jacqueline Taylor (eds.) 2007. The Cambridge Companion to Hume: second edition. Cambridge: Cambridge University Press.
- ・Oxford Dictionary of National Biography. Oxford: Oxford University Press.
- ・Robertson, John. 2015. The Enlightenment: A Very Short Introduction. Oxford: Oxford University Press.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	30
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	40
その他	30

【成績評価に関する補足】

- ・担当時の発表30%、毎回の議論への貢献30%、期末レポート40%にて評価する。
- ・到達目標1・2については主に担当時の発表および期末レポートにて、また到達目標3・4については主に議論への貢献と期末レポートにて評価する。

成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
森 直人	金曜	4限	研究室(人文社会科学部棟5階543室)

【オフィスアワーに関する補足】

--

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
西洋社会経済思想史演習	Social and Economic History of Thought (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F06	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81556321
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	森 直人	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

デイヴィッド・ヒュームの社会経済思想の精読と考察: 近世西欧における社会経済思想史の一環として

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

David Hume on Society and Political Economy

授業の目的【COURSE AIMS】

・この授業では、スコットランド啓蒙の主要人物であるデイヴィッド・ヒュームの諸著作を読解することにより、彼の社会・経済思想の歴史的内容と意義、そして現代に至る問題性について議論し、一定の理解を得ることを目指します。
・この授業は、グローバル化のもたらす社会的・文化的諸問題を研究する「比較社会文化領域」に属し、それら諸問題の要因を、近代西欧由来の社会的・経済的諸制度およびその背後にある諸思想の中に探求する役割を担います。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

西洋社会経済思想史特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

この授業では、上述のように、「西洋社会経済思想史特論」の内容を踏まえつつ、ヒューム自身の諸著作を自分自身で読解し、専門的な論点について一定の独自性を持った解釈を提示することを目指します。そのために、ヒュームの諸著作の精読、その内容についての教員との議論、関連する専門文献の検索・入手・読解を、教員の助言のもと、学生自身が進めてゆきます。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	ヒューム『道徳・政治・文学論集』(翻訳)を精読し、標準的理解および専門的な論争状況を踏まえつつ、その内容を自分自身で解釈し表現できる。
2	ヒューム『道徳・政治・文学論集』から、少なくとも原書一章を抜粋して読解し、標準的理解および専門的な論争状況を踏まえつつ、その内容を自分自身で解釈し表現できる。
3	ヒューム『イングランド史』から、少なくとも原書一章を抜粋して読解し、標準的理解および専門的な論争状況を踏まえつつ、その内容を自分自身で解釈し表現できる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

社会思想史、近代、西欧、スコットランド、18世紀、ヒューム

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

この授業では、「西洋社会経済思想史特論」における特定の思潮／思想家に関する通説的理解と専門的な議論の状況の把握を前提として、その思潮／思想家に関する古典的テキストを精読し、その思想内容について考察・議論します。そのため、学生には前提として「西洋経済社会思想史特論」の履修を求めます。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	森 直人	
	授業内容	オリエンテーション 授業の目的・概要の説明。参加者の希望に応じた内容の調整。リーディング・リストの配布。	
第2回	担当教員	森 直人	
	授業内容	ヒューム『道徳・政治・文学論集』の読解と議論(1) 標記テキストから特定の章を選択して読解と議論	
第3回	担当教員	森 直人	
	授業内容	ヒューム『道徳・政治・文学論集』の読解と議論(2) 標記テキストから特定の章を選択して読解と議論	
第4回	担当教員	森 直人	
	授業内容	ヒューム『道徳・政治・文学論集』の読解と議論(3) 標記テキストから特定の章を選択して読解と議論	
第5回	担当教員	森 直人	
	授業内容	ヒューム『道徳・政治・文学論集』の読解と議論(4) 標記テキストから特定の章を選択して読解と議論	
第6回	担当教員	森 直人	
	授業内容	ヒューム『道徳・政治・文学論集』の読解と議論(5) 標記テキストから特定の章を選択して読解と議論	
第7回	担当教員	森 直人	
	授業内容	ヒューム『道徳・政治・文学論集』の読解と議論(6) 標記テキストから特定の章を選択して読解と議論	
第8回	担当教員	森 直人	
	授業内容	中間考察:テキストの何に注目してどこを掘り下げるか これまでの読解と議論に基づき、ヒュームのテキストの特にどのような内容について考察を進めるか 検討。次回以降のテキストを選択。	
第9回	担当教員	森 直人	
	授業内容	<i>Essays Moral, Political, and Literary</i> の読解と議論(1) 標記テキストから特定の章を選択して精読と議論	
第10回	担当教員	森 直人	
	授業内容	<i>Essays Moral, Political, and Literary</i> の読解と議論(2) 標記テキストから特定の章を選択して精読と議論	
第11回	担当教員	森 直人	
	授業内容	<i>Essays Moral, Political, and Literary</i> の読解と議論(3) 標記テキストから特定の章を選択して精読と議論。読解した章に対応する次回以降のテキストの選 択。	
第12回	担当教員	森 直人	
	授業内容	<i>History of England</i> の読解と議論(1) 標記テキストから特定の章を選択して精読と議論。読解した章に対応する次回以降のテキストの選 択。	
第13回	担当教員	森 直人	
	授業内容	<i>History of England</i> の読解と議論(2) 標記テキストから特定の章を選択して精読と議論。読解した章に対応する次回以降のテキストの選 択。	
第14回	担当教員	森 直人	
	授業内容	<i>History of England</i> の読解と議論(3) 標記テキストから特定の章を選択して精読と議論。読解した章に対応する次回以降のテキストの選 択。	
第15回	担当教員	森 直人	
	授業内容	期末レポートのアウトライン発表とコメント 期末レポートのアウトラインを発表し、教員からコメントを受ける。	
第16回	担当教員	森 直人	
	授業内容	予備日。	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・ヒュームの諸著作の読解と発表準備
- ・それに関わる専門文献の検索・入手・読解

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

現時点で予定しているテキストは、
 ・ヒューム、デイヴィッド、田中敏弘訳(2011)『ヒューム 道徳・政治・文学論集』名古屋大学出版会。
 ・Hume, David. 1983. The History of England from the Invasion of Julius Caesar to the Revolution in 1688. Foreword by William B. Todd, 6 vols. (Indianapolis: Liberty Fund 1983).
 ・Hume, David. Eugene F. Millar (ed.) 1985. Essays, Moral, Political, and Literary. Indianapolis: Liberty Fund.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	30
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	40
その他	30

【成績評価に関する補足】

・担当時の発表30%、毎回の議論への貢献30%、期末レポート40%にて評価する。
 ・到達目標1・2・3については主に担当時の発表および期末レポートにて、また到達目標4については主に議論への貢献と期末レポートにて評価する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
森 直人	金曜	4限	研究室(人文社会科学部棟5階543室)

【オフィスアワーに関する補足】

--

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
アジア経済社会論特論	Asian Economy and Society (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F13	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81553271
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	岩佐 和幸	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

グローバル化とアジア経済の批判的検討

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

・本授業のテーマは、政治経済学の分析視角を用いてグローバル化とアジア地域の構造変動を理解するとともに、研究動向を批判的に捉えながら自らの研究に活かすことにある。

・なお、この授業は、グローバル社会研究コースの中で、グローバル化のもたらす社会的・文化的諸問題を研究する「比較社会文化領域」に属する科目である。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業では、グローバル化の下でのアジア経済をめぐる最新のトピックならびに理論動向について、最近の日本語文献を素材に政治経済学の視角から検討する。あわせて、輪読と並行して、参加者個々の研究発表を随時盛り込むことを予定している。
 なお、毎年参加者が多様であることから、関心・進捗度に応じて、それにふさわしいテキストを選択することも考慮に入れたい。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	アジア経済の構造変動について、これまで理解していることをもとに、新たに理解したことを説明できる。
2	アジア経済に関する研究動向を自らの立場から批判的に考察することができる。
3	アジア経済の歴史・現状やそれに関する最新の研究動向について、1つ以上説明できる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

アジア経済、グローバル化、社会変化

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・アジアと日本の社会情勢を理解し、日々情報収集に努めていること。
- ・なお、政治経済学の基本概念を理解していることが望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス。	
第2回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第3回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第4回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第5回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第6回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第7回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第8回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第9回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第10回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第11回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第12回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第13回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第14回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第15回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	全体の総括 各自発表	
第16回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	総括レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストの精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

マーティン・ハート＝ランズバーグ(岩佐和幸監訳)『資本主義的グローバリゼーション－影響・抵抗・オルタナティブー』高菅出版、2015年
 末廣昭『新興アジア経済論－キャッチアップを超えて－』岩波書店、2014年
 平川均ほか『新・アジア経済論』文真堂、2016年
 藤田和子・文京洙『新自由主義下のアジア』ミネルヴァ書房、2016年

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。
 ・到達目標①～③は、毎回の授業態度の中で評価する。到達目標④については、授業態度に加えて期末レポートと合わせて評価する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
岩佐 和幸	木曜	2限	人文社会科学部棟4F 岩佐(和)研究室

【オフィスアワーに関する補足】

--

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
アジア経済社会論演習	Asian Economy and Society (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F14	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81515121
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	岩佐 和幸	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

グローバル化とアジア経済の批判的検討

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

・本授業のテーマは、政治経済学の分析視角を用いてグローバル化とアジア地域の構造変動を理解するとともに、研究動向を批判的に捉えながら自らの研究に活かすことにある。

・なお、この授業は、グローバル社会研究コースの中で、グローバル化のもたらす社会的・文化的諸問題を研究する「比較社会文化領域」に属する科目である。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業では、グローバル化の下でのアジア経済をめぐる最新のトピックならびに理論動向について、英語文献を素材に政治経済学の視角から検討する。あわせて、輪読と並行して、参加者個々の研究発表を随時盛り込むことを予定している。
 なお、毎年参加者が多様であることから、関心・進捗度に応じて、それにふさわしいテキストを選択することも考慮に入れたい。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	アジア経済の構造変動を深く理解することができる。 アジア経済の構造変動について、これまで理解していることをもとに、新たに理解したことを説明できる。
2	アジア経済に関する研究動向を自らの立場から批判的に考察することができる。
3	アジア経済の歴史・現状やそれに関する最新の研究動向を意欲的に摂取することができる。 アジア経済の歴史・現状やそれに関する最新の研究動向について、1つ以上説明できる。
4	アジア経済の現状や研究動向についての自らの立場を的確に表現し、他者と議論することができる。
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

アジア経済、グローバル化、社会変化

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・アジアと日本の社会情勢を理解し、日々情報収集に努めていること。
- ・なお、政治経済学の基本概念を理解していることが望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。報告ローテーションの決定。海外の文献収集についてのアドバイス。	
第2回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第3回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第4回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第5回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第6回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第7回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第8回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第9回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第10回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第11回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第12回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第13回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第14回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第15回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	全体の総括 各自発表	
第16回	担当教員	岩佐 和幸	
	授業内容	総括レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストの精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Intan Suwandi, Value Chains: The New Economic Imperialism, Monthly Review Press, 2019.
 Jennifer Bair, Frontiers of Commodity Chains Research, Stanford University Press, 2009.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	40
その他	20

【成績評価に関する補足】

・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。
 ・到達目標①～③は、毎回の授業態度の中で評価する。到達目標④については、授業態度に加えて期末レポートと合わせて評価する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
岩佐 和幸	木曜	4限	人文社会科学部棟4F 岩佐(和)研究室

【オフィスアワーに関する補足】

--

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
ラテンアメリカ経済社会論特論	Latin American Economy and Society (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F17	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81552171
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	中西 三紀	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

グローバリゼーション下のラテンアメリカ経済の構造変化とその批判的考察

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

・本授業の目的は、グローバル化の進行とともにラテンアメリカ経済に生じた構造変化を理解し、それを批判的に考察することができるようになることある。
・なお、この授業は、グローバル社会研究コースの中で、グローバル化がもたらす社会的・文化的諸問題を研究する「比較社会文化領域」に属する科目である。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

ラテンアメリカ経済社会論演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

グローバル化とラテンアメリカ経済を分析している文献・論文を輪読する。
各受講生は報告担当箇所のレジユメを用意し、それをもとにした他の受講生とのディスカッションを中心に授業を進める。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	グローバル化とラテンアメリカ経済の構造変化・現状について説明することができる。
2	ラテンアメリカ経済の構造変化に関する研究動向を説明することができる。
3	グローバル化、ラテンアメリカ経済の現状を批判的に考察することができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

ラテンアメリカ経済、ラテンアメリカ社会、グローバル化

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・新聞報道、ニュースなどを通じて、ラテンアメリカに関する情報を日々、積極的に収集すること。
- ・世界史、南北アメリカ関係に関する基礎的知識が必要。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明、輪読する文献および報告担当者の決定。	
第2回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 輪読・報告とディスカッション	
第3回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 輪読・報告とディスカッション	
第4回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 輪読・報告とディスカッション	
第5回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 輪読・報告とディスカッション	
第6回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 輪読・報告とディスカッション	
第7回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 輪読・報告とディスカッション	
第8回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 輪読・報告とディスカッション	
第9回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 輪読・報告とディスカッション	
第10回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 輪読・報告とディスカッション	
第11回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 輪読・報告とディスカッション	
第12回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 輪読・報告とディスカッション	
第13回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 輪読・報告とディスカッション	
第14回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 輪読・報告とディスカッション	
第15回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	授業の総括 受講生による総括、レポートについてのアナウンス	
第16回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	レポートの提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストの精読と報告資料の作成、および授業内容と報告に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の授業時間外学習を必要とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書は特に指定しない。初回授業時に受講生と相談のうえ決定する。
参考書は授業中に随時紹介する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	30
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	40
その他	30

【成績評価に関する補足】

・報告担当時の準備状況と報告内容(30%)、ディスカッションへの参加態度(30%)、レポート(40%)、合計100%で評価する。
・到達目標1～3は報告内容、ディスカッションへの参加態度、提出されたレポートで判断する。到達目標4はディスカッションへの参加態度から判断する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
中西 三紀	木曜	1限	中西研究室(人文社会科学部棟4階)

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
ラテンアメリカ経済社会論演習	Latin American Economy and Society (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F18	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81557121
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	中西 三紀	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

グローバル化下のラテンアメリカ経済の構造変化とその批判的考察

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

・本授業の目的は、グローバル化の進行とともにラテンアメリカ経済に生じた構造変化を理解し、それを批判的に考察することができるようになることである。
 ・なお、この授業は、グローバル社会研究コースの中で、グローバル化がもたらす社会的・文化的諸門団を研究する「比較社会文化領域」に属する科目である。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

ラテンアメリカ経済社会論特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

- ・日本語文献に限らず、英語文献(や可能であるならばスペイン語文献)にも候補を広げ、グローバル化とラテンアメリカ経済を分析している文献・論文を輪読する。
- ・各受講生は報告担当箇所のレジメを用意し、それをもとにした他の受講生とのディスカッションを中心に授業を進める。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	グローバル化とラテンアメリカ経済の構造変化、現状について説明することができる。
2	ラテンアメリカ経済の構造変化に関する研究動向を説明することができる。
3	グローバル化、ラテンアメリカ経済の現状を批判的に考察することができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

ラテンアメリカ経済、ラテンアメリカ社会、グローバル化

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・新聞報道、ニュースなどを通じて、ラテンアメリカに関する情報を日々、積極的に収集すること。
- ・世界史、南北アメリカ関係に関する基礎的知識が必要。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明、輪読する文献および報告担当者の決定。	
第2回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 輪読・報告とディスカッション	
第3回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 輪読・報告とディスカッション	
第4回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 輪読・報告とディスカッション	
第5回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 輪読・報告とディスカッション	
第6回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 輪読・報告とディスカッション	
第7回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 輪読・報告とディスカッション	
第8回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 輪読・報告とディスカッション	
第9回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 輪読・報告とディスカッション	
第10回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 輪読・報告とディスカッション	
第11回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 輪読・報告とディスカッション	
第12回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 輪読・報告とディスカッション	
第13回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 輪読・報告とディスカッション	
第14回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	文献の検討 輪読・報告とディスカッション	
第15回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	授業の総括 受講生による総括、レポートについてのアナウンス	
第16回	担当教員	中西 三紀	
	授業内容	レポートの提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストの精読と報告資料の作成、および授業内容と報告に関連する資料収集。
- ・最低でも週4時間程度の授業時間外学習を必要とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書は特に指定しない。初回授業時に受講生と相談のうえ決定する。
参考書は授業中に随時紹介する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	30
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	40
その他	30

【成績評価に関する補足】

・報告担当時の準備状況と報告内容(30%)、ディスカッションへの参加態度(30%)、レポート(40%)、合計100%で評価する。
・到達目標1～3は報告内容、ディスカッションへの参加態度、提出されたレポートで判断する。到達目標4はディスカッションへの参加態度から判断する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
中西 三紀	木曜	1限	中西研究室(人文社会科学部棟4階)

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
文化人類学特論	Anthropology (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F25	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81550171
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(地理歴史)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	岩佐 光広	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

ジェームズ・スコット『反穀物の人類史』を読む

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・「国家」の成立についての標準的な歴史を説明できる。
- ・スコットが描く「国家」についてのオルタナティブな歴史を説明できる。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

この授業では、ジェームズ・スコット『反穀物の人類史』を読みます。
ジェームズ・スコットは、政治学および人類学を専門とし、東南アジアをフィールドとしながら、独特の国家論を展開してきた。その特徴の一つは、「支配する側」ではなく「支配される側」とされてきた農民などの日常的な実践に注目しながら、通説として人口に膾炙している「国家」の諸言説を相対化し、そこからオルタナティブな国家の歴史を描くことである。『反穀物の人類史』は、通説とされてきた「人類は農耕を発明し、そのことで定住が起こり、そこから国家が形成された」という国家誕生の歴史を、さまざまな観点から相対化している。この授業では、本書の講読とディスカッションを通じて、通説としての国家の歴史を相対化することを試みます。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	人類の「穀物栽培」についての通説的な歴史を説明できる。
2	「穀物栽培→定住→国家の成立」という通説的な歴史を説明できる。□
3	スコットが指摘する「初期国家の農業生態系」について説明できる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

ジェームズ・スコット、国家、歴史

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・国家という概念についての基礎的な知識を有していること。
- ・文化人類学、社会学、地域研究についての基礎的な知識を有していると望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	イントロダクション 授業の進め方について説明する。	
第2回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	『反穀物の人類史』を読む(1) 『反穀物の人類史』第1章を読む。	
第3回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	『反穀物の人類史』を読む(2) 『反穀物の人類史』第1章についてディスカッションを行う。	
第4回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	『反穀物の人類史』を読む(3) 『反穀物の人類史』第2章を読む。	
第5回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	『反穀物の人類史』を読む(4) 『反穀物の人類史』第2章についてディスカッションを行う。	
第6回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	『反穀物の人類史』を読む(5) 『反穀物の人類史』第3章を読む。	
第7回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	『反穀物の人類史』を読む(6) 『反穀物の人類史』第3章についてディスカッションを行う。	
第8回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	『反穀物の人類史』を読む(7) 『反穀物の人類史』第4章を読む。	
第9回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	『反穀物の人類史』を読む(8) 『反穀物の人類史』第4章についてディスカッションを行う。	
第10回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	『反穀物の人類史』を読む(9) 『反穀物の人類史』第5章を読む。	
第11回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	『反穀物の人類史』を読む(10) 『反穀物の人類史』第5章についてディスカッションを行う。	
第12回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	『反穀物の人類史』を読む(11) 『反穀物の人類史』第6章を読む。	
第13回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	『反穀物の人類史』を読む(12) 『反穀物の人類史』第6章についてディスカッションを行う。	
第14回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	『反穀物の人類史』を読む(13) 『反穀物の人類史』第7章を読む。	
第15回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	『反穀物の人類史』を読む(14) 『反穀物の人類史』第7章についてディスカッションを行う。	
第16回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	プレゼンテーションとまとめ 授業について学びをもとにプレゼンテーションを行う。	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストおよび関連文献を読む。
- ・テキストに登場する地名や人名、概念等について調べる。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

【必携】

スコット、ジェームズ『反穀物の人類史——国家誕生のディープヒストリー』（立木勝訳、みすず書房、2019年）

【参考書】

スコット、ジェームズ『モーラル・エコノミー——東南アジアの農民叛乱と生存維持』（高橋彰、勁草書房、1999年）

スコット、ジェームズ『ゾミア——脱国家の世界史』（佐藤仁監訳、みすず書房、2013年）

スコット、ジェームズ『実践 日々のアナキズム——世界に抗う土着の秩序の作り方』（清水展ほか訳、岩波書店、2017年）

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	70
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	30

【成績評価に関する補足】

到達目標1～4について、授業におけるディスカッション(70点)および期末プレゼンテーション(30点)を総合して評価する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
岩佐 光広	水曜	1限	岩佐光広研究室(人文社会科学部棟4階東側)

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
文化人類学演習	Anthropology (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F26	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81555121
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(地理歴史)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	岩佐 光広	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

ジェームズ・スコット『ゾミア』を読む

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・東南アジアの「国家と山地民」の関係についての標準的な歴史を説明できる。
- ・スコットが描く「国家形成から逃れた人々の歴史」について説明できる。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

授業の概要【COURSE SUMMARY】

この授業では、ジェームズ・スコット『ゾミア』を読みます。
ジェームズ・スコットは、政治学および人類学を専門とし、東南アジアをフィールドとしながら、独特の国家論を展開してきた。その特徴の一つは、「支配する側」ではなく「支配される側」とされてきた農民などの日常的な実践に注目しながら、通説として人口に膾炙している「国家」の諸言説を相対化し、そこからオルタナティブな国家の歴史を描くことである。『ゾミア』は、通説に対して、東南アジア産地部に暮らす山地民は、国家への編入を回避し、自分たちの社会の内部から国家が生まれてこないように生きている「国家による束縛から逃れた人々」として捉え、その生存戦略についてさまざまな点から描き出している。この授業では、本書の講読とディスカッションを通じて、「国家形成から逃れた人々の歴史」について学ぶことを試みます。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標 (COURSE OBJECTIVES)
1	東南アジアにおける国家形成についての通説的な歴史を説明できる。
2	東南アジアの山地民の社会と文化の基礎的な特徴について説明できる。□
3	スコットが指摘する「ゾミア」という概念について説明できる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

ジェームズ・スコット、ゾミア、東南アジア

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・国家という概念についての基礎的な知識を有していること。
- ・文化人類学、社会学、地域研究についての基礎的な知識を有していると望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	イントロダクション 授業の進め方について説明する。	
第2回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	『ゾミア』を読む(1) 『ゾミア』第1章を読む。	
第3回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	『ゾミア』を読む(2) 『ゾミア』第1章についてディスカッションを行う。	
第4回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	『ゾミア』を読む(3) 『ゾミア』第2章を読む。	
第5回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	『ゾミア』を読む(4) 『ゾミア』第2章についてディスカッションを行う。	
第6回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	『ゾミア』を読む(5) 『ゾミア』第3章を読む。	
第7回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	『ゾミア』を読む(6) 『ゾミア』第3章についてディスカッションを行う。	
第8回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	『ゾミア』を読む(7) 『ゾミア』第4、5章を読む。	
第9回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	『ゾミア』を読む(8) 『ゾミア』第4、5章についてディスカッションを行う。	
第10回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	『ゾミア』を読む(9) 『ゾミア』第6章を読む。	
第11回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	『ゾミア』を読む(10) 『ゾミア』第6章についてディスカッションを行う。	
第12回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	『ゾミア』を読む(11) 『ゾミア』第7、8章を読む。	
第13回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	『ゾミア』を読む(12) 『ゾミア』第7、8章についてディスカッションを行う。	
第14回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	『ゾミア』を読む(13) 『ゾミア』第9章を読む。	
第15回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	『ゾミア』を読む(14) 『ゾミア』第9章についてディスカッションを行う。	
第16回	担当教員	岩佐 光広	
	授業内容	プレゼンテーションとまとめ 授業について学びをもとにプレゼンテーションを行う。	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストおよび関連文献を読む。
- ・テキストに登場する地名や人名、概念等について調べる。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

【必携】

スコット、ジェームズ『ゾミア——脱国家の世界史』（佐藤仁監訳、みすず書房、2013年）

【参考書】

スコット、ジェームズ『モーラル・エコノミー——東南アジアの農民叛乱と生存維持』（高橋彰、勁草書房、1999年）

スコット、ジェームズ『実践 日々のアナキズム——世界に抗う土着の秩序の作り方』（清水展ほか訳、岩波書店、2017年）

スコット、ジェームズ『反穀物の人類史——国家誕生のディープヒストリー』（立木勝訳、みすず書房、2019年）

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	70
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	30

【成績評価に関する補足】

到達目標1～4について、授業におけるディスカッション(70点)および期末プレゼンテーション(30点)を総合して評価する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
岩佐 光広	水曜	1限	岩佐光広研究室(人文社会科学部棟4階東側)

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
社会情報論特論	Socio-Informatics (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F29	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81550371
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	遠山 茂樹	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

情報メディアと社会的ネットワーク

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Information Media and Social Networks

授業の目的【COURSE AIMS】

・本授業の主題は、メディアテクノロジーによる社会的影響について、社会ネットワーク論的視点から考察することである。特にデジタルメディアの普及がもたらす社会変容について、グローバル、ナショナル、ローカル、個人的な社会圏といった様々な視点から批判的に考察し、自らの研究へ活かすことを目指す。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

社会情報論演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業では、主にメディア論と社会ネットワーク論に関わる文献の精読を通じて、これまでのメディアによる社会的影響や、社会的ネットワークの個人や集団、あるいは社会への影響に関する基本概念や理論を理解した上で、最新テクノロジーが構築する社会像や日常生活への浸透について、受講生間で議論しつつ、未来のメディア社会を批判的に検討する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	メディアについて基本的知識を説明できる
2	社会的ネットワークの社会的影響について、基本的内容を説明できる
3	デジタルメディアと社会ネットワークとの関連性について批判的に考察できる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

情報、メディア、テクノロジー、社会ネットワーク、社会学

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・情報とメディアに関する基礎知識を修得していること。
- ・メディアと社会・人間との関係性に興味を持っていること。
- ・メディア・テクノロジーと社会との関連性について、日々情報収集に努めていること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	オリエンテーション 授業概要説明。報告担当割り振り。文献収集に関するアドバイス。	
第2回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	文献1の批判的検討 輪読・報告・議論	
第3回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	文献1の批判的検討 輪読・報告・議論	
第4回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	文献1の批判的検討 輪読・報告・議論	
第5回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	文献1の批判的検討 輪読・報告・議論	
第6回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	文献2の批判的検討 輪読・報告・議論	
第7回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	文献2の批判的検討 輪読・報告・議論	
第8回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	文献2の批判的検討 輪読・報告・議論	
第9回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	文献2の批判的検討 輪読・報告・議論	
第10回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	文献3の批判的検討 輪読・報告・議論	
第11回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	文献3の批判的検討 輪読・報告・議論	
第12回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	文献3の批判的検討 輪読・報告・議論	
第13回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	文献3の批判的検討 輪読・報告・議論	
第14回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	総括レポートの作成について 総括レポートの作成に関する説明	
第15回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	全体の総括 各自発表	
第16回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	総括レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・課題資料の精読と報告資料の作成。
- ・テーマに関連する資料収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

M.マクルーハン著、栗原裕・河本仲聖訳(1987)『メディア論：人間の拡張の諸相』みすず書房
 ポール レヴィンソン著、服部桂訳(2000)『デジタル・マクルーハン—情報の千年紀へ』NTT出版
 野沢慎司編・監訳(2006)『リーディングス ネットワーク論—家族・コミュニティ・社会関係資本』勁草書房
 ニコラス・A・クリスタキス／ジェイムズ・H・ファウラー著、鬼澤忍訳(2010)『つながり：社会的ネットワークの驚くべき力』講談社
 シェリー・タークル著、渡会圭子訳(2018)『つながっているのに孤独：人生を豊かにするはずのインターネットの正体』ダイヤモンド社

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

高知大学moodle
<https://moodle.kochi-u.ac.jp/>

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

・授業における報告内容(担当分)40%、授業への積極的参加40%、期末レポート20%を総合的に評価する
 ・到達目標の①～③は、授業における報告内容、および、授業への積極的参加により確認する。到達目標④については、授業への積極的参加、および、期末レポートにより確認する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
遠山 茂樹	木曜	3限	人文社会科学部棟5F 遠山研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
社会情報論演習	Socio-Informatics (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F30	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81555321
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	遠山 茂樹	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

社会情報研究の方法論

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Methodologies for Socio-Informatics

授業の目的【COURSE AIMS】

本授業の主題は、社会情報研究の方法論について理解を深め、自らの研究へ応用できるようになることである。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

社会情報論特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業は社会情報研究の方法論に関する最近の動向について文献を通じて学ぶことを目的としている。社会情報研究の方法論について批判的に考察すると同時に、最終的には自らの研究テーマ下において適切なアプローチを選択し、研究計画の立案を構想してもらう。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	メディアテクノロジーの社会的影響について、基本的な内容を説明できる
2	社会情報研究の方法について、1つ以上説明できる
3	社会情報研究アプローチの適切な選択について批判的に考察できる
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

社会情報論、情報、メディア、テクノロジー、社会調査

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・情報とメディアに関する基礎知識を修得していること。
- ・メディアと社会・人間との関係性に関心を持っていること。
- ・メディア・テクノロジーと社会との関連性について、日々情報収集に努めていること。
- ・社会情報研究の方法論に関心を持っていること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	オリエンテーション 授業概要説明。報告担当割り振り。文献収集に関するアドバイス。	
第2回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	文献1の批判的検討 輪読・報告・議論	
第3回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	文献1の批判的検討 輪読・報告・議論	
第4回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	文献1の批判的検討 輪読・報告・議論	
第5回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	文献1の批判的検討 輪読・報告・議論	
第6回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	文献2の批判的検討 輪読・報告・議論	
第7回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	文献2の批判的検討 輪読・報告・議論	
第8回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	文献2の批判的検討 輪読・報告・議論	
第9回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	文献2の批判的検討 輪読・報告・議論	
第10回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	文献3の批判的検討 輪読・報告・議論	
第11回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	文献3の批判的検討 輪読・報告・議論	
第12回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	文献3の批判的検討 輪読・報告・議論	
第13回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	文献3の批判的検討 輪読・報告・議論	
第14回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	文献3の批判的検討 輪読・報告・議論	
第15回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	総括 研究計画について各自発表	
第16回	担当教員	遠山 茂樹	
	授業内容	総括レポート(研究計画書)の作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・社会調査の企画・実践のほとんどは授業時間外の作業となる。
- ・総括レポートの執筆は、授業時間外の作業となる。
- ・テーマに関連する資料収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

木村忠正(2018)『ハイブリッド・エスノグラフィー:NC研究の質的方法と実践』新曜社
 マシュー・J.サルガニック著、瀧川裕貴・常松淳・阪本拓人・大林真也訳(2019)『ビット・バイ・ビット:デジタル社会調査入門』有斐閣
 ダニエル・リフ/スティーヴン・レイシー/フレデリック・フィコ著、日野愛郎監訳(2018)『内容分析の進め方:メディア・メッセージを読み解く』勁草書房
 西垣通(2004)『基礎情報学:生命から社会へ』NTT出版

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

高知大学moodle
<https://moodle.kochi-u.ac.jp/>

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

・授業における報告内容(担当分)40%、授業への積極的参加40%、期末レポート20%を総合的に評価する
 ・到達目標の①～③は、授業における報告内容、および、授業への積極的参加により確認する。到達目標④については、授業への積極的参加、および、期末レポートにより確認する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
遠山 茂樹	木曜	3限	人文社会科学部棟5F 遠山研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
ミクロ経済学特論 I	Microeconomics (Advanced I)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
=シラバスフォーマットIA5	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81562171
ナンバリングコード2	81582171
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免-中学校(社会)専修、教免-高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	新井 泰弘	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

応用ミクロ経済学

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Applied Micro Economics

授業の目的【COURSE AIMS】

ミクロ経済学IIや産業組織論等で学んだ基礎知識を用いて様々な事例を分析する

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

産業組織論II

授業の概要【COURSE SUMMARY】**授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】**

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	既存の理論モデルを理解する
2	既存の理論モデルを用いて、自分の興味のある問題を分析するための簡単なモデルを作成することができる
3	作成したモデルの拡張を考えることができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

ミクロ経済学、産業組織論

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

英語文献の講読を厭わないこと。また、ミクロ経済学の知識と数学的素養(最適化の一階条件、二階条件、ラグランジュ乗数法の理解)が必要となります

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	Introduction	
第2回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	Nash equilibrium	
第3回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	Monopoly II	
第4回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	Monopoly II	
第5回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	Cournot Competiton I	
第6回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	Cournot Competiton II	
第7回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	Mid-term exam	
第8回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	Monopolistic Competition	
第9回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	Hotelling Model I	
第10回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	Hotelling Model II	
第11回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	Salop Model	
第12回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	Vertical Differentiation	
第13回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	M&A I	
第14回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	M&A II	
第15回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	M&A III	
第16回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	Final exam	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

課題と参考文献を各トピックごとに課す。前もって文献を読み込んでおくことを求めます。英語や数学の習熟度に依存しますが、文献購読には4~5時間ほどかかると思われます。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Oz Shy "Industrial Organization: Theory and Applications" The MIT Press, 1996.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	30
中間レポート	
期末試験	30
期末レポート	40
その他	

【成績評価に関する補足】

中間試験30%、期末試験30%、課題、レポート40%、合計100%で評価する。到達目標の1については、中間・期末試験や課題で確認する。到達目標2、3については、レポートで確認する。

○成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
新井 泰弘	火曜	1限	人文社会科学部 新井研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
ミクロ経済学演習 I	Microeconomics (Seminar I)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
=シラバスフォーマットIA197	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81567221
ナンバリングコード2	81587121
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免-中学校(社会)専修、教免-高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	新井 泰弘	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

応用ミクロ経済学

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Applied Micro Economics

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・ミクロ経済学IIや産業組織論等で学んだ基礎知識を用いて様々な事例を分析する
- ・修士論文の研究計画書を仕上げる

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

ミクロ経済学特論I

授業の概要【COURSE SUMMARY】

各人の興味に合わせて先行研究を紹介するので、それを読み込んだ上で報告を行う。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	既存の研究論文を読み込み、理解する
2	既存の研究論文を理解した後、自分でモデルを作成する
3	作成したモデルを基にして修士論文の骨組みを作る
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

ミクロ経済学、産業組織論

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

英語文献の講読を厭わないこと。また、ミクロ経済学の知識と数学的素養(最適化の一階条件、二階条件、ラグランジュ乗数法の理解)が必要となります

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	イントロダクション	
第2回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	研究計画書の書き方。問題設定	
第3回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	関連文献の報告①	
第4回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	関連文献の報告②	
第5回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	関連文献の報告③	
第6回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	関連文献の報告③	
第7回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	研究計画書の中間報告	
第8回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	関連文献の報告④	
第9回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	関連文献の報告⑤	
第10回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	関連文献の報告⑥	
第11回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	関連文献の報告⑦	
第12回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	関連文献の報告⑧	
第13回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	関連文献の報告⑨	
第14回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	研究計画書最終報告①	
第15回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	研究計画書最終報告②	
第16回	担当教員	新井 泰弘	
	授業内容	研究計画書最終報告③	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

前もって文献を読み込んでおくことを求めます。英語や数学の習熟度に依存しますが、文献購読には6時間ほどかかると思われます。また、読み込んだ文献を報告してもらいます。報告用資料の作成には2~3時間ほど要すると思われます。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参考文献は各々の分析対象に応じて適宜指示する

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	40
その他	60

【成績評価に関する補足】

中間報告30%、期末レポート課題40%、報告30%、合計100%で評価する。到達目標の1については、担当個所の報告内容で確認する。到達目標2、3については、期末レポートで確認する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
新井 泰弘	火曜	1限	人文社会科学部 新井研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
金融論特論	Finance and Banking (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
=シラバスフォーマットIA5	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81562371
ナンバリングコード2	81582371
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	卓 涓涓	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

現代の金融政策

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

金融論に関わる論文執筆に必要な理論・実証分析の知識・技術を学びます。

- (1) 金融政策の仕組みを理解する。
- (2) 金融政策の効果波及メカニズムについて基礎的理解を得る。
- (3) 銀行貸出経路の理論を理解する。
- (4) 金融論に関わる論文執筆に必要な実証分析の知識・技術を身につける。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

金融論演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本講義では、金融政策をめぐる最新のトピックならびに理論・実証研究動向について、英語文献を素材に理論経済学の視角から検討します。また、輪読と並行し、受講者自身の研究発表を随時盛り込むことを予定しています。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	金融調節の仕組みが説明できる。
2	金融政策の効果波及メカニズムが説明できる。
3	金融政策効果波及経路における銀行貸出の役割を理論モデルに基づき分析できる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

資本市場の不完全性, 銀行貸出経路, 金融政策の効果波及経路

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部レベルのミクロ経済学, マクロ経済学, 計量経済学の知識を前提とします。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	ガイダンス 授業の概要や学習の進め方などを説明し、報告ローテーションを決定します。	
第2回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Macroeconometric evidence on the transmission mechanism① 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第3回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Macroeconometric evidence on the transmission mechanism② 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第4回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Macroeconometric evidence on the transmission mechanism③ 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第5回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Macroeconometric evidence on the transmission mechanism④ 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第6回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Firm investment and monetary policy transmission① 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第7回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Firm investment and monetary policy transmission② 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第8回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Firm investment and monetary policy transmission③ 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第9回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Firm investment and monetary policy transmission④ 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第10回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	Firm investment and monetary policy transmission⑤ 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第11回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	The role of banks in the transmission① 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第12回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	The role of banks in the transmission② 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第13回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	The role of banks in the transmission③ 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第14回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	The role of banks in the transmission④ 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第15回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	The role of banks in the transmission⑤ 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。	
第16回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容	総括レポートの提出 総括レポートを提出します。	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

事前学習として、各回のテキストの該当する部分を読み、式の導出過程を含め、予習しておいてください。また、事後学習として、練習問題を解き、授業中に配布する関連文献を読んでください。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

- ・ Ignazio Angeloni, Anil K. Kashyap and Benoît Mojon. 2003. Monetary Policy Transmission in the Euro Area. Cambridge University Press. ISBN: 9780511492372.
- ・ N. Gregory Mankiw. 1994. Monetary Policy. University of Chicago Press. ISBN: 9780226503097.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	30
その他	70

【成績評価に関する補足】

- ・報告内容70%, 総括レポート30%, 合計100%で評価します。
- ・到達目標①～③は、毎回の報告内容により評価します。到達目標④については、報告内容に加え、総括レポートと合わせて評価します。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
卓 涓涓	木曜	3限	人文社会科学部棟3階卓研究室

【オフィスアワーに関する補足】

事前にメールで予約のこと

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
金融論演習	Finance and Banking (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
=シラバスフォーマットIA197	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81567321
ナンバリングコード2	81587321
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	卓 涓涓	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

実証分析入門

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Introduction to Empirical Analysis

授業の目的【COURSE AIMS】

金融論に関わる論文執筆に必要な実証分析の知識・技術を学びます。

- (1) 回帰分析を理解する。
- (2) 操作変数法の考え方を理解する。
- (3) パネル分析について基礎的理解を得る。
- (4) Stataによるプログラミングの基礎を身につける。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

金融論特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本講義では、テキストの輪読と統計ソフトを用いた実習を行うことにより、統計学的な基礎、回帰分析の基礎知識、Stataによるプログラミングの初歩的な知識などを学び、実証分析を行う上で最低限必要な知識・技能を身につけます。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	回帰分析の理論が説明できる。
2	操作変数法の使い方を身につける。
3	パネル分析の理論が説明できる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

回帰分析, 操作変数法, 固定効果, パネルデータ

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部レベルの計量経済学の知識は既に習得済みであることを条件とします。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容		ガイダンス 授業の概要や学習の進め方などを説明します。
第2回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容		Research Basics 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。
第3回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容		Design and Analysis of Experiments① 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。
第4回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容		Design and Analysis of Experiments② 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。
第5回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容		Regression Details① 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。
第6回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容		Regression Details② 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。
第7回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容		Regression Details③ 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。
第8回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容		Regression Details④ 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。
第9回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容		Instrumental Variables Technique① 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。
第10回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容		Instrumental Variables Technique② 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。
第11回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容		Instrumental Variables Technique③ 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。
第12回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容		Panel Data Analysis① 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。
第13回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容		Panel Data Analysis② 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。
第14回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容		Panel Data Analysis③ 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。
第15回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容		Panel Data Analysis④ 作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。
第16回	担当教員	卓 涓涓	
	授業内容		総括レポートの提出 総括レポートを提出します。

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

事前学習として、各回のテキストの該当する部分を読み、式の導出過程を含め、予習しておいてください。また、事後学習として、練習問題を解き、授業中に配布する関連文献を読んでください。さらに、Statalによるプログラミングの実習も行ってください。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

•Angrist, Joshua D. and Jörn-Steffen Pischke. 2009. Mostly Harmless Econometrics: An Empiricist's Companion. Princeton University Press. ISBN: 9780691120355.
 •Alan C. Acock. 2018. A Gentle Introduction to Stata, Sixth Edition. Stata Press. ISBN: 9781597182690.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	

【成績評価に関する補足】

・報告内容70%, 総括レポート30%, 合計100%で評価します。
 ・到達目標①～④は、毎回の報告内容により評価します。到達目標⑤については、報告内容に加え、総括レポートと合わせて評価します。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
卓 涓涓	木曜	3限	人文社会科学部棟3階卓研究室

【オフィスアワーに関する補足】

事前にメールで予約のこと

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
地方財政特論	Local Public Finance (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
=シラバスフォーマットIA5	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81561571
ナンバリングコード2	81581571
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	霜田 博史	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

現代日本の地方財政の現状と課題について考える

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- 現代日本の地方財政に関する政策的論点について整理し、理解する。
- 国との財政関係を地方自治体がどのように取り結んでいるのかを検討する。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

地方財政演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

地方分権改革が日本の政策課題の1つとして据えられてきたが、どのように改革を行うべきかという点において、財政の視点が必要になってくる。本授業では、共通テキストの輪読を通じて、地方財政改革の方向性を考える上での論点を整理し、検討することとする。なお、テキストについては、参加者の関心を踏まえたくえで決定するようにしたい。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	現代日本の地方財政に関する政策的な論点を説明することができるようになる。
2	日本の自治体財政は、国の地方財政政策にどのように規定されているのかが理解できるようになる。
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

地方財政、財政学

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

特に求めることはないが、新聞報道・ニュースなどの関連話題について、継続的な関心を持つておくこと。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	授業のガイダンスとテキスト選定に関する打ち合わせ	
第2回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	参加者の研究テーマに関する意見交流とテキスト報告の割り振り	
第3回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト1冊目の検討(1)	
第4回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト1冊目の検討(2)	
第5回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト1冊目の検討(3)	
第6回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト1冊目の検討(4)	
第7回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト1冊目の検討(5)	
第8回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト1冊目の検討(6)	
第9回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト1冊目に関する総合討論	
第10回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト2冊目の検討(1)	
第11回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト2冊目の検討(2)	
第12回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト2冊目の検討(3)	
第13回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト2冊目の検討(4)	
第14回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト2冊目の検討(5)	
第15回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト2冊目に関する総合討論	
第16回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	授業全体の総括討論	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

テキストの独習はもちろんのこと、報告の準備が必要になる。おおむね、毎回4時間程度の準備が必要となる。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参加者と相談のうえ、第1回の授業で決定する。2冊を選び検討する予定。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	50
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	50

【成績評価に関する補足】

担当時の報告内容50%、毎回の議論における参加態度50%の割合で評価する。
到達目標①、②は、毎回の授業態度の中で評価する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
霜田 博史	火曜	3限	研究室(人文学部棟3F335)

【オフィスアワーに関する補足】

1学期: 火曜日3限、2学期: 火曜日2限

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
地方財政演習	Local Public Finance (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
=シラバスフォーマットIA197	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81566521
ナンバリングコード2	81586521
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	霜田 博史	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

現代日本の地方財政の現状と課題について認識を深める

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- 現代日本の地方財政に関する政策的論点について整理し、議論を通じて理解を深める。
- 国との財政関係を地方自治体がどのように取り結んでいるのかを検討する。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

地方財政特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

地方分権改革が日本の政策課題の1つとして据えられてきたが、どのように改革を行うべきかという点において、財政の視点が必要になってくる。本授業では、共通テキストの輪読を通じて、地方財政改革の方向性を考える上での論点を整理し、参加者間での議論を通じて深めていくこととする。なお、テキストについては、参加者の関心を踏まえうえで決定するようにしたい。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	現代日本の地方財政に関する政策的な論点について説明し、他者と議論できるようになる。
2	日本の自治体財政は、国の地方財政政策にどのように規定されているのかについて、具体的な事例をもとに理解できるようになる。
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

地方財政、財政学

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

特に求めることはないが、新聞報道・ニュースなどの関連話題について、継続的な関心を持つておくこと。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	授業のガイダンスとテキスト選定に関する打ち合わせ	
第2回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	参加者の研究テーマに関する意見交流とテキスト報告の割り振り	
第3回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト1冊目の検討(1)	
第4回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト1冊目の検討(2)	
第5回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト1冊目の検討(3)	
第6回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト1冊目の検討(4)	
第7回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト1冊目の検討(5)	
第8回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト1冊目の検討(6)	
第9回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト1冊目に関する総合討論	
第10回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト2冊目の検討(1)	
第11回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト2冊目の検討(2)	
第12回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト2冊目の検討(3)	
第13回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト2冊目の検討(4)	
第14回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト2冊目の検討(5)	
第15回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	テキスト2冊目に関する総合討論	
第16回	担当教員	霜田 博史	
	授業内容	授業全体の総括討論	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

テキストの独習はもちろんのこと、報告の準備が必要になる。おおむね、毎回4時間程度の準備が必要となる。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参加者と相談のうえ、第1回の授業で決定する。2冊を選び検討する予定。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	50
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	50

【成績評価に関する補足】

担当時の報告内容50%、毎回の議論における参加態度50%の割合で評価する。
到達目標①、②は、毎回の授業態度の中で評価する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
霜田 博史	火曜	2限	研究室(人文学部棟3F335)

【オフィスアワーに関する補足】

1学期: 火曜日3限、2学期: 火曜日2限

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
社会福祉特論	Social Welfare (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
=シラバスフォーマットIA5	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81563171
ナンバリングコード2	81583171
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	西島 文香	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

社会福祉政策の批判的検討

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・社会福祉の理論と法制度の概要を理解する
- ・理論や法制度の歴史的発展や行財政改革を検討する
- ・福祉サービスの提供体制のあり方を考察し、福祉政策の課題を展望する

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

<p>社会福祉の理論と法制度の概要を理解し、歴史的発展過程、行財政改革、サービス提供体制などについて考察し、福祉政策に関する批判的検討を行う。 特に、文献精読や資料分析により所学説および諸外国との比較検討を行い、報告とディスカッションにより理解を深める。</p>

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	社会福祉の理論と法制度の概要について説明できる
2	理論や法制度の歴史的発展や行財政改革について説明できる
3	福祉サービスの提供体制のあり方や政策課題について考察し、論点を抽出することができる
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

福祉政策、社会保障、社会福祉

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における社会経済的問題に関心を持ち、広く情報収集に努めていること ・日本における福祉政策の基本理念や制度概要を理解していること

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献の選定・紹介と報告スケジュールの決定	
第2回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第3回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第4回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第5回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第6回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第7回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第8回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第9回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第10回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第11回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第12回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第13回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第14回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第15回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	期末レポートのテーマと内容	
第16回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	期末レポートの提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストの精読と報告資料の作成
- ・関連文献や資料の収集と読み込み

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

使用するテキストは受講者の興味・関心に沿って決定する

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	80

【成績評価に関する補足】

- ・文献報告(理解・表現など)40%、ディスカッション(課題発見など)40%、期末レポート20%の総合評価とする。
- ・到達目標①～③は毎回の授業内で、到達目標③については期末レポートと合わせて評価する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
西島 文香	木曜	3限	西島研究室(人文社会科学部棟2F東)

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
社会福祉演習	Social Welfare (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
=シラバスフォーマットIA197	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81568121
ナンバリングコード2	81588121
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	西島 文香	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

社会福祉政策の批判的検討

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・社会福祉の理論と法制度の概要を理解する
- ・理論や法制度の歴史的発展や行財政改革を検討する
- ・福祉サービスの提供体制のあり方を考察し、福祉政策の課題を展望する
- ・論文執筆に向けた研究計画を作成する

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

社会福祉の理論と法制度の概要を理解し、歴史的発展過程、行財政改革、サービス提供体制などについて考察し、福祉政策に関する批判的検討を行う。特に、文献精読や資料分析により所学説および諸外国との比較検討を行い、報告とディスカッションにより理解を深める。
最終的に、自らの研究テーマを設定し、研究計画を作成する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	社会福祉の理論と法制度の概要について説明できる
2	理論や法制度の歴史的発展や行財政改革について説明できる
3	福祉サービスの提供体制のあり方や政策課題について考察し、論点を抽出することができる
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

福祉政策、社会保障、社会福祉

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・現代社会における社会経済的問題に関心を持ち、広く情報収集に努めていること
- ・日本における福祉政策の基本理念や制度概要を理解していること

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献の選定・紹介と報告スケジュールの決定	
第2回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第3回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第4回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第5回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第6回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第7回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第8回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第9回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第10回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第11回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第12回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第13回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第14回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	文献報告とディスカッション	
第15回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	期末レポートのテーマと内容	
第16回	担当教員	西島 文香	
	授業内容	期末レポートの提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストの精読と報告資料の作成
- ・関連文献や資料の収集と読み込み

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

使用するテキストは受講者の興味・関心に沿って決定する

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	80

【成績評価に関する補足】

- ・文献報告(理解・表現など)40%、ディスカッション(課題発見など)40%、期末レポート20%の総合評価とする。
- ・到達目標①～③は毎回の授業内で、到達目標③については期末レポートと合わせて評価する。
- ・到達目標④については期末レポートで評価する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
西島 文香	木曜	3限	西島研究室(人文社会科学部棟2F東)

【オフィスアワーに関する補足】

--

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
環境経済学特論	Environmental Economics (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J29	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81564371
ナンバリングコード2	81584371
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－高校(商業)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	新保 輝幸	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

さまざまな環境問題とそれに対する政策的対応に関する環境経済学の基礎理論を習得する。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

さまざまな環境問題とそれに対する政策的対応について、ミクロ経済学や公共経済学の枠組みに基づくモデルを使い、理論的かつ実証的に研究するための基礎を身につけることを目標にする。そのために、ミクロ経済学、公共経済学、環境経済学等の基礎的なテキストから必要部分をピックアップし輪読する。
標準的な内容は授業計画の通りだが、受講生との相談により柔軟に対応する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	環境問題について、単なる感情論ではなく、事実やデータに基づいた意見を示すことができる
2	環境問題について、経済学の観点から分析し、説明することができる
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

環境経済学, 環境問題の経済分析,

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部レベルのミクロ経済学の知識と分析能力、環境問題への関心があるのが望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	0. 顔合わせとオリエンテーション	
第2回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	1. 準備(1): 資源配分メカニズムとしての市場(市場の失敗と政府の役割)	
第3回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	2. 準備(2): 需要と供給の理論	
第4回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	3. 経済厚生 of 理論の基礎(1): 消費者余剰と生産者余剰	
第5回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	4. 経済厚生 of 理論の基礎(2): 余剰分析	
第6回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	5. パレート効率性(Pareto Efficiency)と厚生経済学の基本定理	
第7回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	6. 外部性(Externality)の理論(1): 基礎的概念	
第8回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	7. 外部性(Externality)の理論(2): ピグー税・ピグー補助金	
第9回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	8. 公共財(Public Goods)の理論(1): 基礎的概念	
第10回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	9. 公共財(Public Goods)の理論(2): 公共財の最適供給	
第11回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	10. 環境政策(1): 指令・統制アプローチ	
第12回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	11. 環境政策(2): 所有権アプローチ、自発的アプローチ	
第13回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	12. 環境政策(3): 経済インセンティブ・アプローチ	
第14回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	13. 環境の経済評価(1): 仮想状況評価法(Contingent Valuation Method; CVM)	
第15回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	14. 環境の経済評価(2): その他の環境評価手法	
第16回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	最終レポートの提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

教員から示された本ないし論文を精読し、レジюме等にまとめる。
併せて授業に関連する資料を調査・収集する
必要に応じて、レポートを作成する。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

受講生と相談の上、決定する

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	50～70
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	30～50
その他	

【成績評価に関する補足】

各回のレジュメや議論への貢献:5-7割
最終レポート:3-5割

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
新保 輝幸	火曜	4限	ゼミ室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約
人文学部棟2階210研究室においていただければ、空いているゼミ室で対応します。

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
環境経済学演習	Environmental Economics (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J30	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81569321
ナンバリングコード2	81589321
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－高校(商業)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	新保 輝幸	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

授業の目的【COURSE AIMS】

さまざまな環境問題とそれに対する政策的対応に関する環境経済学の基礎理論を習得する。
必要に応じて、実証研究のための計量経済学的手法や統計学的手法も勉強する。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

授業の概要【COURSE SUMMARY】

環境問題や環境政策の理論的・実証的研究に関わる研究発表とディスカッションを中心に進める。まずはじめに個々の問題関心について報告してもらい、それを通じて明らかになったそれぞれの関心領域の基礎となる文献を選定する。それらを順次講読するとともに、随時個々の研究の発展について報告してもらい、ディスカッションを行う。
また、実証研究の要となる計量分析は、基本的にコンピュータおよびそのアプリケーションを用いて行われる。受講生の希望がある場合、それを利用するための基本的な知識・技能を実習を交えて勉強するが、これは下記の内、文献の輪読部分や研究の中間報告部分等を随時振り替える。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	環境問題について、単なる感情論ではなく、事実やデータに基づいた意見を示すことができる
2	環境問題について、経済学の観点から分析し、説明することができる
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

環境経済学, 環境問題の経済分析,

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部レベルのミクロ経済学の知識と分析能力、環境問題への関心があるのが望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	顔合わせとオリエンテーション	
第2回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	個々の問題関心の報告と文献購読計画の策定	
第3回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	文献の輪読: 報告とディスカッション	
第4回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	文献の輪読: 報告とディスカッション	
第5回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	文献の輪読: 報告とディスカッション	
第6回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	文献の輪読: 報告とディスカッション	
第7回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	文献の輪読: 報告とディスカッション	
第8回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	研究の中間報告: 報告とディスカッション	
第9回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	文献の輪読: 報告とディスカッション	
第10回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	文献の輪読: 報告とディスカッション	
第11回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	文献の輪読: 報告とディスカッション	
第12回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	文献の輪読: 報告とディスカッション	
第13回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	文献の輪読: 報告とディスカッション	
第14回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	研究の中間報告: 報告とディスカッション	
第15回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	文献の輪読: 報告とディスカッション	
第16回	担当教員	新保 輝幸	
	授業内容	最終レポートの提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

教員から示された本ないし論文を精読し、レジユメ等にまとめる。
併せて授業に関連する資料を調査・収集する
必要に応じて、レポートを作成する。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

受講生と相談の上、決定する

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	50～70
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	30～50
その他	

【成績評価に関する補足】

各回のレジュメや議論への貢献:5-7割
最終レポート:3-5割

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
新保 輝幸	火曜	4限	ゼミ室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約
人文学部棟2階210研究室においていただければ、空いているゼミ室で対応します。

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
社会学特論	Sociology (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J37	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81560171
ナンバリングコード2	81580171
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	肖 紅燕	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

授業の目的【COURSE AIMS】

近代化と文化伝統の変容をふりかえりつつ、近年一躍脚光を浴びるようになった田園回帰、田舎暮らしブームについて考える。田舎暮らしの数々の困難をどのように乗り越えていくのか？「ウチ」「ソト」の壁克服はじめ、ヒトとシゴト、付き合いと生業などについて一緒に考察し、処方箋を探ってみよう。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

授業の概要【COURSE SUMMARY】

田園回帰の困難と展望
—「新しき村」から近年に至るまで—
近代化と文化伝統の変容をふりかえりつつ、近年一躍脚光を浴びるようになった田園回帰、田舎暮らしブームについて考える。田舎暮らしの数々の困難をどのように乗り越えていくのか？「ウチ」「ソト」の壁克服はじめ、ヒトとシゴト、付合いと生業などについて一緒に考察し、処方箋を探してみよう。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	田園回帰の流れと現状を把握すること
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

田園回帰、田舎暮らし、都市、なりわい、つきあい

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

自主的に問題提起すること

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	人類史は移住の連続	
第2回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	隠士文化(隠遁生活)と桃源郷への憧憬	
第3回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	武者小路実篤の「新しき村」創設と大同社会の実践	
第4回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	公害、環境問題と田舎暮らし	
第5回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	自然農法と知足的な暮らし	
第6回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	有機農業と近代化以前の伝統農業	
第7回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	地域おこし協力隊、集落支援員とムラ社会	
第8回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	移住者-IUJ嫁婿孫ターンとその多彩な生業--	
第9回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	移住者--ゆるい繋がり:点→線→面へ、遊農民的な暮らし--	
第10回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	現役世代移住と定年後移住	
第11回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	「コミュニティ支持型農業」、有機農産物の生産、販売と流通	
第12回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	ムラ人の条件と期待される村人像--見えるカベ、みえぬ壁--	
第13回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	継業、第三者継承と農地法--農業は一代限りでよいのでは？--	
第14回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	新農人を目指そう♪--「ウチ」「ソト」「ムラ」の壁を越えて--	
第15回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	自然界の食物連鎖再考--猪鹿など食害と頂点捕食獣オオカミ再導入--	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

地社研の野外学習はじめ、『土佐地域文化』既刊本(1~13号)及び参考文献を熟読すること。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

土佐地域文化研究会『土佐地域文化』13号(田園特集)2018年 2000円
 他にもお薦め文献あり
 第1回授業時に指示する

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	

【成績評価に関する補足】

出席、発言、レポートから判断する

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
肖 紅燕	水曜	2限	研究室

【オフィスアワーに関する補足】

--

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
社会学演習	Sociology (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J38	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81565121
ナンバリングコード2	81585121
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	肖 紅燕	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

オオカミの冤罪について考えること。
日本人のオオカミ観、特に人食いオオカミに対する恐怖観に焦点をあてて日本史を通じて考えること。
近年の猪鹿食害対策の問題点、政策の理不尽さも併せて考察すること。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

--

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	オオカミと人間、ニンゲンと自然との関係を再考すること。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

オオカミ、冤罪、日本史、オオカミ観、環境、自然

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

自主的に問題提起すること

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	日本オオカミ協会とその活動 一	
第2回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	日本オオカミ協会とその活動 二	
第3回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	古代日本人のオオカミ観 一	
第4回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	古代日本人のオオカミ観 二	
第5回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	平安時代から室町時代のオオカミ観 一	
第6回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	平安時代から室町時代のオオカミ観 二	
第7回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	近世--オオカミ冤罪の江戸時代 一	
第8回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	近世--オオカミ冤罪の江戸時代 二	
第9回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	江戸時代--狂犬病の侵入と狼の凶獣観の強化 一	
第10回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	江戸時代--狂犬病の侵入と狼の凶獣観の強化 二	
第11回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	近代-明治以降 一	
第12回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	近代-明治以降 二	
第13回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	猪鹿対策の現状とオオカミ再導入 一	
第14回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	猪鹿対策の現状とオオカミ再導入 二	
第15回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	豚コレラ、豚熱対策とオオカミ 一	
第16回	担当教員	肖 紅燕	
	授業内容	豚コレラ、豚熱対策とオオカミ 二	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

地社研の野外学習はじめ、『土佐地域文化』既刊本(1~13号)及び参考文献を熟読すること。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

輪読書

丸山直樹『オオカミ冤罪の日本史--オオカミ人食い記録は捏造だった--』
一般社団法人日本オオカミ協会 2019 500円

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	

【成績評価に関する補足】

出席、発言、レポートから判断する

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
肖 紅燕	水曜	2限	研究室

【オフィスアワーに関する補足】

--

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
漁村社会特論	Fishery Community (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J33	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81564571
ナンバリングコード2	81584571
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	堀 美菜	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

漁村社会の成立背景と構造について理解する
漁村の社会経済と水産政策、漁業制度とのかかわりについて学ぶ
漁家調査の方法について学ぶ

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

漁村社会演習、地域水産社会特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

漁村社会特論では、漁村の成立背景や構造について理解し、その特徴を踏まえた上で、漁業制度や水産政策についての理解を深めます。また、漁家調査の方法を習得します。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	漁村社会の成立背景と構造について理解する
2	漁村の社会経済と水産政策とのかかわりについて理解する
3	漁家調査の方法を習得する
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

漁村社会、漁業経済、漁業制度、水産政策、漁家調査

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

水産業や漁村社会に関する基礎知識が必要
地域水産社会特論を履修していることが望ましい

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	ガイダンス	
第2回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	漁村の成り立ち(～明治期)	
第3回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	漁村の成り立ち(明治期～)	
第4回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	漁村の社会構造	
第5回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	漁村の機能	
第6回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	漁業協同組合のしくみ	
第7回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	漁業協同組合の役割	
第8回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	漁業制度①	
第9回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	漁業制度②	
第10回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	水産政策①	
第11回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	水産政策②	
第12回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	漁村調査の方法①	
第13回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	漁村調査の方法②	
第14回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	漁村調査の事例①	
第15回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	漁村調査の事例②	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

授業の一部は演習形式で行うため、科学論文の講読、発表準備などが必要です。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

受講生と相談して決定、講義中に随時紹介

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	60
その他	40

【成績評価に関する補足】

議論への貢献4割とレポート6割により評価

成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
堀 美菜	金曜	4限	人文社会科学部棟2階207号室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
漁村社会演習	Fishery Community (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J34	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81569521
ナンバリングコード2	81589521
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	堀 美菜	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

漁村の社会経済に関わる論文講読を行い専門知識の理解を深める
 個別の課題設定を行い、文献収集と発表、議論を通じてディスカッション能力を養う

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

漁村社会特論、地域水産社会特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

漁村社会特論を履修した学生が、より実践的に研究に取り組むための演習です。前半で教員の指示する論文の講読により専門知識の理解を深め、後半では個別の課題設定を行い、情報収集、整理、議論を通じて先行研究の理解を深めます。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	漁村の社会経済に関わる論文講読により専門知識を深める
2	個別課題を見つけ、関連文献の収集、講読、課題の抽出を行える
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

漁村社会、漁業経済、漁業制度、水産政策、漁家調査

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

漁村社会特論を履修していること
地域水産社会特論を履修していることが望ましい

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	ガイダンス、文献の収集方法	
第2回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	収集文献の紹介	
第3回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	発表方法と資料の作り方	
第4回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	文献①の発表、解説と議論	
第5回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	文献②の発表、解説と議論	
第6回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	文献③の発表、解説と議論	
第7回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	文献④の発表、解説と議論	
第8回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	文献⑤の発表、解説と議論	
第9回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	個別課題の設定	
第10回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	個別課題の背景発表	
第11回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	個別課題の背景発表	
第12回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	個別課題文献①の発表と議論	
第13回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	個別課題文献②の発表と議論	
第14回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	個別課題文献③の発表と議論	
第15回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	個別課題文献④の発表と議論	
第16回	担当教員	堀 美菜	
	授業内容	総合討論	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

論文講読、発表準備

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

受講生と相談して決定、講義中に随時紹介

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	

【成績評価に関する補足】

発表内容、議論への参加とその内容について総合的に評価します

成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
堀 美菜	金曜	4限	人文社会科学部棟2階207号室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
地域経済論特論	Regional Economics (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J47	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81567171
ナンバリングコード2	81581771
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	田中 康一	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

地域経済の現状と課題、及び課題解決のための方策等の検討

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

・本授業のテーマは、地域経済論の分析視角を用いて、地域経済の現状を理解するとともに、各地域が抱える経済的諸課題の解決策等について、調査・分析・考察・提案等を行うことにある。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

地域経済論演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業では、地域経済に関する主なトピックについて、文献やニュース等を輪読のテキスト・資料として用い、地域経済論の視点から検討する。輪読と並行して、参加者個々の研究発表を随時盛り込むことを予定している。
なお、輪読で用いるテキスト・資料は、基本的に参加者の関心や研究進捗度などを考慮に入れつつ選択する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	・地域経済に関する基本的知識を獲得しており、またそれらを活用できる。
2	・地域経済に関心を持ち、地域の経済的諸課題の解明と解決に主体的に取り組む意欲を身に付けている。
3	・地域経済に関する情報の収集・評価等ができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

地域経済、産業立地、産業振興、地域活性化、まちづくり、観光

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

・日本(及び世界各地)の地域経済の現状を理解し、日々情報収集に努めていること。
・なお、地域経済論の基本概念を理解していることが望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス。	
第2回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第3回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第4回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第5回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第6回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第7回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第8回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第9回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第10回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第11回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第12回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第13回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第14回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第15回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	全体の総括 各自発表	
第16回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	総括レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキスト・資料の精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週5時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

輪読で用いるテキスト・資料は、基本的に参加者の関心や研究進捗度などを考慮に入れつつ選択する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

・テキスト報告担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
田中 康一	木曜	3限	人文社会科学部棟3F 田中康一研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約(予約手段は電子メールが望ましい)

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
地域経済論演習	英文科目名
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J48	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成30年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81566721
ナンバリングコード2	81586721
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	田中 康一	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

地域経済の現状と課題、及び課題解決のための方策等の検討

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

・本授業のテーマは、地域経済論の分析視角を用いて、地域経済の現状を理解するとともに、各地域が抱える経済的諸課題の解決策等について、調査・分析・考察・提案等を行うことにある。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

地域経済論特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業では、地域経済に関する主なトピックについて、文献やニュース等を輪読のテキスト・資料として用い、地域経済論の視点から検討する。輪読と並行して、参加者個々の研究発表を随時盛り込むことを予定している。
 なお、輪読で用いるテキスト・資料は、基本的に参加者の関心や研究進捗度などを考慮に入れつつ選択する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	・地域経済に関する基本的知識を獲得しており、またそれらを活用できる。
2	・地域経済に関心を持ち、地域の経済的諸課題の解明と解決に主体的に取り組む意欲を身に付けている。
3	・地域経済に関する情報の収集・評価等ができる。
4	・地域経済に関する情報を用いて地域経済活性化策等の企画・提案等ができる。
5	・地域経済に関する一定水準の報告書・論文等の執筆・投稿等ができる。
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

地域経済、産業立地、産業振興、地域活性化、まちづくり、観光

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

・日本(及び世界各地)の地域経済の現状を理解し、日々情報収集に努めていること。
 ・なお、地域経済論の基本概念を理解していることが望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス。	
第2回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第3回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第4回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第5回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第6回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第7回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第8回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献1冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第9回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第10回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第11回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第12回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第13回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第14回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	文献2冊目の検討 輪読・報告とディスカッション	
第15回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	全体の総括 各自発表	
第16回	担当教員	田中 康一	
	授業内容	総括レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキスト・資料の精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週5時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

輪読で用いるテキスト・資料は、基本的に参加者の関心や研究進捗度などを考慮に入れつつ選択する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	40

【成績評価に関する補足】

・テキスト報告担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
田中 康一	木曜	3限	人文社会科学部棟3F 田中康一研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約(予約手段は電子メールが望ましい)

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
組織の経済学特論Ⅱ	0
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J53	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
令和元年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81562771
ナンバリングコード2	81582871
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	兩宮 祐樹	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

契約理論と組織の経済学の応用としての企業金融論

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- 基本的なゲーム理論、ミクロ経済学の知識を前提として、契約理論および組織の経済学における主要な理論モデルとその応用について、講義を通して理解を深めることを目的とします。
- また、企業の資金調達についての経済学的な理解を得ることも目的とします。
- なお、この授業は社会科学研究コースの中で、「経済政策領域」に属し、企業や組織を主なトピックとして経済理論分析を学びます。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

組織の経済学特論I, 組織の経済学演習I, II

授業の概要【COURSE SUMMARY】

契約理論を応用した企業金融論について、講義形式を進める。
「組織の経済学演習II」でも用いるテキスト Tirole (2006) に基づいて、「演習II」で輪読するにあたって必要な前提知識、履修者による発表が困難と思われる箇所、および解説が必要な箇所について講義を行う。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	企業や組織に関する諸問題について考えるための理論分析の方法を習得できる。
2	企業の資金調達について、経済学的な考え方を背景として、その仕組みや諸問題について説明できる。
3	企業や組織に関する諸問題について、学んだ理論分析を応用して考えることができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

ミクロ経済学, 契約理論, ゲーム理論, 企業金融.

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

後期に必ず、「組織の経済学演習II」を履修すること。
入門レベルのミクロ経済学を履修し終えていることが必要です。
加えて、経済学の中級テキストを把握できる程度の数学的素養が必要です。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	両宮 祐樹	
	授業内容	オリエンテーションと数学的知識の復習・補足① 本講義全体の概要の説明. 講義内容の理解に必要な数学の復習.	
第2回	担当教員	両宮 祐樹	
	授業内容	数学的知識の復習・補足② 講義内容の理解に必要な数学の復習.	
第3回	担当教員	両宮 祐樹	
	授業内容	株式と債券① Chapter 3, Supplementary Sections を中心に金融契約の理論モデルについて解説.	
第4回	担当教員	両宮 祐樹	
	授業内容	株式と債券② Chapter 3, Supplementary Sections を中心に金融契約の理論モデルについて解説.	
第5回	担当教員	両宮 祐樹	
	授業内容	株式と債券③ Chapter 3, Supplementary Sections を中心に金融契約の理論モデルについて解説.	
第6回	担当教員	両宮 祐樹	
	授業内容	非対称情報下の金融契約① Chapter 6, Supplementary Sections を中心に非対称情報下の金融契約について解説.	
第7回	担当教員	両宮 祐樹	
	授業内容	非対称情報下の金融契約② Chapter 6, Supplementary Sections を中心に非対称情報下の金融契約について解説.	
第8回	担当教員	両宮 祐樹	
	授業内容	非対称情報下の金融契約③ Chapter 6, Supplementary Sections を中心に非対称情報下の金融契約について解説.	
第9回	担当教員	両宮 祐樹	
	授業内容	中間試験とこれまでの講義内容の補足.	
第10回	担当教員	両宮 祐樹	
	授業内容	市場競争と企業の資本構成① Chapter 7, Supplementary Sections を中心に市場競争と企業の資本構成の関係について解説.	
第11回	担当教員	両宮 祐樹	
	授業内容	市場競争と企業の資本構成② Chapter 7, Supplementary Sections を中心に市場競争と企業の資本構成の関係について解説.	
第12回	担当教員	両宮 祐樹	
	授業内容	市場競争と企業の資本構成③ Chapter 7, Supplementary Sections を中心に市場競争と企業の資本構成の関係について解説.	
第13回	担当教員	両宮 祐樹	
	授業内容	証券の設計① Chapter 10, Supplementary Sections を中心に金融契約と企業統治について解説.	
第14回	担当教員	両宮 祐樹	
	授業内容	証券の設計② Chapter 10, Supplementary Sections を中心に金融契約と企業統治について解説.	
第15回	担当教員	両宮 祐樹	
	授業内容	証券の設計③ Chapter 11の内容を中心に, 企業買収に関する経済理論について解説.	
第16回	担当教員	両宮 祐樹	
	授業内容	期末試験.	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・講義内容の復習と宿題.
- ・毎回, 回答の作成に2から3時間程度を要する宿題を課す.

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Jean Tirole (2006), The Theory of Corporate Finance, Princeton University Press.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	30
中間レポート	
期末試験	40
期末レポート	
その他	30

【成績評価に関する補足】

・中間試験30%, 期末試験40%, 宿題30%によって評価する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
雨宮 祐樹	木曜	2限	雨宮研究室(人文社会科学部棟2F215)

【オフィスアワーに関する補足】

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
組織の経済学演習Ⅱ	0
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J54	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
令和元年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81567721
ナンバリングコード2	81587821
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	兩宮 祐樹	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

契約理論と組織の経済学の応用としての企業金融論の演習

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- 基本的なゲーム理論、ミクロ経済学の知識を前提として、契約理論および組織の経済学における主要な理論モデルとその応用について、輪読を通して理解を深め、最終的に自分で理論モデルを構築できるようになることを目的とします。
- また、企業の資金調達についての経済学的な理解を得ることも目的とします。
- なお、この授業は社会科学研究コースの中で、「経済政策領域」に属し、企業や組織を主なトピックとして経済理論分析を学びます。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

組織の経済学特論I, II, 組織の経済学演習I

授業の概要【COURSE SUMMARY】

「組織の経済学特論II」でも用いるテキスト Tirole (2006) の輪読を通して、企業や組織に関する理論分析についての理解を深めます。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	企業や組織に関する諸問題についての理論分析について、文献を読み自力で理解することができる。
2	企業や組織に関する諸問題についての理論分析について、自分の理解に基づいて説明することができる。
3	企業の資金調達について、経済学的な考え方を背景として、その仕組みや諸問題について説明できる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

ミクロ経済学, 契約理論, ゲーム理論, 企業金融.

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

必ず、「組織の経済学特論II」を履修済みであること。
入門レベルのミクロ経済学を履修し終えていることが必要です。
加えて、経済学の中級テキストを把握できる程度の数学的素養が必要です。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明. 報告ローテーションの決定.	
第2回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	輪読 1 (雨宮が担当) Chapter 2 の報告とディスカッション.	
第3回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	輪読 2 (雨宮が担当) Chapter 2 の報告とディスカッション.	
第4回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	輪読 3 Chapter 3 の報告とディスカッション.	
第5回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	輪読 4 Chapter 3 の報告とディスカッション.	
第6回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	輪読 5 Chapter 4 の報告とディスカッション.	
第7回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	輪読 6 Chapter 4 の報告とディスカッション.	
第8回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	輪読 7 Chapter 5 の報告とディスカッション.	
第9回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	輪読 8 Chapter 5 の報告とディスカッション.	
第10回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	輪読 9 Chapter 6 の報告とディスカッション.	
第11回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	輪読 10 Chapter 6 の報告とディスカッション.	
第12回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	輪読 11 Chapter 7 の報告とディスカッション.	
第13回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	輪読 12 Chapter 7 の報告とディスカッション.	
第14回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	輪読 13 Chapter 10 の報告とディスカッション.	
第15回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	輪読 14 Chapter 10 の報告とディスカッション.	
第16回	担当教員	雨宮 祐樹	
	授業内容	期末レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

報告の準備. その日の輪読箇所の復習. 期末レポートの作成.
報告の準備には大変な時間を要すると思われるので, 早めに準備に着手することをお勧めします.

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Jean Tirole (2006), The Theory of Corporate Finance, Princeton University Press.

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	50
その他	50

【成績評価に関する補足】

輪読における報告の内容: 50%, 期末レポート: 50%

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
雨宮 祐樹	金曜	4限	雨宮研究室(人文社会科学部棟2F215)

【オフィスアワーに関する補足】

--

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- 対面のみ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン
- オンライン同期型のみ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面
- オンライン非同期型のみ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部
- オンライン同期型+非同期型 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面
- 調整中

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
経営管理特論	Business Management (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12K01	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
大学院科目	
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81581171
ナンバリングコード2	81591171
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	的場 竜一	人文社会科学部	rmatoba@kochi-u.ac.jp
2			
3			
4			
5			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

日本製造業の経営管理に関する諸理論の検討

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

本授業では日本製造業の事例に基づいて、経営管理に関する理論の検討および研究をおこなう。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

経営管理演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業では日本製造業を事例にしたテキストの読解を通じて、経営管理の理論の検討および研究をおこなう。その際、必要に応じて外国語文献の読解もおこなう。受講生はあらかじめテキストの読解をおこない、テキストの発表による議論を通じて読解と理解を深める。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	経営管理に関する理論を説明できるようになる。
2	日本製造業の直面する課題を説明できるようになる。
3	経営管理の今日的課題と展望を議論することができるようになる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

企業、製造業、経営、管理、トヨタ生産方式

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・経営学の基礎を修得済みであり、基本的な論点を理解していること。
- ・文献の精読、読解、発表を正しくおこなう態度を備えていること。
- ・経営学は金儲けの手段ではないということを理解していること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	オリエンテーション	
第2回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	一冊目テキスト読解①	
第3回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	一冊目テキスト読解②	
第4回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	一冊目テキスト読解③	
第5回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	テキスト評価および総括	
第6回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	二冊目テキスト読解①	
第7回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	二冊目テキスト読解②	
第8回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	二冊目テキスト読解③	
第9回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	テキスト評価および総括	
第10回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	三冊目テキスト読解①	
第11回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	三冊目テキスト読解②	
第12回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	三冊目テキスト読解③	
第13回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	テキスト評価および総括	
第14回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	個人研究計画報告①	
第15回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	個人研究計画報告②	
第16回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	学期末レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストを前もって精読・読解してくること。
- ・週4時間程度の自習を前提とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書については第1回目で指示する。また授業中にも適宜指示する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	70
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	30
その他	

【成績評価に関する補足】

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
的場 竜一	木曜日	3, 4限 要予約	人文棟3階 333 的場研究室

【オフィスアワーに関する補足】

前もって予約をするようにお願いします。突然の来訪は対応できない可能性があります。

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
経営管理演習	Business Management (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12K02	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
大学院科目	
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81586121
ナンバリングコード2	81596121
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
令和元年度以降入学生対象科目	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	的場 竜一	人文社会科学部	rmatoba@kochi-u.ac.jp
2			
3			
4			
5			

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

現代製造業の経営管理に関する事象と理論に関する研究

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

本授業では現代製造業の抱える課題を検討し、事象と理論に関する研究をおこなう。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

経営管理特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業では現代製造業に関するテキストの読解あるいは事象の研究を通じて、経営管理の事象と理論の研究をおこなう。必要に応じて外国語文献の読解もおこなう。受講生はあらかじめテキストの読解をおこない、テキストの発表による議論を通じて読解と理解を深める。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	経営管理に関する理論を現代製造業の事象と照らし合わせながら説明できるようになる。
2	現代製造業の直面する課題を説明できるようになる。
3	経営管理の今日的課題と展望を現代製造業の事例を念頭に議論することができるようになる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

企業、製造業、経営、管理、トヨタ生産方式、多国籍企業

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・経営学の基礎を修得済みであり、基本的な論点を理解していること。
- ・文献の精読、読解、発表を正しくおこなう態度を備えていること。
- ・経営学は金儲けの手段ではないということを理解していること。
- ・現代資本主義の仕組みを理解したうえで利潤とは何かを考えることができること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	オリエンテーション	
第2回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	一冊目テキスト読解①	
第3回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	一冊目テキスト読解②	
第4回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	一冊目テキスト読解③	
第5回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	テキスト評価および総括	
第6回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	二冊目テキスト読解①	
第7回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	二冊目テキスト読解②	
第8回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	二冊目テキスト読解③	
第9回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	テキスト評価および総括	
第10回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	三冊目テキスト読解①	
第11回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	三冊目テキスト読解②	
第12回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	三冊目テキスト読解③	
第13回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	テキスト評価および総括	
第14回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	個人研究計画報告①	
第15回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	個人研究計画報告②	
第16回	担当教員	的場 竜一	
	授業内容	学期末レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・テキストを前もって精読・読解してくること。
- ・週4時間程度の自習を前提とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書については第1回目で指示する。また授業中にも適宜指示する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	80
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	

【成績評価に関する補足】

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
的場 竜一	木曜日	3, 4限 要予約	人文棟3階 333 的場研究室

【オフィスアワーに関する補足】

前もって予約をするようにお願いします。突然の来訪は対応できない可能性があります。

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
会計制度特論	Financial Reporting System (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12K15	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81583371
ナンバリングコード2	81593371
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－高校(商業)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	山内 高太郎	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

会計の国際化と日本の会計制度への影響について考える

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・国際財務報告基準(IFRS)と日本の会計基準のコンバージェンスについて理解し、その影響による日本の会計基準の変更の課題について考える。
- ・国際財務会計基準審議会(IASB)の概念フレームワークの変更に着目し、概念変化と会計基準の変更との関係について理解を深める。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

会計制度演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

近年、国際会計基準審議会 (IASB) の決定やその会計基準 (IFRS) の公表が、日本の会計基準の変更に影響を与えるようになってきている。本講義では、IASB と日本の会計基準設定主体との会計基準設定過程およびその関わりを理解し、日本の会計基準の変更に及ぼす影響について考察を行う。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標 (COURSE OBJECTIVES)
1	IFRS の基準設定の歴史的な変化について理解し、説明することができる。
2	IFRS と日本の会計基準のコンバージェンスについて理解し、説明することができる。
3	IFRS との日本の会計基準のコンバージェンスの影響が日本の会計基準の変更に与えた影響について理解し、説明することができる。
4	IASB の概念フレームワークについて理解し、説明することができる。
5	概念フレームワークの変更が会計基準の変更に及ぼした影響について理解できる。
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

会計制度、会計基準、IFRS、概念フレームワーク

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

会計学の基礎的な知識を有し、中級レベル以上の簿記の知識を有していること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	オリエンテーション 講義の概要及び進め方、評価についての説明。	
第2回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	日本の会計制度について考える1 講義とディスカッション	
第3回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	日本の会計制度について考える2 講義とディスカッション	
第4回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	日本の会計制度について考える3 講義とディスカッション	
第5回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	国際会計基準委員会の設立から国際会計基準審議会への改組までの歴史的考察 講義とディスカッション	
第6回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	国際会計基準審議会と国際財務報告基準 講義とディスカッション	
第7回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	国際的な会計基準のコンバージェンス1 講義とディスカッション	
第8回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	国際的な会計基準のコンバージェンス2 講義とディスカッション	
第9回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	国際的な会計基準のコンバージェンス3 講義とディスカッション	
第10回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	IASBの概念フレームワーク1 講義とディスカッション	
第11回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	IASBの概念フレームワーク2 講義とディスカッション	
第12回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	IASBの概念フレームワーク3 講義とディスカッション	
第13回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	IASBの概念フレームワーク4 講義とディスカッション	
第14回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	概念フレームワークの変更が会計基準に及ぼす影響 講義とディスカッション	
第15回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	まとめ ディスカッション	
第16回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・授業に関連する資料の収集し、レジュメを作成する。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

会計基準設定主体等のホームページで公表されている会計基準等を用いる。
必要に応じて、参考書については授業の中で指示する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	30
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	30
その他	40

【成績評価に関する補足】

・授業への参加度合(授業中の発言内容等で評価)30%、レジュメの内容40%、期末レポート30%
・到達目標への到達度合いは、上記項目の総合的に評価による。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
山内 高太郎	火曜	昼休み	人文社会科学部棟3F 341 山内研究室

【オフィスアワーに関する補足】

その他の時間を希望する場合は要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
会計制度演習	Financial Reporting System (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12K16	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81588321
ナンバリングコード2	81598321
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－高校(商業)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	山内 高太郎	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

会計の国際化と日本の会計制度への影響について考える

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

・国際財務報告基準(IFRS)と日本の会計基準のコンバージェンスの影響について、個別の会計基準や処理方法を理解することを通して課題について考え、多面的な分析視点をえる。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

会計制度特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

IFRSと日本の会計基準のコンバージェンスにおける課題を考える上で、リース会計と企業結合会計をとりあげ、各基準や処理方法、それらに関わる理論動向について理解を深めるとともに、各受講者が論点を整理し、企業が公表する財務諸表を分析する能力を身につけるための基礎的な知識を得る。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	個別財務諸表と連結財務諸表について理解し、作成することができる。
2	リース会計について理解し、会計基準の相違や変更による課題を考え、分析することができる。
3	企業結合会計について理解し、会計基準の相違や変更による課題を考え、分析することができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

個別財務諸表、連結財務諸表、リース会計、企業結合会計

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

会計学の基礎的な知識を有し、中級レベル以上の簿記の知識を有していること。
会計制度特論を受講していること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	オリエンテーション 講義の概要及び進め方、評価についての説明。	
第2回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	個別財務諸表の作成 課題の解説とディスカッション	
第3回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	連結財務諸表の作成1 課題の解説とディスカッション	
第4回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	連結財務諸表の作成2 課題の解説とディスカッション	
第5回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	連結財務諸表の作成3 課題の解説とディスカッション	
第6回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	リース会計1 課題の解説とディスカッション	
第7回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	リース会計2 課題の解説とディスカッション	
第8回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	リース会計3 報告とディスカッション	
第9回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	リース会計4 報告とディスカッション	
第10回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	企業結合会計1 課題の解説とディスカッション	
第11回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	企業結合会計2 課題の解説とディスカッション	
第12回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	企業結合会計3 課題の解説とディスカッション	
第13回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	企業結合会計4 報告とディスカッション	
第14回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	企業結合会計5 報告とディスカッション	
第15回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	まとめ 報告とディスカッション	
第16回	担当教員	山内 高太郎	
	授業内容	レポートの作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・授業に関連する資料の収集し、精読する。
- ・授業中に課された課題に取り組む。
- ・最低でも週8時間程度の自主的研究が必要。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

会計基準設定主体等のホームページで公表されている会計基準等を用いる。
必要に応じて、参考書については授業の中で指示する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	10
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20
その他	70

【成績評価に関する補足】

・授業への参加度合10%、報告25%、課題の提出45%、期末レポート20%
・到達目標への到達度合いは、上記項目の総合的に評価による。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
山内 高太郎	火曜	昼休み	人文社会科学部棟3F 341 山内研究室

【オフィスアワーに関する補足】

その他の時間を希望する場合は要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
民法特論	Civil Code (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G01	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81591171
ナンバリングコード2	81561171
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	緒方 賢一	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

土地所有権の現代的課題

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

contemporary ishues in property, especialy land ownership

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・近代的土地所有権の特質を理解し、現代において土地所有権が社会的にどのように位置づけられ、社会的にどのような存在であるのかを理解する。
- ・現代社会に生起している土地所有を巡る諸問題について文献調査などに基づいて検討する。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

民法演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

民法第2編物権のうち、特に所有権について考えます。民法上の権利の基本的性質と物権の特徴を理解し、その上で、所有権がどのような性質を持っているか、および近代法における所有権の位置づけについて検討します。
その上で、土地所有権が引き起こしている現代的な諸課題について、現実に即して考え、解決策を探ります。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	民法物権法の基本的内容を理解し、その概要を説明することができる。
2	土地所有権の近代法的特徴を理解し、その概要を説明することができる。
3	土地所有権の現代的課題について、調査、研究し、課題について考察することができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

民法、物権法、所有権、空洞化

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

民法物権法に興味があること。
土地所有権に関する現代的諸課題に関心があること。
学士課程において民法の基礎的事項を理解していることが望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	授業概要の説明およびスケジュールの確認 講義の全体像の提示	
第2回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	民法物権法の特徴(1)立法過程(2) 地租改正、旧民法、明治民法に見られる近代的所有権の成立過程	
第3回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	民法物権法の特徴(1)立法過程(2) 現行民法、不動産登記法等における所有権の位置づけ	
第4回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	民法物権法の特徴(2)所有権法の理論(1) 所有権の近代法的性質	
第5回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	民法物権法の特徴(2)所有権法の理論(2) 所有権の近代法的性質	
第6回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	民法物権法の特徴(3)近代法における債権の優越的地位(1) 債権と物権の比較による物権法の理解	
第7回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	民法物権法の特徴(3)近代法における債権の優越的地位(2) 債権と物権の比較による物権法の理解	
第8回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	土地所有権の現代的課題(1)権利の空洞化現象(1) 用益物権(入会権等)、漁業権等の空洞化現象	
第9回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	土地所有権の現代的課題(1)権利の空洞化現象(2) 耕作放棄と空き家問題	
第10回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	土地所有権の現代的課題(2)所有者不明地(1) 所有者不明地問題の実態把握	
第11回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	土地所有権の現代的課題(2)所有者不明地(2) 所有者不明地の利用再開、促進政策の現在	
第12回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	土地所有権の現代的課題(2)所有者不明地(3) 相続登記等	
第13回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	土地所有権の現代的課題調査(1) 文献研究の実施方法	
第14回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	土地所有権の現代的課題調査(2) 課題設定	
第15回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	土地所有権の現代的課題調査 レポート作成経過報告	
第16回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	レポート作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

授業時間外に相当な時間を費やして、民法、物権法、所有権に関する諸文献を読んでもらいます。
また、必要に応じて実態調査をしてもらう場合もあります。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

飯國芳明他編『土地所有権の空洞化』(2018 ナカニシヤ出版)、新保輝幸他編『変容するコモンズ』(2012 ナカニシヤ出版)のほか、川島武宜『所有権法の理論』(1949岩波書店)、我妻栄『近代法における債権の優越的地位』(1948岩波書店)等を参照します。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	20
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	50
その他	30

【成績評価に関する補足】

授業への参画(20%)・報告(30%)・期末試験(レポート)(50%)で総合評価します。

○成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
緒方 賢一	火曜	3限	人文社会科学棟201研究室

【オフィスアワーに関する補足】

--

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
民法演習	Civil Code (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G02	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81596121
ナンバリングコード2	81566121
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	緒方 賢一	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

土地所有権の現代的諸課題

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

contemporary issues in land ownership

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・土地所有権に関する現代的諸課題を検討対象として、課題について理解し、課題解決に向けた研究手法や調査方法等を検討し、実践する。
- ・調査および研究した内容について、報告、議論し、文章にまとめる。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

民法特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

・土地所有権に関する諸問題について、調査・研究を通じて社会的現実の中から課題を設定し、その解決策を検討していくことで、修士論文作成に必要な調査研究、文章執筆能力を身につける。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	土地所有権の現代的諸課題について理解できる。
2	課題解決に向けた調査・研究方法について検討できる。
3	課題解決に向けた調査・研究を行い、課題解決に向けた提案ができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

土地所有権、空洞化現象、耕作放棄地、空き家、所有者不明地、相続登記未了

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

1学期に開講する民法特論を受講していることが望ましい。
土地(不動産)問題、特に空き家や耕作放棄地等、所有権の空洞化現象に興味・関心があることが望ましい。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	概要説明 授業のアウトラインの説明	
第2回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	土地所有権の現代的諸課題(1) 所有権等「権利」の空洞化の実態把握	
第3回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	土地所有権の現代的諸課題(2) 耕作放棄地対策、空き家対策等、空洞化「対策」の実態把握	
第4回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	課題設定(1) 課題設定状況報告	
第5回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	解題設定(2) 課題設定状況報告	
第6回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	調査・研究手法等の検討(1) 調査・研究手法等の検討	
第7回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	調査・研究報告(1) 調査・研究の経過報告	
第8回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	調査・研究報告(2) 調査・研究の経過報告	
第9回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	調査・研究報告(3) 調査・研究の経過報告	
第10回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	調査・研究報告(4) 調査・研究の経過報告	
第11回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	総括(1) 報告の総括と総合討論	
第12回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	総括(2) 報告の総括と総合討論	
第13回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	レポート作成準備(1) レポート作成要領概説	
第14回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	レポート作成経過報告(1) レポート作成状況の報告	
第15回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	レポート作成経過報告(2) レポート作成状況の報告	
第16回	担当教員	緒方 賢一	
	授業内容	レポート作成・評価	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

授業は基本的に報告と討論から成り立ちますので、そのための準備(文献収集と読解、現地調査等とそれらに基づく報告書等の作成)が必要です。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

棚澤他編『現代都市法の課題と展望』(2018 日本評論社)、原田純孝編『地域農業の再生と農地制度』(2011 農山漁村文化協会)、吉原祥子『人口減少時代の土地問題』(2017 中央公論社)

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	20
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	50
その他	30

【成績評価に関する補足】

授業への参画(20%)・報告(30%)・期末試験(レポート)(50%)で総合評価します。

○成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
緒方 賢一	火曜	3限	人文社会科学棟201研究室

【オフィスアワーに関する補足】

--

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- 対面のみ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン
- オンライン同期型のみ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面
- オンライン非同期型のみ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部
- オンライン同期型+非同期型 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面
- 調整中

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
刑法特論	Criminal Law (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G09	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81592171
ナンバリングコード2	81562171
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	稲田 朗子	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

刑法総論の現代的諸問題

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・刑法総論の学術論文の講読・検討
- ・刑法基本原則、刑法史、刑法総論上の基本的諸論点の理解。
- ・刑法総論の現代的諸問題の考察。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

刑法演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

刑法総論の学術論文から、受講生の問題関心を考慮した上で検討対象とする論文をピックアップして、講読・検討を行う。上記の検討により、主として刑法の基本原則、刑法史、その他刑法総論上の基本的諸論点の理解といった基本的知識ないし能力を応用して、刑法総論の現代的諸問題を考察する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	自分の問題関心にそった刑法総論の学術論文を、ピックアップする。
2	受講生がピックアップした学術論文を講読する。
3	講読した学術論文について検討する。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

刑法、刑法基本原則、刑法史

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・刑法総論において、自分の問題関心を他者に説明できること。
- ・自分の問題関心にそった書籍や学術論文を読んでいること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。報告ローテーションの決定。	
第2回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(1) 報告と議論	
第3回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(2) 報告と議論	
第4回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(3) 報告と議論	
第5回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(4) 報告と議論	
第6回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(5) 報告と議論	
第7回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(6) 報告と議論	
第8回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(7) 報告と議論	
第9回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(8) 報告と議論	
第10回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(9) 報告と議論	
第11回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(10) 報告と議論	
第12回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(11) 報告と議論	
第13回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(12) 報告と議論	
第14回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	期末レポートの構想報告(1) 受講生による期末レポートの構想報告	
第15回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	期末レポートの構想報告(2) 受講生による期末レポートの構想報告	
第16回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	期末レポート作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・検討する学術論文を探すこと。
- ・検討する学術論文の精読。
- ・報告レジュメの作成。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**参考書**

森尾亮＝森川恭剛＝岡田行雄編著『人間回復の刑事法学』（日本評論社、2010年）

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	30
その他	30

【成績評価に関する補足】

・報告30%、授業への参画・貢献40%、期末レポート30%
 ・到達目標1～3は、授業への参画・貢献で確認する。到達目標4は、授業への参画・貢献及び期末レポートで確認する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
稲田 朗子	木曜	3限	稲田研究室(人文社会科学部棟3階)

【オフィスアワーに関する補足】

--

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
刑法演習	Criminal Law (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G10	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81597121
ナンバリングコード2	81567121
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	稲田 朗子	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

現代社会における刑法

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

- ・刑法各論の学術論文の講読・検討
- ・刑法基本原則、刑法各論上の基本的諸論点の理解。
- ・刑法各論の現代的諸問題の考察。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

刑法特論

授業の概要【COURSE SUMMARY】

受講生の問題関心を考慮した上で、刑法各論に関する論点をピックアップし、研究報告とそれを受けての議論を行うことにより、刑法の現代社会における実体分析を行う。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	自分の問題関心にそった刑法各論の学術論文を、ピックアップする。
2	受講生がピックアップした学術論文を講読する。
3	講読した学術論文について検討する。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

刑法、刑法基本原則、刑法各論

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・刑法各論において、自分の問題関心を他者に説明できること。
- ・自分の問題関心にそった書籍や学術論文を読んでいること。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。報告ローテーションの決定。	
第2回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(1) 報告と議論	
第3回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(2) 報告と議論	
第4回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(3) 報告と議論	
第5回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(4) 報告と議論	
第6回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(5) 報告と議論	
第7回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(6) 報告と議論	
第8回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(7) 報告と議論	
第9回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(8) 報告と議論	
第10回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(9) 報告と議論	
第11回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(10) 報告と議論	
第12回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(11) 報告と議論	
第13回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	文献の検討(12) 報告と議論	
第14回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	期末レポートの構想報告(1) 受講生による期末レポートの構想報告	
第15回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	期末レポートの構想報告(2) 受講生による期末レポートの構想報告	
第16回	担当教員	稲田 朗子	
	授業内容	期末レポート作成・提出	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・検討する学術論文を探すこと。
- ・検討する学術論文の精読。
- ・報告レジュメの作成。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**参考書**

森尾亮＝森川恭剛＝岡田行雄編著『人間回復の刑事法学』（日本評論社、2010年）

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	30
その他	30

【成績評価に関する補足】

・報告30%、授業への参画・貢献40%、期末レポート30%
 ・到達目標1～3は、授業への参画・貢献で確認する。到達目標4は、授業への参画・貢献及び期末レポートで確認する。

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
稲田 朗子	木曜	3限	稲田研究室(人文社会科学部棟3階)

【オフィスアワーに関する補足】

--

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
政治学特論	Political Science (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G13	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81594171
ナンバリングコード2	81564171
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	小川 寛貴	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

現代政治分析

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

本授業のテーマは、投票行動を読み解く理論を理解するとともに、競合する理論間の関係を批判的に検討する力を身に着けることにある。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業では、投票行動に関する文献を読み進めながら、有権者の投票行動を説明する諸理論を学ぶ。授業内では、統計分析のレポートや利用データ(特に世論調査データ)の再検討を通して、投票行動研究を手を動かしながら議論していく予定である。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	競合する諸理論について批判的に考察することができる。
2	授業で扱った理論を用いて投票行動の説明ができる。
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

政治学、投票行動、世論調査

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

政治学、統計学の概論・入門以上の知識が必要

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	イントロダクション 授業概要の説明	
第2回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献1の検討 報告とディスカッション	
第3回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献1の検討 報告とディスカッション	
第4回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献1の検討 報告とディスカッション	
第5回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献1の検討 報告とディスカッション	
第6回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献1の検討 報告とディスカッション	
第7回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献1の検討 報告とディスカッション	
第8回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献2の検討 報告とディスカッション	
第9回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献2の検討 報告とディスカッション	
第10回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献2の検討 報告とディスカッション	
第11回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献2の検討 報告とディスカッション	
第12回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献2の検討 報告とディスカッション	
第13回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献2の検討 報告とディスカッション	
第14回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	追加文献の検討 報告とディスカッション	
第15回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	授業のまとめ 全体の総括	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・割り当てられた教科書や論文の精読
- ・データや資料の収集

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

山田真裕・飯田健(2009)『投票行動研究のフロンティア』おうふう
 平野浩(2015)『有権者の選択: 日本における政党政治と代表制民主主義の行方』木鐸社

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	30
その他	70

【成績評価に関する補足】

各回のレジュメおよび報告のパフォーマンス: 70%(目標①②の評価)
 期末小論文: 30%(目標①②の評価)

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
小川 寛貴	火曜	3限	人文社会科学部棟2階 小川研究室

【オフィスアワーに関する補足】

--

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
政治学演習	Political Science (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G14	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81599121
ナンバリングコード2	81569121
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	小川 寛貴	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

選挙と政治体制の比較政治研究

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

本授業のテーマは、先進諸国以外の国家を対象とした国際比較分析を通して、選挙や政治体制について再考することである。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

授業の概要【COURSE SUMMARY】

本授業では、先進諸国以外の選挙や政治体制に目を向けた研究を行う。授業の前半では、主に文献輪読を通して分析のための理論枠組みと各国の事例について学習する。授業の後半では、授業前半で学んだ枠組みや手法を用いて実際に研究を行い、その成果をタームペーパーにまとめる。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	選挙や政治体制の分析枠組みが説明できる。
2	授業で学んだ分析枠組みと統計的手法を用いた分析が実施できる。
3	
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

政治学、比較政治学、選挙研究

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

政治学、統計学の概論・入門以上の知識が必要

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	イントロダクション 授業概要の説明	
第2回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献1の検討 報告とディスカッション	
第3回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献1の検討 報告とディスカッション	
第4回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献1の検討 報告とディスカッション	
第5回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献1の検討 報告とディスカッション	
第6回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献2の検討 報告とディスカッション	
第7回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献2の検討 報告とディスカッション	
第8回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献2の検討 報告とディスカッション	
第9回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献2の検討 報告とディスカッション	
第10回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献3の検討 報告とディスカッション	
第11回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献3の検討 報告とディスカッション	
第12回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献3の検討 報告とディスカッション	
第13回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	文献3の検討 報告とディスカッション	
第14回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	研究デザインの策定 研究に向けた準備	
第15回	担当教員	小川 寛貴	
	授業内容	研究報告 各自の研究報告	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

- ・割り当てられた教科書や論文の精読
- ・データや資料の収集
- ・タームペーパーの作成に向けた自主的研究

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

今井真士(2017)『権威主義体制と政治制度—「民主化」の時代におけるエジプトの一党優位の実証分析』勁草書房
 川中豪(2018)『後退する民主主義、強化される権威主義—最良の政治制度とは何か—』ミネルヴァ書房
 久保慶一(2019)『争われる正義—旧ユーゴ地域の政党政治と移行期正義』有斐閣

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	40
その他	60

【成績評価に関する補足】

各回のレジュメ及び報告のパフォーマンス:60%(目標①の評価)
 研究報告及びタームペーパー:40%(目標②の評価)

○成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
小川 寛貴	火曜	3限	人文社会科学部棟2階 小川研究室

【オフィスアワーに関する補足】

--

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
自治体行政法特論	Law of Self-governing (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G19	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81590171
ナンバリングコード2	81560371
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名	所属	E-Mail
1	赤間 聡	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

自治体の行政活動に対する法規制

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

the legal aspect of the action of local governments

授業の目的【COURSE AIMS】

・本授業のテーマは、自治法、国賠法、地方公務員法の訴訟場面での使用を概観し、自治体法務に関して自らの研究に活かすことにある。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

民法演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】

紛争なければ、法律なし。判例の法実務が中心の授業。授業参加者が主体となった報告形式。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	地方自治法を訴訟場面で活かす
2	国賠法を訴訟場面で活かす
3	地方公務員法を訴訟場面で活かす
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

住民訴訟、懲戒処分、国賠

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

行政法、民法、憲法の3つが公務員試験合格レベルであること、英字新聞が理解できる程度の語学力

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス。	
第2回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	
第3回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	
第4回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	
第5回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	
第6回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	
第7回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	
第8回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	
第9回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	
第10回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	
第11回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	
第12回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	
第13回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	
第14回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	
第15回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	
第16回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

・次回の判例の読解と報告準備、最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

講義で指示する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	60

【成績評価に関する補足】

担当時の報告内容60%、毎回の議論における参加態度40%

--

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
赤間 聡	木曜	2・3限	人文棟 2Fセミナー室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

--

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

ット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
自治体行政法演習	Law of Self-governing (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G20	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81595121
ナンバリングコード2	81562321
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名	所属	E-Mail
1	赤間 聡	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

行政法一般論から見た自治体法務

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

comparison between general administrative law and local government law

授業の目的【COURSE AIMS】

・本授業のテーマは、行訴法、個別行政法の訴訟場面での使用を概観し、自治体法務に関して自らの研究に活かすことにある。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

民法演習

授業の概要【COURSE SUMMARY】**授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】**

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	行訴法を訴訟場面で活かす
2	地方自治法を訴訟場面で活かす
3	民法を訴訟場面で活かす
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

行訴法、行政行為論、公物法

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

行政法、民法、憲法の3つが公務員試験合格レベルであること、英字新聞が理解できる程度の語学力

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	オリエンテーション 授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス。	
第2回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	
第3回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	
第4回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	
第5回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	
第6回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	
第7回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	
第8回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	
第9回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	
第10回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	
第11回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	
第12回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	
第13回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	
第14回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	
第15回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	
第16回	担当教員	赤間 聡	
	授業内容	判例研究 判例報告と質疑応答、批判的検討	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

紛争なければ、法律なし。判例の法実務が中心の授業。授業参加者が主体となった報告形式。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

講義で指示する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	40
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	60

【成績評価に関する補足】

担当時の報告内容60%、毎回の議論における参加態度40%

--

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
赤間 聡	木曜	2・3限	人文棟 2Fセミナー室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

--

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- 対面のみ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン
- オンライン同期型のみ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面
- オンライン非同期型のみ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部
- オンライン同期型+非同期型 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面
- 調整中

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
企業法特論	Business Law (Advanced)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G25	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81591771
ナンバリングコード2	81561771
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	切詰 和雅	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】

会社法に関する諸制度を理解するとともに、会社に関する法的問題について検討する能力を身につける。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

--

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	会社法に関する諸制度について、制度の設立の趣旨、機能等を踏まえて説明できる。
2	会社に関する法的問題について、問題の所在、原因を説明できる。
3	会社に関する法的問題について、判例・学説を説明できる。
4	会社に関する法的問題について、理論的に私見を述べることができる。
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

会社法、企業

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

民法、会社法の基礎知識が必要

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	会社の特色・会社法の役割	
第2回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	会社の設立	
第3回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	会社の設立に関する法的問題	
第4回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	株式の意義・種類	
第5回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	株券に関する諸制度	
第6回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	株式の譲渡に関する法的問題	
第7回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	自己株式の取得	
第8回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	機関総論	
第9回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	株主総会概説	
第10回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	株主総会に関する法的問題	
第11回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	取締役・取締役会概説	
第12回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	取締役の会社に対する責任	
第13回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	取締役の第三者に対する責任	
第14回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	取締役会に関する法的問題	
第15回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	会計参与・監査役・会計監査人	
第16回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	期末試験	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

授業内容についての復習
課題(レポート)の作成

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

[必須]六法(コンパクト六法、ポケット六法等)。
教科書は、第1回目の講義において指示する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	30
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	70
その他	

【成績評価に関する補足】

期末試験70%、レポート課題や学習意欲(授業中への積極的な参加)30%、合計100%で評価する。
到達目標1から4については、期末試験やレポートで確認する。

○成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
切詰 和雅	金曜	2限	人文社会科学部棟2階、切詰研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
企業法演習	Business Law (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G26	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
科目区分等	
平成27年度以降	大学院科目
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	81596721
ナンバリングコード2	81566721
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	切詰 和雅	人文社会科学部	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

授業の目的【COURSE AIMS】

会社に関する法的問題について、参考文献を収集し理解を深めたうえで、検討する能力を身につける。

--

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

会社法に関する判例を取り扱います。
 1つの判決につき、2, 3回程度、授業を行うことになろうかと思えます。1. 会社の設立に関する判例、2. 株式に関する判例、3. 株主総会に関する判例、4. 取締役・取締役会に関する判例について、順次取り扱います。なお、その時々実際に起こっている問題について、問題の所在を明らかにし、検討することもあります。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	会社に関する法的問題について、適切な文献を検索、収集することができる。
2	会社に関する法的問題について、判例・学説を自分の言葉で説明することができる。
3	会社に関する法的問題について、理論的根拠(他説への批判、自説への批判に対する反批判等)を示して、私見を述べるができる。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

会社法、企業

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

民法、会社法の基礎知識が必要

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例①の報告(事実・判旨の理解)	
第2回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例①の報告・検討	
第3回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例①の報告・検討・解説	
第4回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例②の報告(事実・判旨の理解)	
第5回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例②の報告・検討	
第6回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例②の報告・検討・解説	
第7回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例③の報告(事実・判旨の理解)	
第8回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例③の報告・検討	
第9回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例③の報告・検討・解説	
第10回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例④の報告(事実・判旨の理解)	
第11回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例④の報告・検討	
第12回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例④の報告・検討・解説	
第13回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例⑤の報告(事実・判旨の理解)	
第14回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例⑤の報告・検討	
第15回	担当教員	切詰 和雅	
	授業内容	判例⑤の報告・検討・解説	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

授業内容についての予習(文献の収集と理解)
課題(レポート等)の作成

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

[必須]六法(コンパクト六法、ポケット六法等)。
教科書は、第1回目の講義において指示する。

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	
その他	

【成績評価に関する補足】

課題(レポート等)や学習意欲(授業中への積極的な参加)、合計100%で評価する。
到達目標1から3については、課題(レポート等)や授業における学習態度で確認する。)

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
切詰 和雅	金曜	2限	人文社会科学部棟2階、切詰研究室

【オフィスアワーに関する補足】

要予約

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

2024年度 シラバスフォーマット(2024 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
現代日本語演習	Contemporary Japanese (Seminar)
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
科目区分等	
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
ナンバリングコード6	
ナンバリングコード7	
ナンバリングコード8	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	和田 美砂子	非常勤講師	
2			
3			
4			
5			

授業実施方法(必須 required)

<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ	<input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン
<input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ	<input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面
<input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ	<input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部
<input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型	<input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面
<input type="checkbox"/> 調整中	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

日本語アカデミック・ライティング

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Academic Writing in Japanese

授業の目的【COURSE AIMS】

修士論文執筆に必要な基礎知識を身につける。
自分の論文の構成を考え、実際に(部分的に)書いてみる。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

授業の概要【COURSE SUMMARY】

日本語による論文執筆のための基礎的な知識を身に付けるとともに、それぞれの修士論文執筆につながる演習をおこなう。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	日本語による論文執筆に必要な表現やルールを理解する。
2	基本的な論文の構成を理解する。
3	自身の論文の構成を作る。
4	
5	
6	
7	
8	

キーワード【KEYWORD】

日本語論文作成、アカデミックライティング、現代日本語

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

日本語能力検定試験N2以上の日本語レベルを有していること。
自身の修士論文執筆を想定し、実践的に取り組む姿勢を求めます。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

初回授業時に講師との連絡方法などを説明します。

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	オリエンテーション/文章の特徴1	
第2回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	文章の特徴2 文体・話し言葉書き言葉	
第3回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	文章の特徴3 パラグラフライティング	
第4回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	論文の構成、課題1の説明	
第5回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	事実と意見 引用のルール	
第6回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	課題1の共有	
第7回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	序論1 研究テーマ・背景説明	

第8回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	序論2 問題提起、論点の提示	
第9回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	序論3 論文目的の提示、研究行動の提示、課題2の説明	
第10回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	本論1 論拠提示	
第11回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	本論2 結論提示・行動提示	
第12回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	ピアリーディング・ピア評価、課題3の説明	
第13回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	結び1 全体のまとめ	
第14回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	結び2 評価・展望提示	
第15回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	ピアリーディング・ピア評価	
第16回	担当教員	和田 美砂子	
	授業内容	期末試験レポート	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

予習としてテキストの該当箇所を熟読し、疑問点や目的意識を持って授業に臨むことを期待します。(該当箇所は授業中に指示します)
 期末レポートのほかに、学期期間中に3回の課題を出しますので、自分の論文執筆を想定して積極的に取り組んでください。

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書 大学生と留学生のための論文ワークブック 浜田麻里・平尾得子・由井紀久子著 くろしお出版
 参考書 留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック 二通信子 他 著 東京大学出版会

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

評価方法	比重・配分
小テスト	
小レポート	3回、各20%
学習意欲・授業参加度	20%
中間試験	
中間レポート	
期末試験	
期末レポート	20%
その他	

【成績評価に関する補足】

--

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

氏名	曜日	時間	場所
和田 美砂子			

【オフィスアワーに関する補足】

授業後に教室にて対応、またはメールでも対応します。

この授業とSDGsの関連

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業実施方法

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ | <input type="checkbox"/> 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> オンライン非同期型のみ | <input type="checkbox"/> 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部 |
| <input type="checkbox"/> オンライン同期型+非同期型 | <input type="checkbox"/> 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が開講回数の過半数）、一部対面 |
| <input type="checkbox"/> 調整中 | |

授業形態

- 講義形式が中心
- 口頭での質疑やディスカッションを含む
- 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
- その他

【授業形態(その他)】

使用するLMS

- | | | |
|--|--|-------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> KULAS | <input type="checkbox"/> Microsoft Teams | <input type="checkbox"/> Zoom |
| <input checked="" type="checkbox"/> Moodle | <input type="checkbox"/> Cisco Webex | <input type="checkbox"/> その他 |